

レタル人ヲ逮捕シ而テ警察官ニ引致シ又ハ交付スルヲ得而テ第十
 一條(同章)ニ依テ夜中何レノ告訴スヘキ罪ヲ犯スヲ發見サレタル人ニ
 付テ同一ノ權カ附與サレタリ此條ハ假令ヘ第四世ジョーシ帝即位第
 九年ノ條例法第六十九章及ゾ井クトリヤ女帝即位第十四年及第十五
 年ノ條例法第十九章ニ於テ夜ハ相異ナル時ニ於テ始終スルト解釋サ
 レタリト雖モ該第四世ジョーシ帝即位第九年ノ條例法第六十九章ノ
 第一條又ハ第九條ニ對スル罪ヲ犯ス人ニ適用スルト認ラレタリキ
 第二權カ行ハル、方法ノ合法ニ付テ——若シ甲ノ村落ノ警察官カ令
 狀ナクシテ乙ノ村落ノ騷擾ヲ鎮ント企テ而テ抵抗サレ殺害サレタレ
 ハ是ハ只故殺ナリ如何トナレハ該官ハ斯ノ如キ場合ニ於テハ只甲ノ
 村落内ニシテ權ヲ有シタレハナリ又若シ郡長配下ノ官吏カ適當ナル
 郡ノ外ニ在テ令狀ヲ執行セント企テ而テ抵抗サレ殺害サレタレハ是

ハ只故殺ナリ然レモゾ井クトリヤ女帝即位第十一年及第十二年ノ條
 例法第四十二章第十條ニ依テ警察官及他ノ治安官吏ハ若シ令狀ノ執
 行サル、場所カ之ヲ授與シタル又ハ之ニ裏書シタル官吏ノ管轄内ニ
 アラハ該官等ノ各自ノ管轄外ニ令狀ヲ執行スルヲ得若シ官吏カ日
 曜日ニ於テ人ノ逮捕ヲ企テ(反逆、重罪又ハ治安ノ紊亂ニ對スル)アラ
 スシテ[第二世チャールス帝即位第二十九年ノ條例法第七章第六條ヲ
 見ルヘシ]而テ抵抗サレ殺害サレタレハ是ハ只故殺タルヘシ、甲ヲ逮捕
 スヘキ令狀ヲ有セシ警察官カ之ヲ甲ノ子ニ附與セシニ其子ハ甲ヲ逮
 捕セント企テ甲カ當時其手ニ携ヘシ小刀ヲ以テ刺サレタリキ是ハ警
 察官ノ未タ見ユル間ニシテ但一里ノ四分ノ一隔リタル時ナリキ子ハ
 甲ヲ逮捕スル權ヲ有セスト認ラレタリキ
 第三、死者ノ權又ハ企ニ付テ被告人ノ知了ニ付テ——何レノ官吏カ其

職務ノ正當ノ執行ノ際或ハ私人カ争鬪ヲ鎮メ又ハ重罪犯人ヲ逮捕セ
 ントシテ抵抗サレ而テ殺害サレタル時若シ殺害者ハ官吏ノ職務又ハ
 私人ノ企テ陽ニ死者ヨリ又ハ陰ニ狀況ヨリ知リシ事カ顯著ナレハ殺
 害ハ謀殺ナリ若シ殺害者ハ此點ニ於テ不知ナリシ事カ顯著ナレハ是
 ハ只故殺ナリ副郡長カ其職務ノ告知ヲ聊モ爲サスシテ早朝一紳士ノ
 寢室ニ突入セシニ紳士ハ之ヲ知ラスシテ怒テ其劍ヲ以テ之ヲ傷ケ而
 テ殺害セシ場合ニ於テ是ハ故殺ト認ラレタリキ然レモ副郡長又ハ警
 察官カ令狀ヲ示ス場合又ハ該長等カ官吏ト被告人ニ知ラレタル場合
 即チ例ヘハ被告人カ「近寄ルナ予ハ汝ヲ充分ニ好ク知ル來ラハ來レ汝
 危険ヲ冒シテ來レ」ト言シ時若シ此後官吏カ殺害サレタレハ是ハ謀殺
 タルヘシ若シ警察官カ自己ノ村落内ノ何レノ争鬪ヲ防止センカ爲ニ
 關涉セハ若シ該官カ之ヲ警察官ト知ル住民ノ一人又ハ他ノ人ニ殺害

サレタレハ是ハ謀殺タルヘシ若シ之ヲ知ラサル他ノ地方ノ人ニ殺害
 サレタレハ是ハ故殺ナリ又若シ數人中ノ一人カ之ヲ警察官ト知ラハ
 是ハ此一人ニ於テハ謀殺其他ノ者ニ於テハ故殺タルヘシ若シ警察官
 カ治安ヲ命令シ又ハ其官棒ヲ示サハ是ハ其權ノ充分ナル暗示ナルカ
 如シ而テ斯ノ如キ場合ニ於テ死者ノ警察官トシテノ補任ヲ証明スル
 ハ緊要ニアラス死者ハ警察官トシテ職務ヲ行フニ習練セリトノ証明
 ニテ足レリ然レモ私人カ關涉スル時ハ明白ニ其企テ告示セサル可ラ
 ス否ラサレハ之ヲ殺害スルハ只故殺タルヘシ令狀ヲ執行スル爲ニ住
 居家屋ノ外部ノ戸カ毀タル、トテ得ル場合即チ例ヘハ告訴狀ニ付テ
 拘留狀、贓物ヲ搜索スル令狀、罰金ヲ徴収スル爲ノ官吏ノ令狀、何レノ特
 別ノ罪ノ爲ニ逮捕スヘキ官吏ノ令狀ノ場合ニ於テ又ハ正當ニ逮捕サ
 レタル人カ家屋ニ逃入ル場合、反逆又ハ重罪ヲ犯シ又ハ他人ヲ危険ニ

傷害シタリト知ラレタル人カ家屋ニ逃入ル場合、争闘カ家屋内ニ爲サレ而テ警察官カ之ヲ鎮メ又ハ犯人ヲ捕ヘント要スル場合、夜中ノ何レノ不當ナル時ニ於テ家屋内ニ特ニ旅舎、酒店又ハ麥酒店内ニ亂飲又ハ喧嘩アリテ警察官カ之ヲ鎮メント欲スル場合、及強入又ハ強留ノ場合ニ於テ(然レモ差押令狀又ハハベル、フアシアス、ポッセツシヨ子ム(直者タル原上回復セシ家屋ニ之ヲ入ラシ)ヲ除ク外民事々件ノ令狀ノ執行ニハ無キ)ハ總テ外部ノ戸カ毀タル、以前ニ家屋内ニ入ルヲ許ス事ノ請求又ハ之ニ同シ事及其拒絕ナル可ラス否ヲサレハ若シ官吏カ殺害セラルト雖モ是ハ只故殺タルヘシ

然レモ上文ニ只故殺ト記載サレタル總テノ場合ニ於テ若シ殺害者ニ於テ明白ナル害心ノ證據アラハ殺害ハ謀殺タルヘシ

官吏其他ノ者ニ於テ殺害スル事——裁判官吏カ其職務ヲ行ハントシ

テ人ヲ殺害スル場合ニ於テハ是ハ狀況ニ隨テ赦罪スヘキ殺害又ハ故殺又ハ謀殺ナリ

第一、裁判官吏カ其職務ヲ正當ニ行フ際抵抗サル、場合ニ於テハ該官ハ腕力ヲ以テ腕力ヲ抗拒スルコトヲ得而テ若シ斯ク爲ス事ニ於テ該官カ抵抗スル者ヲ殺害セハ是ハ赦罪スヘキ殺害ナリ而テ是ハ民事ノ事件ニ於ルモ刑事ニ於ルモ同一ナリ且斯ノ如キ官吏ニ助力スル人ニ付テモ亦同シ故ニ若シ治安官吏カ甲ニ對シテ重罪ノ爲ニ正當ナル令狀ヲ有セハ或ハ若シ甲カ重罪ノ爲ニ告訴サレタレハ或ハ若シ甲カ追呼サルレハ是等ノ場合ニ於テ若シ甲カ抵抗シ而テ争闘中官吏或ハ之ヲ助クル又ハ共ニ追呼スル何レノ人ニ殺害サルレハ此殺害ハ赦罪スヘキモノナリ又若シ私人カ其目前ニ於テ重罪ヲ犯ス者ヲ捕ヘント企テ又ハ争闘ヲ鎮シカ爲ニ關涉シ而テ抵抗サレ而テ抵抗スル者ヲ殺害セ

ハ是ハ亦赦罪スヘキ殺害ナリ此赦罪スヘキ所以ハ只自身保護殺ノ場合ニ於ルカ如ク官吏又ハ私人カ退逃セサル可ラサル事ナキカ故ニ自身保護ノ主義ノミニ依ルニアラス但シ此主義ト法律ノ命令セル義務ヲ果スノ必要トニ是レ依ルナリ然レモ殺害ヲ爲スノ明白ナル必要ナル可ラス如何トナレハ若シ官吏カ抵抗ノ終タリシ後ニ殺害セハ又ハ若シ官吏等ニ於テ爲シタル暴虐ノ正當ナル必要アラサレハ殺害ハ少クモ故殺タルヘケレハナリ此等ノ場合ニ於テ官吏又ハ私人ヲ赦罪スル爲ニハ官吏又ハ私人カ當時法律ノ命令セル義務ヲ正當ニ果スノ所爲ニシテ若シ殺害サレタレハ謀殺タルヘキカ如キ狀況ニアラサル可ラサル事モ亦緊要ナリ如何トナレハ若シ其場合ノ狀況ハ官吏又ハ私人ヲ殺害スルハ只故殺タルヘカリシカ如キモノタラハ抵抗スル者ヲ殺害スルハ官吏又ハ私人ニ於テ少クモ故殺タルヘケレハナリ

第二、若シ監獄ニ在ル又ハ之ニ赴ク囚人カ典獄又ハ官吏ヲ襲撃シ而テ該典獄又ハ官吏カ自身ノ保護ノ爲メ囚人ヲ殺害セハ是ハ逃走ヲ防カシカ爲ノ赦罪スヘキ殺害ナリ

第三、人ヲ逮捕スル正當ノ權ヲ有スル官吏又ハ私人カ逮捕セント企テ而ルコト人カ抵抗ヲ爲サシテ逃走シ又ハ抵抗シ然ル后逃走シ而テ其追跡中官吏又ハ私人ニ殺害サレタル場合ニ於テ若シ人カ告訴サレタル罪ハ反逆又ハ重罪又ハ危険ナル創傷ニシテ殺害サレサレハ逮捕サレ能ハサリセハ殺害ハ赦罪スヘキモノナリ然レモ若シ只治安ノ紊亂其他ノ輕罪ノミヲ以テ告訴サレタレハ或ハ若シ逮捕カ民事ノ訴訟ニ於テ企テタリセハ或ハ若シ海兵募集隊カ其隊ヨリ脱走スル水士其他ノ人ヲ殺害セハ此等ノ場合ニ於ル殺害ハ實ニ恐クハ殺害スヘカラサル又ハ殺害スヘク企テサル方法即チ逃走者ノ脚ヲ鉤ルヲ尋常ノ

杖又ハ恐ラクハ殺害スヘカラサル器具ヲ以テ之ヲ打撃スルヲ等ニ依テ爲サレシ(此場合ニ於テハ殺害ハ大概只故殺タルヘシ)ニアラサレハ謀殺タルヘシ密商スル船内ニ發銃シテ爲シタル殺害ニ付テハヴヰットリヤ女帝即位第十六年及第十七年ノ條例法第百七章第二百四十九條ヲ見ルヘシ

第四、暴動又ハ反逆ノ集合ノ場合ニ於テハ兇徒ヲ解散セシメントスル官吏ハ之ヲ殺害スルモ若シ暴動カ否ラヌシテハ鎮ヲレ能ハサレハ習慣法ニ於ルモ亦第一世シヨリシ帝即位第一年ノ暴動條例法第五章ニ依ルモ赦罪スヘキモノナリ

第五、犯罪人カ其刑ノ言渡ニ從テ相當ノ官吏ニ於テ刑ヲ執行サレタル場合ニ於テハ是ハ赦罪スヘキ殺害ナリ然レモ若シ是カ何レノ他ノ人ニ於テ爲サレタレハ或ハ例ヘハ官吏カ絞ニ處セラレタル者ヲ斬首シ

又ハ斬ニ處セラレタル者ヲ絞フル如ク刑ノ言渡ニ背テ爲サレタレハ是ハ謀殺ナリ

謀殺ノ陰謀

條例法

ヴヰットリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第四條 何レノ人ヲ謀殺セント陰謀シ同盟シ及一致スル總テノ人ハ其人カ女帝陛下ノ臣民タルト否ラサルトニ拘ハラヌ且其人ハ女帝ノ領地内ニ在ルト否ラサルトニ拘ハラヌ及何人ト雖モ何レノ他人ヲ謀殺スルヲ何レノ人ニ請求シ獎勵シ説諭シ又ハ説諭セントスル者ハ其他八カ女帝陛下ノ臣民タルト否ラサルトニ拘ハラヌ且其他人ハ女帝ノ領地内ニ在ルト否ラサルトニ拘ハラヌ輕罪ノ罪アル者タルヘシ而テ之ニ付テ決罪サルレハ裁判所ノ裁量ヲ以テ十年ヨリ多ラヌ三年ヨリ

少ラサル何レノ期限ノ懲役或ハ苦役アル又ハナキ二年ニ超過セサル
何レノ期限ノ禁獄ニ處セラレヘキ責アル者タルヘシ

告訴狀

即チ中央刑事裁判所——我女帝陛下ノ爲ノ陪審員ハ甲某丙某及丁某
カ我教主紀元何年何月何日乙某ナル者ヲ惡意ヲ以テ故意ヲ以テ及其
豫謀ノ害心ヨリ殺害シ及謀殺センカ爲ニ斯ノ如キ場合ニ於テ爲サレ
及設ラレタル條例法ノ制定ニ反シ及我女帝陛下ノ治安帝權及威權ニ
反シテ不正ニ及兇惡ニ陰謀シ同盟シ及一致シタリシ事ヲ其宣誓ノ上
訴フ乙某ヲ謀殺スルヲ被告人ノ何レノ一人又ハ何レノ他ノ人ニ請求
シ獎勵シ説諭シ又ハ説諭セントシ又ハ建議シタルヲ以テ被告人又
ハ其何レノ一人ヲ告訴スル告示ヲ若シ事實カ斯ノ如キ告訴ヲ保證セ
ハ附加スルヲ得

輕罪十年ヨリ多ラス三年ヨリ少ラサル懲役或ハ苦役アル又ハナキ二
年ニ超過セサル禁獄少シトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年
ノ條例法第百章第四條

證據

此正條ハ新條ナリ此條例法頒布前ハ謀殺ノ陰謀ハ英國ニ於テハ只罰
金及禁獄ヲ以テ罰セラレヘキ習慣法ニ於ル輕罪ナリキ場合ニ隨テ被
告人ノ間ノ又ハ被告人ト他ノ人トノ間ノ陰謀ヲ證明スヘシ(第二編第
三部ヲ見ルヘシ)而テ陰謀ノ目的ハ乙某ヲ謀殺スルニアリシ事ヲ証明
スヘシ乙某ハ女帝ノ臣民ナリシ乎又ハ否ラサリシ乎且女帝ノ領地内ニ
アリシ乎又ハ否ラサリシ乎ハ緊切ニアラサルナリ然レモ陰謀ハ英國
又ハ愛國ニ於テ企テレサルヘカラサリキ而テ其關係人ハ女帝ノ生得
ノ臣民又ハ當時英國ノ國帝ニ忠義ヲ盟ヒタル人ヲラサルヘカラサリ

キ(第一編第一部第一章第三節第一項ヲ見ルヘシ)

謀殺ノ試計

謀殺スル意ヲ以テ毒ヲ施ス事創傷スル事等

條例法

少井トリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第十一條——何人ト雖モ謀殺ヲ爲ス意ヲ以テ何レノ毒又ハ他ノ危害物ヲ何レノ人ニ施シ又ハ施サシメ又ハ飲マシメ或ハ如何ノ方法ヲ以テ何レノ人ヲ創傷シ又ハ何レノ重キ身体上ノ傷害ヲ被ラヌル者ハ重罪ノ罪アル者タルヘシ而テ之ニ付テ決罪サルレハ裁判所ノ裁量ヲ以テ終身又ハ三年ヨリ少ラサル何レノ期限ノ懲役或ハ苦役アル又ハナキ及獨囚アル又ハナキ二年ニ超過セサル何レノ期限ノ禁獄ニ處セラレヘキ責アル者タルヘシ

少井トリヤ女帝即位第十四年及第十五年ノ條例法第十九章第五條——重罪ニ對スル訊問上輕罪ニ對スル決罪——若シ謀殺又ハ故殺ノ外何レノ重罪ノ何レノ告訴ノ訊問上告訴狀カ被告人ハ何レノ人ヲ創傷セシ事ヲ辨スル場合ニ於テ陪審官カ被告人ハ該狀中ニ告訴サレタル創傷ニ付テ罪アル者タルコトヲ満足スヘシト雖モ被告人ハ該狀中ニ告訴サレタル重罪ニ付テ罪アル者タル事ヲ満足セサレハ然ル時及各ノ斯ノ如キ場合ニ於テハ陪審官ハ斯ノ如キ重罪ニ付テハ被告人ヲ放免シ而テ不正ノ創傷ニ付テ罪アル者ト之ヲ見出スコトヲ得而テ之ニ依テ斯ノ如キ被告人ハ創傷ノ輕罪ニ對スル告訴狀ニ依テ決罪サレタリシト同様ニ罰セラレヘキ責アル者タルヘシ

謀殺スル意ヲ以テ毒ヲ施シタル告訴狀

起文ハ前文謀殺ノ陰謀ノ部ノ告訴狀ノ如シ——乙某ナル者ニ白樂石

〇〇四

ト稱スル或ル死ヲ致スヘキ毒(何レノ毒又ハ他ノ危害物)ノ多量即チ二
勿チ當時之ニ依テ惡意ヲ以テ故意ヲ以テ及其豫防ノ害心ヨリ該乙某
ヲ殺害シ及謀殺スル意ヲ以テ斯ノ如キ場合ニ於テ爲サレ及設ラレタ
ル條例法ノ制定ニ反シ及我女帝陛下ノ治安帝權及威權ニ反シテ惡意
ヲ以テ及不正ニ施シ(何レノ人ニ施シ又ハ施サシメ又ハ飲シメ)タリシ
云々 被告人ハ云々ノ多量ヲ乙某ニ施サシメタリシ及乙某ニ飲
シメタリシ事ヲ記シタル告示ヲ附加スヘシ而テ若シ毒ノ記載カ疑ハ
シケレハ異ナル方法ヲ以テ之ヲ記載スル告示ヲ附加スヘシ而テ之ヲ
上文所陳ノ陪審員ニ知ラレサル或ル危害物ト記シタル一告示ヲ附加
スヘシ告示狀ハ施サレタル物ヲ毒物又ハ危害物ト辨セサル可ラス而
テ是故ニ牛乳ト混合シタル海綿ヲ施シタル告示狀ニシテ海綿ヲ危害
物ト辨セサルモノハ不正ト認ラレタリキ若シ毒カ乙某ノ爲ニ企ラレ

タリシ乎否ノ何レノ疑アラハ意ヲ一般ニ謀殺ヲ行フ爲ノモノト記シ
タル告示ヲ附加スヘシ 重罪終身又ハ三年ヨリ少テサレ懲役或ハ苦役アル又ハナキ及獨囚(獨
囚ハ何レノ一回一ヶ月ニ超過セス又何レノ一年間三ヶ月ニ超過セス、
ヴヰクトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第七
十條)アル又ハナキ二年ニ超過セサル禁獄、ヴヰクトリヤ女帝即位第二
十四年及第二十五年ノ條例法第百章第十一條、此條中ニ記載サレタル
罪ハ何レモ何レノ四季裁判期ニ於テ訊問サレヘキモノニアラス、ヴヰ
クトリヤ女帝即位第五年及第六年ノ條例法第三十八章第一條

證據

一〇四

被告人ニ於テ告訴人ニ毒ヲ施シタルヲ告訴狀ニ記サレタル如ク証
明スヘシ、下婢カ其主人ノ爲ニ朝餐ヲ準備シ伽俳ノ中ニ礮石ヲ投シ而

テ后其主人ニ該婢カ其主人ノ爲ニ伽俳ヲ準備シタリシ事ヲ告ケ而テ其主人カ之ヲ飲タリシ場合ニ於テ判事パークハ是ヲ條例法ノ意味内ノ施毒ト認タリキ又被告人カ故意ヲ以テ乙ニ藥品トシテ施ス爲ニ毒ヲ甲ニ附與セシニ甲ハ乙ニ施スヲ怠リテ是カ偶然幼者ヨリ乙ニ附與サレシ場合ニ於テ是ハ被告人カ自己ノ手ヲ以テ之ヲ乙ニ附與セシト同様被告人ニ於テ施毒ト認ラレタリキ被告人カコルロシヅ、サブリメ
 一ト(毒藥)名砂糖ニ混和シテ之ヲ包ミタウンホープ(地)名ノドース夫人ニ宛テ一商家ノ計算人ニ委託セシニ計算人ハ之ヲ過テデーヴヰス夫人ニ送致セシニ該夫人ハ此砂糖ヲ用ヰシ場合ニ於テ判事ガ一子一ハ之ヲ施毒ト認タリキ如何トナレハ假令ヘ是ハドース夫人ノ爲ニ企ラレシト雖モ然レモ是カデーヴヰス夫人ニ送致サレシカ故ニデーヴヰス夫人ノ爲ニ企ラレシト同様ニ條例法内ノ施毒ナレハナリ然レモライアン

八ノ事件ニ於テ判事パークハ判事オルダーソンニ商議ノ後甲ヲ謀殺スル意ヲ以テ毒ヲ甲ニ飲マシメタル告訴狀ハ毒カ假令ヘ甲カ飲タリト雖モ他ノ人ノ爲ニ企ラレシコト示ス証據ニ依テ維持サレストノ意見ヲ陳述シ且リユーイス(人)事件ノ判決ノ當否ヲ疑ヘリ而テ是故ニ被告人カ決罪サレタリシ後ニ該判事ハ意ヲ一般ニ謀殺ヲ行フモノト告訴スル告訴狀ヲ更ニ呈出スヘキヲ指令セリ此告訴狀ニ依テ被告人ハ再ヒ訊問サレ決罪サレ而テ刑ヲ言渡サレタリキ然レモミス(人)ノ事件ヲ見ルヘシ又謀殺スル意ヲ此意カ含蓄セラル、コトヲ得ル狀況ニ依テ証明スヘシ異ナル時ニ於テ毒ヲ施シタルノ証據ハ意ヲ示ス爲ニ呈セララル、コトヲ得被告人カ幼者ヲ謀殺スル意ヲ以テコクラス、インシカス(毒草)名ノ實ニ個ヲ皮ノ儘與ヘタリキ其核ハ毒ナレモ皮ハ否ラス且胃中ニ於テ溶解セサルヘシ而テ是故ニ害ナキナリ是ハ本條内ノ謀殺ス

四〇四

ル意ヲ以テノ施毒ト認ラレタリキ

謀殺スル意ヲ以テ創傷シタル告訴狀

起文ハ前文謀殺ノ陰謀ノ部ノ告訴狀ノ如シ——乙某ナル者ヲ云々前
項ノ告訴狀ニ於ルカ如クノ意ヲ以テ惡意ヲ以テ及不正ニ創傷シ(刺シ
切り又ハ創傷シ)タリシ云々、意ヲ謀殺ヲ行フモノト告訴スル告
示及不具ニスル等ノ意ヲ以テ創傷シタル告示ヲ附加スヘシ
重罪前項ノ例ヲ見ルヘシ

証據

被告人ハ乙某ヲ創傷セシコトヲ證明スヘシ創傷カ被ラセラレシ器具又
ハ方法ハ記サル、ヲ要セス而テ若シ記サレタリト雖モ告訴人ヲ斯ノ
如キ方法ニ依テノ創傷等ヲ證明スヘシ制限セサルヘシ刺ス事、切ル事
其他ニ拘ハラス如何ノ方法ニ依テノ創傷ト雖モ此條例法内ノ告訴狀

五〇四

ヲ維持スヘシ(ヅ)井クトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例
法第百章第十一條意ヲ第一編第二部第一章中ニ指令サレタル如クニ
證明スヘシ告訴人カ實際生命ニ關スル部分ニ創傷ヲ被ラセラレサル
可ラサルコトハ緊要ニアラス如何トナレハ問題ハ創傷ハ如何ナル乎ニ
アラスシテ如何ノ創傷カ企ラレシ乎ニアレハナリ若シ意カ證明サレ
サレハ被告人ハ不正ニ創傷スルコトニ付テ決罪セラル、コトヲ得而テ之
ニ依テ被告人ハ不正ノ創傷ノ輕罪ニ對スル告訴狀ニ付テ決罪サレタ
リシト同様ニ詳言スレハ三年ノ懲役又ハ二年ニ超過セサル苦役アル
又ハナキ禁獄ヲ以テ罰セラル、コトヲ得(ヅ)井クトリヤ女帝即位第十四
年及第十五ノ條例法第十九章第五條ヲ見ルヘシ)然レモ被告人ハ重
罪ニ對スル告訴狀上輕罪ニ付テ有罪ト辨論スルコトヲ得ス如何トナレ
ハ重罪ニ付テノ放免ハ陪審官ノ所爲タルヘケレハナリ重罪ノ爲ニ數

六〇四

人ニ對スル告訴狀ニ付テ此條ニ依テ一人ハ重罪ニ付テ他ノ一人又ハ
數人ハ輕罪ニ付テ決罪セラル、コヲ得ルカ如シ

謀殺スル意ヲ以テ毒害シ射撃シ溺ラシ又ハ其他ノ事ヲ爲サント
企ル事

條例法

四條——何人ト雖モ謀殺ヲ行フ意ヲ以テ何レノ毒又ハ他ノ危害物ヲ
何レノ人ニ施サント企テ又ハ施サシメ又ハ飲シメント企ル者或ハ何
レノ人ニ對シテ射撃スル者又ハ裝藥セル銃器ノ搬機ヲ曳ク又ハ何
レノ他ノ方法ヲ以テ何レノ人ニ對シテ發射セント企ル者或ハ何レノ
人ヲ溺ラシ、縊リ又ハ呼吸ヲ塞ント企ル者ハ何レノ身体上ノ傷害カ爲
サレタルト否ラサルトニ拘ハラズ重罪ノ罪アルモノタルヘシ而テ之

ニ付テ決罪サルレハ裁判所ノ裁量ヲ以テ終身又ハ三年ヨリ少ラサル
何レノ期限ノ懲役或ハ苦役アル又ハナキ及獨囚アル又ハナキ二年ニ
超過セサル何レノ期限ノ禁獄ニ處セラレヘキ責アル者タルヘシ

第十九條——裝藥セル銃器如何——火藥又ハ何レノ他ノ爆發物及彈
丸、散彈、スラッグ（長圓形又ハ楕圓形）又ハ他ノ毀傷物ヲ銃身内ニ填メラレヘ
キ何レノ小銃、拳銃又ハ他ノ銃器ハ假令ヘ之ヲ發射スル意カ適當ナル
プリミシ（銃身内ノ火藥ニ火ヲ通スル火）ノ缺乏ニ依リ又ハ何レノ他
ノ原因ニ依テ徒勞ニ屬スヘシト雖モ此條例法内ノ裝藥セル銃器ト思
量セラレヘシ

云々ノ意ヲ以テ毒害セント企タル告訴狀

七〇四

起文ハ前文謀殺ノ陰謀ノ部ノ告訴狀ノ如シ——乙某ナル者ニ云々（前
項ノ例ニ於ルカ如ク）ノ意ヲ以テ白礬石ト稱スル或ル死ヲ致スヘキ毒

八〇四

(何レノ毒又ハ他ノ危害物)ノ多量即チ三匁ヲ惡意ヲ以テ及不正ニ施サント企施サント企又ハ施サシメ又ハ飲シメント企タリシ云々、
被告人カ毒ヲ乙某ニ施サシメント企シ事及飲シメント企シ事ヲ告訴スル告示ヲ附加スヘシ

重罪、終身又ハ三年ヨリ少ラサル懲役或ハ苦役アル又ハナキ及獨囚(獨囚ハ何レノ一回一ヶ月ニ超過セス又何レノ一年間三ヶ月ニ超過セス、ヅ井クトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第十四條)アル又ハナキ二年ニ超過セサル禁獄、ヅ井クトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第十四條、此罪ハ何レノ四季裁判期ニ於テ訊問サレヘキモノニアラス、ヅ井クトリヤ女帝即位第五年及第六年ノ條例法第三十八章第一條

證據

毒又ハ他ノ危害物ヲ施サントノ意ヲ告訴狀ニ記サレタル如クニ証明スヘシ、ユツドマン(人名)事件ニ於テ記サレタル狀況ハ必ス上文ノ告示ヲ維持スヘシ意ヲ前項ノ例ニ於ルカ如ク証明スヘシ身体上ノ傷害カ爲サレタルト否ラサルトハ緊切ニアラサルナリ毒ヲ他人ニ施サシムル指令ヲ以テ若シ施サレタレハ之ヲ施シタル代人ハ獨リ正犯タルヘキ狀況ニ依テ之ヲ代人ニ交付スルコトハ施サントスル意ニアラサルヘシ但シ現條例法中ニ始テ發見サレヘキ施サシメ又ハ飲シメント企ルナリ言語内ニ入ルヘキハ必然ナリ

謀殺スル意ヲ以テ溺ラシ又ハ他ノ事ヲ爲サント企タル告訴狀

起文ハ前文謀殺ノ陰謀ノ部ノ告訴狀ノ如シ——惡意ヲ以テ及不正ニ

乙某ナル者ヲ該甲某ノ兩手ノ内ニ捕ヘタリ而テ惡意ヲ以テ及不正ニ

九〇四

該乙某ヲ多量ノ水アル池中ニ投入レ及推入レタリ而テ之ニ依テ當時

惡意ヲ以テ故意ヲ以テ及其豫謀ノ害心ヨリ該乙某ヲ殺害シ及謀殺スル意ヲ以テ斯ノ如キ場合ニ於テ爲サレ及設ラレタル條例法ノ制定ニ反シ及我女帝陛下ノ治安帝權及威權ニ反シテ惡意ヲ以テ及不正ニ該乙某ヲ溺ラシ及呼吸ヲ塞ント(溺ラシ呼吸ヲ塞メ又ハ縊ラント)シタリシ云々、 被告人ハ乙某ヲ溺ラサント企シトテ一般ニ告訴スル告示及意ヲ謀殺ヲ行フモノト告訴スル告示ヲ附加スヘシ

重罪、 ヲ井クトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第十四條前項ノ例ヲ見ルヘシ

證據

溺ラサントスル意ヲ告訴狀ニ記サレタル如ク證明スヘシ而テ意ヲ第一編第二部第一章中ニ指令サレタル如クニ證明スヘシ身体上ノ傷害カ證明サル、ト否ラサルトハ不緊切ナリ

謀殺スル意ヲ以テ射撃シタル告訴狀

起文ハ前文謀殺ノ陰謀ノ部ノ告訴狀ノ如シ——當時火藥及數個ノ鉛ノ散彈ヲ填メタル或ル小銃ヲ云々前項ノ例ニ於ルカ如クノ意ヲ以テ乙某ナル者ニ對シテ惡意ヲ以テ及不正ニ射撃シタリシ云々、 不具ニスル意等ヲ以テ射撃シタル告示ヲモ亦附加スヘシ

重罪、 ヲ井クトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第十四條前々項ノ例ヲ見ルヘシ

證據

告訴狀ニ記サレタル如クニ射撃ヲ證明スヘシ而テ小銃ハ火藥又ハ他ノ爆發物及彈丸散彈スラダ又ハ他ノ毀害物ヲ銃身内ニ填メラレシ事ヲ證明スヘシ(ヲ井クトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第十九條意モ亦第一編第二部第一章中ニ指令サレタル如クニ

二一四

證明スヘシシヨーンズ(人名)ノ事件ニ於テ判事パナソンハ第四世ウヰリヤム帝即位第七年及ゾヰトリヤ女帝即位第一年ノ廢止サレタル條例法第八十五章第三條(是ハ現今ノ條例法ト同一ノ言語ナリキ)ニ依レハ謀殺スル意ヲ証明スルニハ其意カ犯罪ノ當時被告人ノ心中ニ成立セシ事カ顯著タル可ラサル乎否或ハ若シ意ハ謀殺タルヘカリセハ死亡カ生シタリセハ充分ナルヘキ乎否テ疑ハシク思考スルカ如クナリキ然レモ意ハ若シ死亡カ生シタリセハ謀殺タルヘカリシ狀況ハ各人ハ其所爲ノ必然ノ結果ヲ企ルト見做サレサル可ラサルカ故ニ陪審官カ成立スル意ヲ推定スルコトヲ得ル善良ナル理由タルヘシト同氏ハ言ヒタリキ甲ヲ謀殺スル意ヲ以テ甲ニ對シテ射撃シタル告訴狀ニ付テ被告人ハ乙ニ對シテ射撃シ而テ之ヲ殺害セント企シニ過テ甲ニ對シテ射撃セシ事カ顯著ナリシ而ルニ判事リトルデルハ被告人カ甲ヲ謀殺スルヲ企テシ平否ヲ陳述スルヲ陪審官ニ委任シタリ而テ該被告人ハ乙ヲ謀殺スルヲ企テ甲ニ對シテ射撃セシトノ該官ノ發見ニ依テ放免ヲ指令シタリキ此事件ハ斯ク如キ人ヲ謀殺スル意ヲ以テ云々ナル言語アル第四世ヨーンズ帝即位第九年ノ條例法第三十一章ニ依テ出來セシ事ヲ記サ、ル可ラス然レモライアン(人名)ノ事件ニ付テ意ハ尙記サレタル如ク証明サレサル可ラス而テ是故ニ甲ヲ謀殺スル意ノ告白ハ假令ヘ甲カ射撃サレシト雖モ射撃ハ他ノ人ニ對シテ企ラレシ事カ顯著ナリセハ不充分ナルヘシトノ事カ今既ニ掲載セル判決ニ依テ知ラルヘシ然レモ被告人カ甲ヲ謀殺スル意ヲ以テ之ヲ傷ケタルコトヲ以テ告訴サレ而テ證據ニ於テ被告人ハ乙ヲ謀殺セント企テ而テ甲ヲ乙ト想像シテ射撃シ而テ傷ケシ事カ顯著ナリシ而テ陪審官ハ被告人カ乙ト想像シタルヲ以テ其對シテ射撃セシ人ヲ謀殺セント企シ事ヲ發

三一四

殺スルヲ企テシ平否ヲ陳述スルヲ陪審官ニ委任シタリ而テ該被告人ハ乙ヲ謀殺スルヲ企テ甲ニ對シテ射撃セシトノ該官ノ發見ニ依テ放免ヲ指令シタリキ此事件ハ斯ク如キ人ヲ謀殺スル意ヲ以テ云々ナル言語アル第四世ヨーンズ帝即位第九年ノ條例法第三十一章ニ依テ出來セシ事ヲ記サ、ル可ラス然レモライアン(人名)ノ事件ニ付テ意ハ尙記サレタル如ク証明サレサル可ラス而テ是故ニ甲ヲ謀殺スル意ノ告白ハ假令ヘ甲カ射撃サレシト雖モ射撃ハ他ノ人ニ對シテ企ラレシ事カ顯著ナリセハ不充分ナルヘシトノ事カ今既ニ掲載セル判決ニ依テ知ラルヘシ然レモ被告人カ甲ヲ謀殺スル意ヲ以テ之ヲ傷ケタルコトヲ以テ告訴サレ而テ證據ニ於テ被告人ハ乙ヲ謀殺セント企テ而テ甲ヲ乙ト想像シテ射撃シ而テ傷ケシ事カ顯著ナリシ而テ陪審官ハ被告人カ乙ト想像シタルヲ以テ其對シテ射撃セシ人ヲ謀殺セント企シ事ヲ發

見セシ場合ニ於テ裁判所ハ決罪ヲ正當ト認タリキ斯ノ如キ疑問ヲ避
ンカ爲ニハ告訴狀ハ常ニ意ヲ一般ニ謀殺ヲ行フモノト告訴スル一告
示ヲ含有セサル可ラス

云々ノ意ヲ以テ射撃セント企タル告訴狀

起文ハ前文謀殺ノ陰謀ノ部ノ告訴狀ノ如シ——當時火藥及一個ノ鉛
彈ヲ填メタル或ル拳銃(裝藥セル銃器ノ何レノ種類)ノ搬機ヲ曳テ(搬機
ヲ曳テ又ハ何レノ他ノ方法ヲ以テ)云々(前文謀殺スル意ヲ以テ溺ラシ
又ハ其他ノ事ヲ爲シタル告訴狀ノ例ニ於ルカ如ク)ノ意ヲ以テ惡意ヲ
以テ不正ニ乙某ナル者ニ對シテ該拳銃ヲ發射セント企タリシ云々、

謀殺ヲ行フ意ヲ告訴スル告示及不具ニスル意ヲ以テ射撃セント
企タル告示ヲ附加スヘシ告訴狀ハ最終ノ句中ニ拳銃ヲ上文所陳ノ如
ク裝藥サレタル該拳銃トシテ記載スルヲ要セス

重罪、ヅヰクトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百
章第十四條前文云々ノ意ヲ以テ毒害セント企タル告訴狀ノ部ノ刑罰
ヲ見ルヘシ

證據

被告人ハ拳銃(又ハ小銃)ヲ乙某ニ向ケ而テ搬機ヲ曳テ之ヲ乙某ニ對シ
テ發射セント企シ事ヲ證明スヘシ甲某ニ對シテ小銃ヲ發射セント企
タル爲ニ従前ノ條例法ノ一ニ依レル告訴狀ニ付テ小銃ハ裝藥サレシ
事カ顯著ナリシ然レモ該小銃ハ口藥ヲ備ヘラレサリシト陪審官ハ見
出シタリシニ判事ノ多數ハ之ヲ該小銃ハ搬機ヲ曳テ傷害ヲ爲スヲ
能スルカ如ク裝藥サレサリシトノ發見ニ均シト考量セリ而テ是故ニ
該小銃ハ條例法ノ意味内ノ裝藥サレシモノニアラストノ說ヲ作シタ
リキ又拳銃カ火藥及彈丸ヲ以テ裝藥サレシト雖モ火門ハ之カ恐ラシク

六一四

ハ發射サレ能ハサルカ如ク塞ケラレシ場合ニ於テ是ハ條例法ノ意味
内ノ裝藥セル銃器ト認ラレザリキ意ヲ第一編第二部第一章中ニ指令
サレタル如ク証明スヘシ

火藥等ノ爆發ニ依テ謀殺セント企ル事

條例法

グヰクトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第十
二條——何人ト雖モ火藥又ハ他ノ爆發物ノ爆發ニ依テ謀殺ヲ行フ意
ヲ以テ何レノ建物ヲ毀損シ又ハ損害スル者ハ重罪ノ罪アル者タルヘ
シ而テ之ニ付テ決罪サルレハ裁判所ノ裁量ヲ以テ終身又ハ三年ヨリ
少ラサル期限ノ懲役或ハ苦役アル又ハナキ及獨囚アル又ハナキ二年
ニ超過セサル何レノ期限ノ禁獄ニ處セラレヘキ責アル者タルヘシ
第六十四條——罪ヲ犯ス爲ニ火藥等ヲ製スル事——此條ハ第二編第

一部第一章第六節中ノ住居家屋等ヲ爆發スル事等ノ部ノ條例法部ノ
グヰクトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第九十七章
第五十四條ト同一ノ言語ナリ

告訴狀

起文ハ前文謀殺ノ陰謀ノ部ノ告訴狀ノ如シ——或ル爆發物詳言スレ
ハ火藥ノ爆發ニ依テ上文所陳ノ郡内ノ何々寺院区内ニ在ル或ル建物
ヲ當時之ニ依テ惡意ヲ以テ故意ヲ以テ及其豫謀ノ害心ヨリ乙某ナル
者ヲ殺害シ及謀殺スル意ヲ以テ斯ノ如キ場合ニ於テ爲サレ及設ラレ
タル條例法ノ制定ニ反シ及我女帝陛下ノ治安、帝權及威權ニ反シテ毀
損シ(毀損シ又ハ損害シ)タリシ云々(意ヲ謀殺ヲ行フモノト告訴スル告

示ヲ附加スヘシ)

七一四

重罪、終身又ハ三年ヨリ少ラサル懲役或ハ苦役アル又ハナキ及獨囚

八一四

(獨囚ハ何レノ一回一ヶ月ニ超過セス又何レノ一年間三ヶ月ニ超過セ
ス、ヅ井クトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第
七十條)アル又ハナキ二年ニ超過セサル禁獄、ヅ井クトリヤ女帝即位第
二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第十二條
此罪ハ何レノ四季裁判期ニ於テ訊問サレヘキモノニアラス、ヅ井クト
リヤ女帝即位第五年及第六年ノ條例法第三十八章第一條

證據

告訴サレタル所爲及惡意ヲ以テ其爲サレタル事ノ證明ニ付テハ第二
編第一部第一章第六節中ノ住居家屋等ヲ爆發スル事ノ部ノ證據ヲ見
ルヘシ
意ノ證明ニ付テハ前文謀殺スル意ヲ以テ毒ヲ施シタル告訴狀ノ部ノ
證據ヲ見ルヘシ

謀殺スル意ヲ以テ船ヲ毀損スル事
條例法

ヅ井クトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第十
三條——何人ト雖モ謀殺ヲ行フ意ヲ以テ何レノ船舶又ハ其部分又ハ
其綱具、船具又ハ器具又ハ其内ニ在ル何レノ物品又ハ貨物ニ火ヲ放チ
或ハ何レノ船舶ヲ拋棄シ又ハ毀損スル者ハ重罪ノ罪アル者タルヘシ
而テ之ニ付テ決罪サルレハ裁判所ノ裁量ヲ以テ終身又ハ三年ヨリ少
ラサル何レノ期限ノ懲役或ハ苦役アル又ハナキ及獨囚アル又ハナキ
二年ニ超過セサル何レノ期限ノ禁獄ニ處セラレヘキ責アル者タルヘ
シ

九一四

告訴狀ハ謀殺スル意ヲ前文謀殺スル意ヲ以テ毒ヲ施シタル告訴狀ニ
於ルカ如クニ辨シテ第二編第一部第一章第五節中ノ船ニ火ヲ放タル

事等ノ部ノ告訴狀云々ノ意ヲ以テ船ニ火ヲ放タル告訴狀第二編第一
部第一章第六節中ノ云々ノ意ヲ以テ船ヲ毀損スル事ノ部ノ告訴狀ノ
例ニ依テ容易ニ調製セラルヘシ

刑罰ハ前項ニ於ルト同一ナリ、
二十五五年ノ條例法第百章第十三條

謀殺セントスル他ノ試計

條例法

少井クトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第十
五條——何人ト雖モ本條例法ノ前條ノ何レノ中ニ特示サレタル方法
ヨリ他ノ何レノ方法ニ依テ謀殺ヲ行ハント企ル者ハ重罪ノ罪アル者
タルヘシ而テ之ニ付テ決罪サルレハ裁判所ノ裁量ヲ以テ終身又ハ三
年ヨリ少ラサル何レノ期限ノ懲役或ハ苦役アル又ハナキ及獨囚アル

又ハナキ二年ニ超過セサル何レノ期限ノ禁獄ニ處セラレヘキ責アル
者タルヘシ

告訴狀

起文ハ前文謀殺ノ陰謀ノ部ノ告訴狀ノ如シ——當時何々所爲ヲ記ス
ヘシニ依テ惡意ヲ以テ故意ヲ以テ及其豫謀ノ害心ヨリ乙某ナル者ヲ
斯ノ如キ場合ニ於テ爲サレ及設ラレタル條例法ノ制定ニ反シ及我女
帝陛下ノ治安帝權及威權ニ反シテ惡意ヲ以テ不正ニ及害心ヲ以テ殺
害シ及謀殺セント企タリシ云々(意ヲ謀殺ヲ行フモノト告訴スル告示
ヲ附加スヘシ)

重罪前々項ノ例ヲ見ルヘシ、
十五年ノ條例法第百章第十五條
此條ニ對スル罪ハ何レノ四季裁判期ニ於テ訊問サレヘキモノニアラ

ス、少井クトリヤ女帝即位第五年及第六年ノ條例法第九十八章第一條
証據

被告人ハ告訴狀ニ記載サレタル公然ノ所爲ヲ行ヒシ又ハ所爲ノ犯行
ヲ遂ケシ事ヲ証明スヘシ而テ是カ謀殺スル意ヲ以テ爲サレシ事ヲ証
明スヘシ此意ハ勿論所爲ノ性質ニ依テ含蓄セラル、トテ得又ハ他ノ
証據ニ依テ又ハ謀殺セントノ脅嚇又ハ宣言ニ依テ証明セラル、トテ
得(第一編第二部第一章ヲ見ルヘシ)

此條ハ新條ニシテ如何ノ方法ニ依テ何レノ人ニ生命ニ危険ナル何レ
ノ身体上ノ傷害ヲ謀殺ヲ行フ意ヲ以テ被ラスル事ヲ死刑ヲ以テ罰ス
ヘキモノト爲セシ第四世ウ井リヤム帝即位第七年及少井クトリヤ女
帝即位第一年ノ廢止サレタル條例法第八十五章第二條ノ代リニ設ラ
レタルカ如シ

第二節 故殺

條例法

少井クトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第五
條——何人ト雖モ故殺ニ付テ決罪サル、者ハ裁判所ノ裁量ヲ以テ終
身又ハ三年ヨリ少テサル何レノ期限ノ懲役或ハ苦役アル又ハナキ二
年ニ超過セサル何レノ期限ノ禁獄ニ處セラレヘキ或ハ何レノ斯ノ如
キ他ノ裁量ニ任スル刑罰ナシニ又ハ之ニ加ヘテ裁判所カ申渡ス如キ
罰金ヲ拂フヘキ責アル者タルヘシ
第七條——重罪ニアラサル殺害——何レノ刑罰又ハ沒収ハ過テ又ハ
自身保護ノ爲ニ又ハ重罪ニアラサル何レノ他ノ方法ヲ以テ他人ヲ殺
害スル人ニ於テ受ラレサルヘシ

告訴狀

故殺ニ對スル告訴狀ノ書式ハ只故意ヲ以テ及其豫謀ノ害心ヨリナル
 言語ヲ全ク廢シテ該狀ノ終ノ部分ノ「謀殺スル」ナル言語ニ「殺害スル」ナ
 ル言語ヲ代用スルノ外謀殺ニ對スル告訴狀ト同一ナリ前節謀殺ノ部
 ノ條例法部ノ少井クトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例
 法第百章第六條ヲ見ルヘシ此告訴狀ハ條例法ノ制定ニ反シテ文ヲ
 結フヲ要セサルナリ證據モ亦謀殺ニ於テハ告訴人ハ只其犯サレシ狀
 況ノ證據ニ深入スルヲナシニ殺害ヲ證明シ故殺ニ於テハ告訴人ハ殺
 害ヲ故殺ト證明スル爲ニ事件ノ事實ノ證據ヲ悉ク呈サ、ル可ラサル
 ノ外謀殺ト異ナルヲナキナリ殺害カ只故殺ト成リテ謀殺ト成ラサル
 場合ニ付テハ前節謀殺ノ部ノ證據ノ第四項以下ヲ見ルヘシ
 故殺ハ終身又ハ三年ヨリ少ラサル懲役或ハ苦役アル又ハナキ二年ニ
 超過セサル禁獄又ハ斯ノ如キ他ノ刑罰ナシニ又ハ之ニ加フルニ罰金

ヲ以テ罰セラレヘキ重罪ナリ、少井クトリヤ女帝即位第二十四年及第
 二十五年ノ條例法第百章第五條、此罪ハ何レノ四季裁判期ニ於テ訊問
 サレヘキモノニアラス、少井クトリヤ女帝即位第五年及第六年ノ條例
 法第三十八章第一條

第三節 攻撃毆打創傷等

條例法

少井クトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第四
 十七條——^{アツソール}重攻撃——何人ト雖モ實ニ身体上ノ傷害ヲ致ス何レノ攻
 撃ノ告訴狀ニ付テ決罪サル、者ハ裁判所ノ裁量ヲ以テ三年ノ期限ノ
 懲役或ハ苦役アル又ハナキ二年ニ超過セサル何レノ期限ノ禁獄ニ處
 セラレヘキ責アル者タルヘシ而テ何人ト雖モ^{コムモン、アツソール}普通攻撃ニ對スル告訴狀
 ニ付テ決罪サル、者ハ裁判所ノ裁量ヲ以テ苦役アル又ハナキ一年ニ

六二四

超過セサル何レノ期限ノ禁獄ニ處セラレヘキ責アル者タルヘシ
第七十四條、第七十五條——告訴ノ費用——前節謀殺ノ部ノ條例法部
ヲ見ルヘシ

實ニ身体上ノ傷害ヲ致セル攻撃ノ告訴狀

即チ中央刑事裁判所——我女帝陛下ノ爲ノ陪審員ハ甲某カ我教主紀
元何年六月一日乙某ナル者ニ對シテ斯ノ如キ場合ニ於テ爲サレ及設
ラレタル條例法ノ制定ニ反シ及我女帝陛下ノ治安、帝權及威權ニ反シ
テ攻撃ヲ爲シタリ而テ當時該乙某ヲ毆打シ創傷シ及惡待シタリ〔當時
之ニ依テ該乙某ニ實ニ身体上ノ傷害ヲ致シテ〕而テ當時該乙某ニ該乙
某ノ大損害ニマテ他ノ惡事ヲ爲シタリシ事ヲ其宣誓ノ上訴フ、告
訴狀カ被告人ハヘンリービーニ對シテ攻撃ヲ爲シ而テ該ウヰリヤムビ
ーヲ毆打シタリ云々ト辨セシ場合ニ於テ是ハ裁判停止ノ効アルモノ

ト認ラレタリキ

輕罪、三年ノ懲役、或ハ苦役アル又ハナキ二年ニ超過セサル禁獄、ヅ井
クトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第四十七
條、若シ告訴狀ハ只普通ノ攻撃ニ對スルモノナレハ〔一〕ノ間ノ言語ヲ廢
スヘシ斯ノ如キ場合ニ於テハ刑罰ハ苦役アル又ハナキ一年ニ超過セ
サル禁獄ナリ然レモ被告人ハ此告訴狀ニ於テ普通ノ攻撃ニ付テ決罪
セラル、一ヲ得被告人ハ告訴人ヲ攻撃シ而テ之ニ依テ不正ニ及惡意
ヲ以テ之ニ重キ身体上ノ傷害ヲ被ラセシ事ヲ告訴スル告示ハ左ノ言
語ニ於ル〔重キ身体上ノ傷害ノ證據アルヲ以テ〕陪審官ノ發見ニ依テ保
証サルヤモノト認ラレタリキ

七二四

〔豫謀ナキ重攻撃ニ付テ罪アル者、是ハ發怒ニ依テ爲サレタリキ〕
決罪ノ場合ニ於テ告訴ノ費用ニ付テハ前節ノヅ井クトリヤ女帝即位

第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第七十四條第七十五條ヲ見ルヘシ

裁判所ハ同一ノ攻撃ニ對スル訴訟ノ審理中攻撃ニ對スル裁判ヲ言渡サ、ルヘシ

告訴ノ爲ノ証據

攻撃ヲ爲シタリシ——攻撃ハ他人ノ身体ニ對シテ毆打謀殺強盜強姦等ノ如キ強迫罪ヲ犯ス試計ナリ今現ニ掲載スルハ毆打ノ罪ヲ犯サントスル試計并亦實ニ犯サレタル毆打ニ對スル告訴狀ナリ而テ若シ告訴人カ其孰レヲ証明セハ被告人ハ決罪サレサル可カラズ杖、棒又ハ拳ヲ以テ他人ヲ打ツハ假令ヘ打ツ者カ其眇看ヲ錯ルト雖モ亦攻撃ナリ傷ケ又ハ打ツ意ヲ以テ劔又ハ銃劔ヲ拔ク事又ハ壘又ハ硝子器ヲ擲ツ事、彈丸ノ達スヘキ距離内ニアル人ニ對シテ裝藥セル小銃ヲ向クル事、

其達スル距離内ニアル時人ニ對シテ又竿ヲ指向クル事其他他人ノ身体ニ對シテ暴行ヲ爲ス意ヲ表スル類似ノ所爲ハ攻撃ナリ若シ教員カ女生徒ノ承諾ナクシテ之ト非禮ナル所業ヲ爲サハ假令ヘ女生徒ハ抵抗セスト雖モ是ハ攻撃ナリ然レモ年齡十歳ヨリ十二歳マテノ少女ヲ姦淫スルノ輕罪ヲ犯サントスル試計ハ少女ノ承諾ノ理由ニ依テ攻撃ニアラサルナリ若シ醫員カ婦女ノ病者ヲ裸体ニセサレハ其疾病ヲ診斷スル能ハストノ虚託ヲ以テ無益ニ之ヲ裸体ニナサハ是ハ若シ醫員カ自ラ病者ノ衣服ヲ剝カハ攻撃ナリ又醫員カ年齡十四歳ノ少女ノ治療ニ從事シ斯ク爲シテ其病ヲ治療スルニ虚託シテ該少女ト交通シ該少女ハ只其斯ノ如キ事アルヲ善意ノ信用ニ依テノミ抵抗ヲ爲サ、リシ場合ニ於テ是ハ必然攻撃ニシテ且恐ラクハ強姦ト認ラレタリキ又若シ寺院區官吏カ貧院ニ在ル貧女ノ髮ヲ強テ其意ニ反シテ截斷セハ

是ハ攻撃ナリ不正ノ監禁モ亦攻撃ナリ被告人カ出産セル赤子ヲ養育
 ノ爲メ養育院ニ携帶スルトノ虚託ヲ以テ之ヲ其母ヨリ取り而テ之ヲ
 囊中ニ納レ而テ其囊ヲ街道ノ尖板垣ニ掛ケ置キシ場合ニ於テ是ハ攻
 撃ト認ラレタリキ然レモ只言語ノミハ決シテ攻撃ト成リ能ハサルナ
 リ又若シ人カ他人ヲ打チ然レモ其人カ如何シテモ其他人ニ觸ル、能
 ハサルカ如キ距離ニアラハ是ハ攻撃ニアラサルナリ然レモ若シ甲カ
 乙ヲ打ツ爲ニ脅嚇ノ舉動ヲ以テ其方ニ進行シ而テ其將ニ打撃ヲ爲ス
 コトヲ得ルニ足レル距離ニ達セントスル以前ニ抑留サレタレハ是ハ攻
 撃ナリ有害ノ藥品ヲ他人ニ飲マシムル事ハ或ル場合ニ於テ攻撃ト認
 ラレタリキ然レモ此判決ハ現今廢棄セラレタリ

毆打シ創傷シ及惡待シタリシ——毆打ハ法律上ノ意義ニ於テハ毆打
 及創傷ヲ含蓄ス毆ツ事モ亦法律上ノ意義ニ於テハ管ニ手又ハ棒等ヲ

以テ強ク打ツ事ヲ示スノミナラス憤怒スル、復讐スル、粗暴ナル、無禮ナ
 ル又ハ敵對スル方法ヲ以テ他人ノ身体又ハ衣服ニ觸ル、事又ハ之ヲ
 提ヘル事(假令ハ聊ト雖モ)即チ例ハ怒テ他人ヲ衝ク事又ハ推ス事、他
 人ノ腕ヲ捉ヘル事、他人ノ顔ニ唾スル事、他人ヲ道路ヨリ推出ス事、他人
 ナ今一人ノ他人ニ對シテ推ス事、他人ニ爆火箭ヲ投ル事、他人ノ騎レル
 馬ヲ打テ之ヲ落馬セシムル事等ノ如キチモ亦含有ス若シ人カ杖又ハ
 拳ヲ以テ他人ヲ打チ又ハ之ニ對シテ墮ヲ擲ツ等ノ事ヲ爲サハ是ハ若
 シ打チ又ハ的中セサレハ攻撃ナリ若シ眞ニ打チ又ハ的中スレハ毆打
 ナリ創傷ハ暴行カ劍、小刀又ハ他ノ器械ヲ以テ打チ又ハ刺ス事ニ依テ
 又ハ射撃スル事ニ依テ又ハ棒又ハ拳ヲ以テ打ツ事等ニ依テ出血セシ
 ムル如キ大ナルモノタル場合ニアルナリ

少井クトリヤ女帝即位第八年及第九年ノ條例法第百章第五十六條ニ

二三四

依テ癲狂院ニ在ル何レノ患者ヲ侮辱シ又ハ薄待スル事又ハ其故意ノ懈怠ハ輕罪ナリ亦ゾ井クトリヤ女帝即位第十六年及第十七年ノ條例法第九十六章第十條ヲ看ルヘシ職工生徒及雇人ヲ攻撃スル事又ハ否ラスシテ薄待スル事ニ付テハゾ井クトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第二十六條ヲ看ルヘシ當時之ニ依テ該乙某ニ實ニ身体上ノ傷害ヲ致シ——茲ニ記載サレタル實ニ身体上ノ傷害ハ告訴人ノ健康又ハ愉快ニ關涉スルト思量サレタル何レノ傷害又ハ損害ヲ含有スヘシ是ハ永遠ノ性質ノ傷害タルヲ要セス又重キ身体上ノ傷害ト思考セラレヘキモノト成ルヲ要セサルナリ

而テ他ノ惡事——他ノ惡事ニ依テハ攻撃及毆打ニ隨伴シ自ラ別々ノ損害罪ト成ラサル何レノ加重ノ事情ヲ證據ニ呈スルコトヲ得

被告人ノ爲ノ證據

被告人ハ其全ク罪アル者ニアラサル事或ハ訴訟ノ事實ハ攻撃又ハ毆打ト成ラサル事或ハ其爲セシ所業ヲ法律上赦罪サレ又ハ辨解サレシ事或ハ訴訟ハ業ニ二名ノ判事ノ前ニ略式ノ請願ニ依テ處分サレタル事ヲ證明セサル可ラスゾ井クトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第四十四條第四十五條第一編第一部第四章第五節第二項ヲ看ルヘシ最初ノ二辨護ハ常ニ民事及刑事ノ訴訟ニ於テ一般ノ爭點ニ於テ證據ニ呈セラル、ナリ赦罪又ハ辨解ノ事情ハ民事ノ訴訟ニ於テハ特別ニ辨論サル、ト雖モ刑事ノ訴訟ニ於テハ常ニ一般ノ爭點ニ於テ證據ニ呈セラル、ナリ最後ニ記載サレタル辨護ハ特別ニ辨論サレサル可ラス

三三四

第一辨セラレタル毆打ハ不幸ニ因テ起リシ事ヲ證明スルハ善良ナル

辨護ナリ若シ馬カ其騎者ト共ニ逃走シ而テ人ニ觸ルレハ是ハ毆打ニ
 アラス若シ兵士カ隊列中ニ在テ其銃ヲ發射シ然ルニ其時人カ偶然其
 面前ヲ通過シ而テ銃ニ依テ傷ケラレタレハ是ハ毆打ニアラサルナリ
 爰ニ毆打ニ對スル訴訟^事民ニ於テ辨護トシテ陳述サレ能ハサル偶然ノ
 事故ニシテ告訴狀ニ付テハ必然善良ナル辨護タルヘキモノ、數多ノ
 場合アリ民事ノ訴訟ニ於テハ偶然ノ事故ハ辨解トシテ効アル爲ニ避
 シ可ラサルモノタル可ラサリシト雖モ刑事ノ訴訟ニ於テハ殺害チシ
 テ過失殺タラシムヘキ同一ノ事實カ毆打ニ對スル告訴狀ニ付テ善良
 ナル辨護タルヘキハ一般ノ規則ト思量セラル、フチ得
 第二、辨セラレタル毆打ハ只對談ノ爭鬪ナリシ事即チ被告人ハ賭事ノ
 爲ニ告訴人ト力チ角セシ事ヲ證明スルハ善良ナル辨護ナリ又被告人
 カ不正ナラサル亦危險ニモアラサリシ遊戯チ爲セシ中ニ毆打カ偶然

起リシ事ハ善良ナル辨護ナリ

第三、辨セラレタル毆打ハ只其雙親ニ於テ兒童ノ矯正其雇主又ハ教員
 ニ於テ雇人又ハ生徒ノ矯正又ハ相當ノ官吏ニ於テ罪人ノ刑罰ナリシ
 事ヲ證明スルハ若シ矯正カ方法器具及其多寡ニ於テ適宜ナレハ又ハ
 罪人カ法律ニ依テ命令サレタル方法ヲ以テ罰セラレタレハ善良ナル
 辨護ナリ被告人ハ若シ陸軍士官トシテ爲サレタレハ命令ノ違背ノ爲
 ニ癡疾ト爲ス事ト雖モ辨解スルコト得ルト認ラレタリキ
 第四、告訴人ハ最初被告人ヲ攻撃シ又ハ打チタリシ事及被告人ハ只其
 自身保護ノ爲ニ辨セラレタル毆打ヲ爲セシ事ヲ證明スルハ創傷又ハ
 癡疾ノ辨解ニ於ルモ善良ナル辨護ナリ若シ被告人ハ只攻撃ノミチ証
 明セハ即チ例ハハ告訴人ハ其杖ヲ振上ケ而テ將ニ被告人ヲ打タント
 セシ事ヲ證明セハ是ハ被告人ノ告訴人チ打ツ事チ是認スルニ足レリ

如何トナレハ被告人ハ斯ノ如キ場合ニ於テ告訴人カ實ニ己ヲ打タリシマテ待ツヲ要セサレハナリ又夫ハ其妻ノ保護ノ爲メ妻ハ其夫ノ保護ノ爲メ親ハ其兒童ノ保護ノ爲メ兒童ハ其親ノ保護ノ爲メ雇主ハ其雇人ノ保護ノ爲メ雇人ハ其雇主ノ保護ノ爲メ毆打ヲ辨解スルコト得然レモ總テ是等ノ場合ニ於テ毆打ハ只關係人又ハ其親族ノ保護ノ爲メ緊要タリシカ如キモノタラサル可ラス如何トナレハ若シ是カ過度ナレハ若シ是カ只保護ノ爲ニ緊要タリシヨリ過大ナレハ或ハ若シ是カ攻撃ヨリノ危險カ總テ消滅セシ後ニシテ復讐ノ爲ニ爲サレタレハ最初ノ攻撃ハ辨解タラサル可レハナリ又最初ノ攻撃ハ是認スヘキモノナリシ事ヲ証明スルハ此辨護ニ對スル充分ナル答辨タルヘシ

第五被告人ハ其所有物ノ保護ノ爲メ即チ例ヘハ被告人ノ圍地又ハ家屋内ヨリ告訴人ヲ移轉センカ爲メ又ハ告訴人ノ之ニ進入スルヲ防止

スル爲メ又ハ被告人ノ物品等ヲ告訴人ノ取り又ハ害スルヲ制止スル爲メ又ハ財産差押ニ依テ被告人ノ看守スル家畜等ヲ告訴人ノ取り又ハ救出サントスルヲ制止スル等ノ爲ニ毆打ヲ爲セシコトヲ証明シテ之ヲ辨解スルコトヲ得實ノ腕力ナクシテ只法律上ノ損害罪ノミノ場合ニ於テハ圍地等ノ所有者ハ損害者ヲ移轉スル目的ヲ以テ之ニ手ヲ掛ルチ是トスルコトヲ得ル前ハ第一ニ損害者ニ退去スルヲ請求セサル可ラズ而テ若シ損害者カ拒ム時ト雖モ所有者ハ只是ヲ移轉スルニ緊要ナル如キ腕力ヲ用ヰルチ是トスルコトヲ得ルナリ然レモ若シ損害者カ腕力ヲ用ヰルハ然ル時ハ所有者モ亦腕力ヲ以テ之ニ抵抗スルコトヲ得而テ斯ノ如キ場合ニ於テ若シ所有者カ攻撃サレ又ハ打レタレハ所有者ハ上文ニ記載サレタル如ク自身保護ノ爲ニ創傷又ハ癱疾ヲ爲スト雖モ辨解スルコトヲ得然レモ被告人ノ所有物ノ保護ノ辨解ニ答ヘテ告訴

人ハ毆打カ過度ナリシヲ証明スルコトヲ得或ハ告訴人ハ圍地ヲ通行スル權利ヲ有セシ等ノ事ヲ証明シテ被告人ノ所有物ニ對シテ辨セラレタル損害罪ヲ辨解スルコトヲ得

第六、被告人ハ裁判官吏トシテ或ル令狀ノ權ニ依テ告訴人ヲ逮捕セシ(是カ告訴サレタル辨セラレタル毆打ナリシ)コトヲ証明スルハ善良ナル辨護ナリ然レモ郡長配下ノ官吏ハ令狀ニ依テ人ヲ逮捕スル爲ニ只是ニ其手ヲ掛クルヲ辨解スルコトヲ得ルノミ但人カ抵抗シ又ハ之ヲ救フ爲ノ試計カ爲サレタレハ此限ニアラス而テ斯ノ如キ時ト雖モ該官吏ハ被告人ヲ捕ヘル爲ニ緊要タルヨリ過大ノ腕力ヲ辨解スル能ハサルナリ重罪ノ嫌疑ヲ以テ令狀ナシニ逮捕ヲ爲ス裁判官吏及其補助ニ從事スル人及目前ニ於テ重罪ヲ犯ス者ヲ逮捕スル私人ニ付テモ亦同シ又人ハ他人ノ爭鬭シ又ハ治安ノ紊亂ヲ爲シ又ハ裁判執行上取ラレタ

ル物品ヲ救出ス等ノ事ヲ防止センカ爲コ之ニ手ヲ掛クルコトヲ辨解スルコトヲ得ルナリ檢屍官及豫審官吏ハ法廷ヨリ關係人ヲ強テ黜クルコトヲ假令ヘ此關係人ハ被告人ノ代言人タル時ト雖モ辨解スルコトヲ得然レモ若シ審問カ最終ニシテ裁判ノ性質ノモノタラハ總テノ人ハ出席スル權利ヲ有スルナリ第四世ウヰリヤム帝即位第六年及第七年ノ條例法第十四章第二條ゾ井クトリヤ女帝即位第十一年及第十二年ノ條例法第四十二章第十九條ヲ看ルヘシ但此等ノ場合ト雖モ該官吏ハ他ノ關係人ヲ制止スルニ必要ナルヨリ以外ノ腕力ヲ用ユ可ラス否ラサレハ該官吏ハ治安ノ紊亂等ノ恐アルコトヲ辨解トシテ自身ヲ利スル能ハサルナリ

第七、訴訟ハ二名ノ治安判事ニ於テ決罪ヲ以テ又ハ訴訟却下ニ依テ處分サレタリシ事ヲ若シ決罪ノ場合ニ於テハ被告人ハ罰金ヲ拂ヒ而テ

○四四

該ラレタル刑罰ヲ受ケ而テ訴訟却下ノ場合ニ於テハ事件カ辨解サレ
 タリシ又ハ刑罰ヲ該ルニ足ラサルカ如キ小事ナリシ又ハ証明サレ
 サリシカ故ニ官吏(判治安事)ハ訴訟ヲ却下シ而テ此事カ該官吏ノ署名捺印
 ナ以テ保証サレヌレハ表示スルハ善良ナル辨護ナリ(ザ井クトリヤ女
 帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第四十四條第四十五
 條(官吏判治安事)ハ土地等ノ所有權又ハ其何レノ利益ノ問題ヲ包含スル又
 ハ何レノ家資分散又ハ社資分散ニ關スル又ハ何レノ裁判所ノ令狀ニ
 依テ何レノ執行ニ關スル何レノ攻撃ヲ審問斷定スル權ヲ有セス而テ
 若シ攻撃カ重罪ヲ犯サントスル何レノ試計ニ依テ隨伴サレヌレハ或ハ該
 官吏ノ意見ニ依レハ告訴狀ヲ以テ告訴スルニ適當ナル主意タラハ該
 官吏ハ何レノ裁判ヲ爲サヌシテ是ヲ告訴狀ニ依テ告訴サレンカ爲ニ
 存シ置クコトヲ得(ザ井クトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條

例法第百章第四十六條此辨護ヲ辨論スルノ方法及其效果ニ付テハ第
 一編第一部第四章第五節第二項ヲ見ルヘシ此等ノ正條ハ若シ告訴人
 カ至當ト思量セハ告訴人ノ最初ニ告訴狀ヲ呈スルコトヲ妨ケサル事ヲ
 知ルヘシ

不具ニスル等ノ意ヲ以テ射撃スル事創傷スル事等

條例法

ザ井クトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第十
 八條——何人ト雖モ不正ニ及惡意ヲ以テ如何ノ方法ニ依テ何レノ人
 ナ傷ケ又ハ之ニ何レノ重キ身体上ノ傷害ヲ被ラシメ又ハ何レノ人ニ
 對シテ射撃シ又ハ何レノ人ニ對シテ何レノ種類ノ裝藥セル銃器ノ搬
 機ヲ曳キテ又ハ何レノ他ノ方法ヲ以テ發射セント企テ總テ此等ノ場
 合ニ於テ何レノ人ヲ不具ニシ癡疾ニシ又ハ無能ニスル又ハ何レノ人

二四四

ニ他ノ重キ身体上ノ傷害ヲ爲ス意ヲ以テ或ハ何レノ人ノ正當ノ逮捕
又ハ拘引ニ抵抗シ又ハ之ヲ妨クル意ヲ以テスル者ハ重罪ノ罪アル者
タルヘシ而テ之ニ付テ決罪サルレハ裁判所ノ裁量ヲ以テ終身又ハ三
年ヨリ少ラサル何レノ期限ノ懲役或ハ苦役アル又ハナキ及獨囚アル
又ハナキ二年ニ超過セサル何レノ期限ノ禁獄ニ處セラレヘキ責アル
者タルヘシ

第二十條——不正ニ創傷スル事——何人ト雖モ不正ニ及惡意ヲ以テ
何レノ他人ヲ何レノ兇器又ハ器具ヲ以テ又ハ之ヲシニ創傷シ又ハ之
ニ何レノ重キ身体上ノ傷害ヲ被ラスル者ハ輕罪ノ罪アル者タルヘシ
而テ之ニ付テ決罪サルレハ裁判所ノ裁量ヲ以テ三年ノ期限ノ懲役或
ハ苦役アル又ハナキ二年ニ超過セサル何レノ期限ノ禁獄ニ處セラレ
ヘキ責アル者タルヘシ

不具ニスル等ノ意ヲ以テ創傷シタル告訴狀

即チ中央刑事裁判所——我女帝陛下ノ爲ノ陪審員ハ甲某カ我教主紀
元何年六月一日乙某ナル者ヲ當時之ニ依テ斯ク爲シテ不具ニスル意
ヲ以テ斯ノ如キ場合ニ於テ爲サレ及設ラレタル條例法ノ制定ニ反シ
及我女帝陛下ノ治安帝權及威權ニ反シテ惡意ヲ以テ不正ニ及害心ヲ
以テ該乙某ヲ創傷シタリシ事ヲ其宣誓ノ上訴ヲ(第二ノ告示)而テ上文
所陳ノ陪審員ハ該甲某カ其後即チ上文所陳ノ年及日ニ於テ當時之ニ
依テ斯ク爲シテ該乙某ヲ癡疾ニスル意ヲ以テ云々ノ條例法ノ制定云
々ニ反シ云々(第一ノ告示)如シシタリシ事ヲ其上文所陳ノ宣誓ノ上
尙訴ヲ(第三ノ告示)云々(第二ノ告示)ニ同シ當時之ニ依テ斯ク爲シテ該
乙某ヲ無能ニスル意ヲ以テ云々ノ條例法ノ制定云々ニ反シテ云々(第
二ノ告示)ニ同シ(第四ノ告示)云々(第三ノ告示)ニ同シ當時之ニ依テ斯ク

三四四

四四四

爲シテ該乙某ニ重キ身体上ノ傷害ヲ被ラスル意ヲ以テ云々ノ制定ニ
 反シテ云々(第三ノ告示ニ同シ)(第五ノ告示)云々(第四ノ告示ニ同シ)當時
 之ニ依テ斯ク爲シテ該甲某ノ正當ノ逮捕(逮捕又ハ拘引)ヲ妨クル(抵抗
 シ又ハ妨クル)意ヲ以テ云々ノ制定ニ反シテ云々(第四ノ告示ノ如シ)
 惡意ヲ以テ故意ヲ以テ及害心ヲ以テ爲サレタリト所爲ヲ告訴ス
 ル告訴狀ハ條例法ノ言語カ不正ニ及惡意ヲ以テナルカ故ニ不正ナリ
 實際ニ於テハ告訴狀ノ第一ノ告示ハ一般ニ謀殺スル意ヲ以テ創傷シ
 タルコトニ對スルモノナリ此等ノ數告示ハ假令ヘ刑罰ハ異ナリト雖モ
 聯合セシメラル、コトヲ得

重罪、終身又ハ三年ヨリ少ラサル懲役或ハ苦役アル又ハナキ及獨囚
 (獨囚ハ何レノ一回一ヶ月ニ超過セス又何レノ一年間三ヶ月ニ超過セ
 ス、ヅ井クトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第

七十條)アル又ハナキ二年ニ超過セサル禁獄

此罪ハ何レノ四季裁判期ニ於テ訊問サレヘキモノニアラス、ヅ井クト
 リヤ女帝即位第五年及第六年ノ條例法第三十八章第一條

証據

惡意ヲ以テ不正ニ及害心ヲ以テ——第四世ヨリシ帝即位第九年ノ
 條例法第三十一章第十二條ニ依テ罪ハ若シ死亡カ之ヨリ生シタレハ
 謀殺ト成リタルヘキカ如キ狀況ヲ以テ犯サレサル可ラサリシ事ハ緊
 要ナリキ此約條ハ第四世ウ井リヤム帝即位第七年及ヅ井クトリヤ女
 帝即位第一年ノ條例法第八十五章第四條中ニハ廢止サレタリキ而テ
 現今ノ條例法中ニ包含サレサルナリ是故ニ現今ノ條例法ハ其中ニ記
 載サレタル意ノ何レヲ以テ正當ノ辨解ナシニ爲サレタル各ノ創傷等
 ナ含有スルカ如シ如何トナレハ害心ハ所爲ヨリ推定セラル可ケレハ

五四四

六四四

ナリ條例法中ノ害心ヲ以テナル言語ハ豫謀ノ害心ヲ以テ示サ、ル
 ナリ如何トナレハ若シ是カ示シタリセハ犯罪ハ第十四條中ニ含有セ
 ラルヘケレハナリ是故ニ犯罪ハ假令ヘ若シ死亡カ生シタリセハ是ハ
 只故殺タルヘカリシト雖モ均シク此條中ニ在ルナリ
 傷害カ被ラセラレシ器具又ハ方法ハ告訴狀中ニ記サル、ヲ要セス而
 テ若シ記サレタレハ記サレタル如ク証明サル、ヲ要セサルナリ創傷
 ナ棒ヲ以テ打ツコ及足ヲ以テ蹴ルコニ依テ被ラセラレタリト告訴セ
 シ告訴狀ニ付テ創傷ハ棒ヲ以テ打ツコ又ハ蹴ルコニ依テ被ラセラレ
 シトノ証明ハ假令ヘ二個ノ孰レニ依テ傷害カ被ラセラレシ事ハ確實
 ナラスト雖モ充分ト認ラレタリキ
 創傷シタリシ 刺シ切り又ハ傷ルナル言語ヲ用井シ廢止サレタル
 條例法ニ依レハ若シ告訴狀カ切ルコニ對スルモノナレハ刺スコノ證

七四四

據ハ告訴狀ヲ維持セサルヘシ何トナレハ言語ハ數言中ノ一ヲ撰メル
 モノナレハナリ刺シ又ハ切ルナル言語ニ依レハ金創カ証明サレサ
 ル可ラサリキ只折傷又ハ抓壞リタル疵ハ此等ノ言語ノ中ニアラサリ
 キ是ハ數多ノ裁判ノ失錯ノ原因タリキ然レモ現今ハ此主意ニ付テ此
 等ノ條例法ニ依テ判決サレタル事件ヲ尙引証スルハ緊要ニアラサル
 ナリ如何トナレハ現今ノ條例法ハ只創傷スルナル言語ヲ有シ而テ此
 言語ハ金創刺衝傷抓壞リタル疵折傷及銃丸ノ創傷ヲ含有スレハナリ
 然レモ條例法ノ意味内ノ創傷ヲ爲スニハ皮ノ繼續カ切斷サレサル可
 ラス他ノ言語ヲ以テ之ヲ陳述スレハ身体ノ外部ノ被覆(詳言スレハ全
 キ皮ニシテ只表皮即チ上皮ニアラサルモノ)カ分離サレサル可ラス然
 レモ内部ノ皮即チ詳言スレハ臉又ハ唇内ノ皮ノ分離ハ條例法内ノ創
 傷ヲ成スニ充分ナリ若シ皮カ破ラレタレハ傷害カ被ラセラレタル器

具ノ性質ハ不緊切ナリ故ニ靴ヲ以テ蹴リタル創傷ハ條例法内ニアルナリ人ニ對シテ槌カ投ラレ是カ其鼻ニ中リ而テ皮ヲ破リシ場合ニ於テ是ハ第四世ウヰリヤム帝即位第七年及ヰ非クトリヤ女帝即位第一年ノ廢止サレタル條例法第八十五章第四條ノ意味内ノ創傷ト認ラレタリキ被告人カ告訴人ヲ空氣銃ヲ以テ劇シク其帽ノ外部ヨリ打チ而テ帽カ告訴人ヲ傷ケシト雖モ空氣銃ハ決シテ告訴人ニ觸レサリシ場合ニ於テ是ハ創傷スル事ト認ラレタリキ然レモ從前ノ條例法ニ依レハ器具カ用ヰラレサル可ラサル事カ緊要ナリキ是故ニ被告人カ告訴人ノ指ヲ咬切リシ場合ニ於テ是ハ第四世シヨ一シ帝即位第九年ノ條例法第三十一章第十二條内ノ創傷ト認ラレサリキ又被告人カ告訴人ノ顔ニ綠礮ヲ投シ而テ斯クシテ之ヲ傷ケシ場合ニ於テ是ハ同條例法内ノモノニアラスト認ラレタリキ(現今ハヰ非クトリヤ女帝即位第二十四

年及第二十五年ノ條例法第百章第二十九條ヲ見ルヘシ然レモ現今ノ條例法ハ如何ノ方法ニ依テノ創傷等ニ及ホスナリ創傷ハ被告人ノ所爲ニ依テ爲サレサル可ラス如何トナレハ若シ自身保護ノ爲ニ告訴人カ其身体ノ部分ヲ被告人ノ手裏ノ器具ニ壓着シ而テ斯クシテ自ラ切リ又ハ傷ケハ是ハ條例法内ノモノニアラサレハナリ
 條例法ハ攻撃ノ三種ニ及ホスナリ即チ第一何レノ人ヲ傷ケ又ハ之ニ何レノ重キ身体上ノ傷害ヲ被ラズ事第二何レノ人ニ對シテ發射スル事第三何レノ他人ニ對シテ何レノ種類ノ裝藥セル銃器ノ搬機ヲ曳キ又ハ何レノ他ノ方法ヲ以テ發射セント企ル事而テ此等ノ各ハ左ノ意ノ何レヲ以テ爲サル、一ヲ得即チ第一不具ニスル事第二癡疾ニスル事第三無能ニスル事第四他ノ重キ身体上ノ傷害ヲ爲ス事第五何レノ人ノ正當ノ逮捕又ハ拘引ニ抵抗シ又ハ之ヲ妨ル事

云々ノ意ヲ以テ——重罪ニ付テ決罪スル爲ニハ意ハ記サレタル如ク
 証明サレサル可ラス是レ種々ノ意ヲ以テ犯サレタリト罪ヲ告訴スル
 數告示ノ必要ナル所以ナリ若シ告訴狀カ被告人ハ謀殺スル無能ニス
 ル及重キ身体上ノ傷害ヲ爲ス意ヲ以テ告訴入ヲ切リシ事ヲ辨セハ是
 ハ正當ノ逮捕ヲ妨クル意ノ証明ニ依テ維持サレサルヘシ但シ被告人
 モ亦逃走ヲ爲シ遂クル目的ヲ以テ告訴狀中ニ記載サレタル意ノ一ヲ
 隱蔽セシ時ハ此限ニ在ラス如何トナレハ兩個ノ意カ成立スル場合ニ
 於テハ孰レカ主ニシテ孰レカ從タル乎ハ緊切ニアラサレハナリ是故
 ニ強姦ヲ行フ爲ニ被告人カ幼者ノ陰部ヲ切り而テ之ニ依テ之ニ重キ
 身体上ノ傷害ヲ加ヘタリシ場合ニ於テ被告人ハ其主タル目的ハ強姦
 ナ行フニアリシニ拘ハラズ之ニ重キ身体上ノ傷害ヲ爲ス意ヲ以テ切
 リタルトニ付テ罪アル者ト認ラレタリキ又若シ人カ他人ヨリ強奪ス

ル爲ニ之ヲ傷ケ而テ之ニ依テ重キ身体上ノ傷害ヲ被ラスレハ其人ハ
 重キ身体上ノ傷害ヲ爲ス意ヲ以テ之ヲ告訴スル告示ニ付テ決罪セラ
 ル、トヲ得意ハ固ヨリ只認定證據ノミニ依テ証明サレ能フナリ是ハ
 記サレタル如ク証明サレサル可ラス是故ニ被告人カ甲ニ對シテ打シ
 ニ乙カ中間ニ入リテ打撃ヲ受ケ而テ傷ケラレシ場合ニ於テ被告人ハ
 乙ニ重キ身体上ノ傷害ヲ爲ス意ヲ以テ乙ヲ傷ケタルトニ付テ決罪サ
 レ能ハスト認ラレタリキ然レモ現今ノ條例法ニ依レハ是ハ若シ被告
 人カ何レノ人ヲ不具ニスル等ノ意ヲ以テ何レノ人ヲ傷ケ又ハ之ニ對
 シテ發射セシ等ノ事カ証明サレタレハ充分ナリ是故ニ今既ニ記載サ
 レタル場合ニ於テ被告人ハ甲ニ重キ身体上ノ傷害ヲ爲ス意ヲ以テ乙
 ヲ傷タルトニ付テ現今ハ決罪セラル、トヲ得タリキ若シ所爲ハ偶然
 ノ事ニ依テ又ハ企圖ニ依テ爲サレシ乎カ疑ハシケレハ意ヲ證明スル

爲ニ他ノ狀況カ證據ニ呈セラル、コヲ得コトシ及ウ、ドボルン(人名)事
 件ニ於テ被告人ハ攻撃カ不具ニシ又ハ癡疾ニセサル但シ謀殺スル意
 ナ以テ爲サレシ事ヲ辨護トシテ陳述スル鹵莽ナ有セリ然レハ裁判所
 ハ若シ人カ他人ヲ謀殺スル意ヲ以テ之ヲ癡疾ニスル能ハサル器具ヲ
 以テ之ヲ攻撃シ而テ斯ノ如キ攻撃ハ殺害ヲ生セシテ只之ヲ癡疾ニ
 スルコトヲ生セハ是ハ不具ニシ又ハ癡疾ニスル意ヲ以テ第二世チヤ
 ルス帝即位第二十二年及第二十二年ノ條例法第一章中ニ記載サレタ
 ル罪ノ何レヲ犯スチ重罪ト爲セシ該條例法第一章第七條内ニアリト
 認タリキ是故ニ被告人ハ決罪サレ而テ刑ヲ執行サレタリキ
 條例法ニ記載サレタル意ニ關シテハ「不具ニスル事」ハ人ノ身体ノ何レ
 ノ部分ヲ傷害シ此人ヲシテ爭鬪ヲ爲ス時自身ヲ保護シ又ハ其對手ヲ
 苦ムル能ハサラシムルコトヲ得ル事ヲ爰ニ掲載スルハ緊要ナルヘシ癡

疾ニスル事」ハ人ノ身体ノ形容ノ部分ヲ除却スルコトヲ得ル外部ノ傷害
 ナ加フルニアリ而テ「無能ニスル事」ハ永遠ノ無能ヲ生シ只一時ノ傷害
 ノミニ止マラサル事ヲ爲スニアリナリ「重キ身体上ノ傷害」ハ永遠ノモ
 ノ又ハ危険ナルモノヲサレ可ラサルハ緊要ニアラス若シ健康又ハ
 愉快ニ重ク關涉スル如キ傷害タラハ充分ナリ是故ニ被告人カ幼者ノ
 陰部ヲ切り而テ其疵ハ危険ナルモノニアラス且小ナリト雖モ出血甚
 タシカリシ而テ陪審官ハ重キ身体上ノ傷害ト發見セシ場合ニ於テ決
 罪ハ正當ト認ラレタリキ記サレタル意ハ正當ノ逮捕ヲ妨クル爲タル
 場合ニ於テハ逮捕ハ正當ノモノタルヘカリシ事カ示サレサル可ラス
 (前文第一節謀殺ノ部ノ證據中權ノ合法ニ付テ)ノ部ヲ見ルヘシ而テ狀
 況ハ被告人カ何故ニ逮捕サレントスル乎ヲ知ラサル可ラサルカ如キ
 モノタル場合ニ於テハ被告人ハ逮捕ノ旨意ヲ告知サレタリシ事カ証

四五四

明サレサル可ラス若シ告訴人カ意ヲ証明スルヲ錯ラハ既ニ論シタル如ク被告人ハ不正ニ創傷スル輕罪ニ付テ決罪セラレ而テ苦役アル禁獄ノ刑ヲ受ルヲ得

不具ニスル意ヲ以テ射撃シタル告訴狀

起文ハ前項ノ告訴狀ノ如シ——當時火藥及數多ノ鉛彈ヲ以テ填ラレタル或ル小銃ヲ乙某ナル者ニ對シテ當時之ニ依テ斯ク爲シテ該乙某ヲ不具ニスル意ヲ以テ斯ノ如キ場合ニ於テ爲サレ及設ラレタル條例法ノ制定ニ反シ及我女帝陛下ノ治安帝權及威權ニ反シテ惡意ヲ以テ不正ニ及害心ヲ以テ射撃シタリシ云々、前項ノ例ニ於ルカ如ク條例法ニ記載サレタル種々ノ意ヲ記シタル數告示ヲ附加スヘシ實際ニ於テハ第一ノ告示ハ前文謀殺スル意ヲ以テ射撃シタル告訴狀ノ如ク謀殺スル意ヲ以テ射撃シタルニ對スルモノナリ

重罪、ゾキクトリヤ女帝即位第三十四年及第二十五年ノ條例法第百章第十八條前項ノ例ヲ見ルヘシ

證據

前文謀殺スル意ヲ以テ射撃シタル告訴狀ノ部ノ證據中ニ指令サレタル如クニ射撃ヲ證明スヘシ意ヲ數告示中ノ一ニ記サレタル如クニ証明スヘシ(前項ノ證據ヲ見ルヘシ)

不具ニスル等ノ意ヲ以テ射撃セシト企タル告訴狀

起文ハ前々項ノ告訴狀ノ如シ——當時火藥及一個ノ鉛彈ヲ填メラレタル或ル拳銃何レノ種類ノ裝藥セル銃器ノ搬機ヲ曳テ(搬機ヲ曳テ又ハ何レノ他ノ方法ヲ以テ)上文所陳ノ如ク填ラレタル該拳銃ヲ云々(前々項ノ例ニ於ルカ如ク)ノ意ヲ以テ乙某ナル者ニ對シテ云々惡意ヲ以テ不正ニ及害心ヲ以テ射撃セシト企タリシ云々

五五四

重罪、ウキクトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第十八條前々項ノ例ヲ見ルヘシ

証據

射撃スル意ヲ前文云々ノ意ヲ以テ射撃セント企タル告訴狀ノ部ノ証據中ニ指令サレタル如クニ証明スヘシ而テ意ヲ前二項ノ例中ニ於ルカ如クニ証明スヘシ若シ人カ他人ヲ射撃セント企テ裝藥セル銃器ノ搬機ニ其指ヲ掛ケシト雖モ之ヲ曳ク妨ケラレタレハ是ハ條例法内ノ裝藥セル銃器ヲ射撃スル意ニアラサルナリ然レモ他人ニ對シテ裝藥セル拳銃ヲ向クルハ攻撃ナリ假令ヘ拳銃ハ實ニ裝藥サレスト雖モ若シ之カ裝藥サレ而テ發射サレタリセハ他人ヲ危クシタルヘキカ如ク他人ノ身体ニ接近シテ向ケラレ而テ他人ハ其裝藥サレタルモノニアラサルヲ知ラサレハ是ハ攻撃タルカ如シ

火藥又ハ他ノ爆發物及彈丸散彈（前文ニ出ツ）又ハ他ノ危害物ヲ以テ銃身ニ填ラレタル何レノ小銃拳銃又ハ他ノ銃器ハ假令ヘ之ヲ發射スル意ハ適當ナル發火藥ノ缺乏又ハ何レノ他ノ原因ニ依テ失錯スルヲ得ルト雖モ條例法ノ意味内ノ裝藥セル銃器ナリウキクトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第十九條

不正ニ創傷シタル告訴狀

起文ハ前文不具ニスル等ノ意ヲ以テ創傷シタル告訴狀ノ如シ——乙某ナル者ヲ斯ノ如キ場合ニ於テ爲サレ及設ラレタル條例法ノ制定ニ反シ及我女帝陛下ノ治安帝權及威權ニ反シテ不正ニ及害心ヲ以テ創傷シ(創傷シ又ハ何レノ重キ身体上ノ傷害ヲ被ラセ)タリシ云々(被告人ハ乙某ニ重キ身体上ノ傷害ヲ被ラセタリシ事ヲ告訴スル告示ヲ附加スヘシ)

輕罪、三年ノ懲役或ハ苦役アル又ハナキ二年ニ超過セサル禁獄、少井少
トリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第二十條
被告人ハ重罪タル創傷ヲ告訴スル告訴狀ニ付テ告訴人カ重罪タル意
ヲ證明スルヲ錯ル場合ニ於テハ不正ノ創傷ニ付テ決罪サレ而テ本條
ニ依テ罰セラル、トテ得(前文謀殺スル意ヲ以テ毒ヲ施シ、創傷スル事
等ノ部ヲ見ルヘシ)證據ハ意ノ證明ニ付テノ外ハ斯ノ如キ告訴狀ニ於
ルト同一ナルヘシ

云々ノ意ヲ以テ喉ヲ絞メ、呼吸ヲ塞メ又ハ縊ル等ノ事ヲ爲サント

企ル事

條例法

少井少トリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第二
十一條——何人ト雖モ如何ノ方法ヲ以テ何レノ他人ヲ喉ヲ絞メ、呼吸

ヲ塞メ又ハ縊ラント企テ或ハ喉ヲ絞メ、呼吸ヲ塞メ又ハ縊ルト思量サ
レタル何レノ方法ニ依テ何レノ他人ヲ感覺ナキ、知覺ナキ又ハ抵抗ヲ
爲ス能ハサル者ト爲サント企テ斯ノ如キ場合ノ何レニ於テ之ニ依テ
自身又ハ何レノ他人ヲシテ何レノ告訴スヘキ罪ヲ犯ス、トテ得セシム
ル意ヲ以テ或ハ斯ノ如キ場合ノ何レニ於テ之ニ依テ何レノ他人ノ何
レノ告訴スヘキ罪ヲ犯ス、トテ幫助スル意ヲ以テスル者ハ重罪ノ罪アル
者タルヘシ而テ之ニ付テ決罪サレ、ハ裁判所ノ裁量ヲ以テ終身又ハ
三年ヨリ少ラサル何レノ期限ノ懲役或ハ苦役アル又ハナキ二年ニ超
過セサル何レノ期限ノ禁獄ニ處セラレヘキ責アル者タルヘシ

告訴狀

起文ハ前文不具ニスル等ノ意ヲ以テ創傷シタル告訴狀ノ如シ——當
時該甲某ヲシテ乙某ナル者ノ身体ヨリ該乙某ノ金員、物品及貨物ヲ惡

〇六四

意ヲ以テ及不正ニ竊取シ、取り及持去ルヲ得セシムル意ヲ以テ(自身又ハ何レノ他人ヲシテ何レノ告訴スヘキ罪ヲ犯スヲ得セシムル或ハ何レノ他人ノ何レノ告訴スヘキ罪ヲ犯スヲ幫助スル意ヲ以テ)當時云々(方法ヲ記スヘシ)——如何ノ方法ニ依テ(ニ依テ斯ノ如キ場合ニ於テ爲サレ及設ラレタル條例法ノ制定ニ反シ及我女帝陛下ノ治安、帝權及威權ニ反シテ惡意ヲ以テ及不正ニ該乙某ヲ喉ヲ絞メ呼吸ヲ塞メ及縊ラント(何レノ人ヲ喉ヲ絞メ呼吸ヲ塞メ又ハ縊ラント又ハ喉ヲ絞メ、呼吸ヲ塞メ又ハ縊ルト思量サレタル何レノ方法ニ依テ何レノ人ヲ感覺ナキ知覺ナキ又ハ抵抗ヲ爲ス能ハサル者ト爲サント)企テリシ云々(公然ノ所爲ノ記載及意ノ記載ヲ異ニスル告示ヲ附加スヘシ)重罪、終身又ハ三年ヨリ少ラサル懲役或ハ苦役アル又ハナキ及獨囚(獨囚ハ何レノ一回一ヶ月ニ超過セズ又何レノ一年間三ヶ月ニ超過セ

ズ、ヴ井グトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第七十條)アル又ハナキ二年ニ超過セサル禁獄、ヴ井グトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第二十一條此罪ハ何レノ四季裁判期ニ於テ訊問サレヘキモノニアラズ、ヴ井グトリヤ女帝即位第五年及第六年ノ條例法第三十八章第一條

證據

被告人ニ於テ告訴狀ニ記サレタル方法ニ依テ告訴人ヲ喉ヲ絞メ、呼吸ヲ塞メ、縊ル意ヲ證明スヘシ而テ意ヲ前文不具ニスル等ノ意ヲ以テ創傷シタル告訴狀ノ部ノ證據中ニ指令サレタル如クニ證明スヘシ
告訴スヘキ罪ヲ犯ス爲ニ哥羅方水等ヲ施ス事等

條例法

一六四

ヴ井グトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第二

十二條——何人ト雖モ不正ニ何レノ人ニ何レノ哥羅方水、阿片^{コカイン}、丁幾又ハ他ノ痲痺スル又ハ強壓スル藥品又ハ物件ヲ用井又ハ施シ又ハ飲用セシメ或ハ用井又ハ施ント企テ又ハ施サシメ又ハ飲用セシメント企テ斯ノ如キ場合ノ何レニ於テ之ニ依テ自身又ハ何レノ他人ヲシテ何レノ告訴スヘキ罪ヲ犯スヲ得サシムル意ヲ以テ又ハ斯ノ如キ場合ノ何レニ於テ之ニ依テ何レノ他人ノ何レノ告訴スヘキ罪ヲ犯スヲ幫助スル意ヲ以テスル者ハ重罪ノ罪アル者タルヘシ而テ之ニ付テ決罪サルレハ裁判所ノ裁量ヲ以テ終身又ハ三年ヨリ少ラサル何レノ他ノ期限ノ懲役或ハ苦役アル又ハナキ二年ニ超過セサル何レノ期限ノ禁獄ニ處セラレヘキ責アル者タルヘシ

告訴狀

起文ハ前文不具ニスル等ノ意ヲ以テ創傷シタル告訴狀ノ如シ——當

時之ニ依テ該某甲又ハ丙某ナル者ヲシテ乙某ナル者ノ身体ヨリ該乙某ノ金員物品及貨物ヲ惡意ヲ以テ及不正ニ竊取シ取り及持去ルヲ得セシムル意ヲ以テ之ニ依テ自身又ハ何レノ他人ヲシテ何レノ告訴スヘキ罪ヲ犯スヲ得セシムル意ヲ以テ又ハ何レノ他人ノ何レノ告訴スヘキ罪ヲ犯スヲ幫助スル意ヲ以テ斯ノ如キ場合ニ於テ爲サレ及設ラレタル條例法ノ制定ニ反シ及我女帝陛下ノ治安、帝權及威權ニ反シテ惡意ヲ以テ及不正ニ該乙某ニ或ル哥羅方水、阿片、丁幾又ハ他ノ痲痺スル又ハ強壓スル藥品又ハ物件ヲ用井及施シ用井又ハ施シ又ハ飲用セシメ或ハ用井又ハ施サント企テ或ハ施サシメ又ハ飲用セシメント企テタリシ云々

若シ施サレシモノハ哥羅方水、阿片、丁幾ナリシ事カ確實ナラサレハ之ヲ上文所陳ノ陪審員ニ知レサル或ル痲痺スル及強壓スル藥品及

四六四

物件ト記セル一告示又ハ數告示ヲ附加スヘシ而テ若シ必要ナレハ意ヲ異ニスル數告示ヲモ亦附加スヘシ

重罪、終身又ハ三年ヨリ少ラサル懲役或ハ苦役アル又ハナキニ二年ニ超過セサル禁獄、少クトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第二十二條

此罪ハ何レノ四季裁判期ニ於テ訊問サレヘキモノニアラス、少クトリヤ女帝即位第五年及第六年ノ條例法第三十八章第一條

證據

被告人ハ告訴狀ニ記サレタル如ク哥羅方水(又ハ阿片丁幾又ハ他ノ瘴痺スル又ハ強壓スル藥品等)ヲ施セシ又ハ施スニ幫助セシ事ヲ證明スヘシ若シ藥品等カ告訴狀中ニ指名サレサレハ是ハ犯罪人ノ重罪ヲ犯スヲ幫助スルト思量サレタル痲痺スル又ハ強壓スル性質ノモノタル

シ事ヲ示ス爲ノ證據カ呈セラレサル可ラス然ル后第一編第二部第一章中ニ指令サレタル如クニ意ヲ證明スヘシ實際ニ於テハ意ノ尋常ノ證據ハ告訴人カ藥品等ノ感得中ニ強奪等物品サレ又ハ否ラスシテ傷害サレシ事ナルヘシ

生命ヲ危クスル等又ハ傷害スル等ノ意ヲ以テ毒等ヲ施ス事等

條例法

少クトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第二十三條——何人ト雖モ不正ニ及害心ヲ以テ何レノ他人ニ何レノ毒又ハ他ノ危害物又ハ有害物ヲ施シ又ハ施サシメ又ハ飲用セシメ之ニ依テ斯ノ如キ人ノ生命ヲ危クスル爲又ハ之ニ依テ斯ノ如キ人ニ何レノ重キ身体上ノ傷害ヲ被ラヌル爲ニスル者ハ重罪ノ罪アル者タルヘシ而テ之ニ付テ決罪サルレハ裁判所ノ裁量ヲ以テ十年ニ超過セヌ三年

五六四

六六四

ヨリ少ラサル何レノ期限ノ懲役或ハ苦役アル又ハナキ二年ニ超過セ
サル何レノ期限ノ禁獄ニ處セラレヘキ責アル者タルヘシ

第二十四條——何人ト雖モ不正ニ及害心ヲ以テ何レノ他人ヲ傷害シ、
惱マシ又ハ苦シムル意ヲ以テ之ニ何レノ毒又ハ危害物又ハ有害物ヲ
施シ又ハ施サシメ又ハ飲用セシムル者ハ輕罪ノ罪アル者タルヘシ而
テ之ニ付テ決罪サルレハ裁判所ノ裁量ヲ以テ三年ノ期限ノ懲役或ハ
苦役アル又ハナキ二年ニ超過セサル何レノ期限ノ禁獄ニ處セラレヘ
キ責アル者タルヘシ

第二十五條——若シ前々條ニ記載サレタル何レノ重罪ニ對シテ何レ
ノ人ノ訊問上陪審官ハ斯ノ如キ人カ之ニ付テ罪アル者タルコトヲ満足
セス然レモ前條ニ記載サレタル何レノ輕罪ニ付テ罪アル者タルコトヲ
満足スレハ然ル時及各ノ斯ノ如キ場合ニ於テハ陪審官ハ被告人ヲ斯

ノ如キ重罪ニ付テハ放免シ而テ斯ノ如キ輕罪ニ付テ罪アル者ト之ヲ
見出スコトヲ得而テ之ニ依テ被告人ハ斯ノ如キ輕罪ニ對スル告訴狀ニ
付テ決罪サレタルト同様ニ罰セラレヘキ責アル者タルヘシ

生命ヲ危グスル等ノ爲ニ毒ヲ施シタル告訴狀

起文ハ前文謀殺スル陰謀ノ部ノ告訴狀ノ如シ——乙某ナル者ニ白蟻
石ト稱スル或ル死ヲ致スヘキ毒ノ多量即チ二匁何レノ毒又ハ他ノ危
害物又ハ有害物ヲ斯ノ如キ場合ニ於テ爲サレ及設ラレタル條例法ノ
制定ニ反シ及我女帝陛下ノ治安帝權及威權ニ反シテ惡意ヲ以テ不正
ニ及害心ヲ以テ施シ何レノ人ニ施シ又ハ施サシメ又ハ飲用セシメ而
テ之ニ依テ當時該乙某ノ生命ヲ危クシタリシ云々、 被告人ハ何
々ノ多量云々ヲ乙某ニ飲用セシメタリシ事ヲ記ルス一告示ヲ附加ス
ヘシ而テ若シ毒等ノ種類カ疑シケレハ之ヲ種々ニ記載スル告示ヲ附

七六四

加スヘシ而テ之ヲ「上文所陳ノ陪審員ニ知ラレサル或ル危害物又ハ或ル有害物」ト記ルス告示モ亦附加スヘシ(前文謀殺スル意ヲ以テ毒ヲ施シタル告訴狀ノ部ヲ見ルヘシ)被告人ハ之ニ依テ乙某ニ重キ身体上ノ傷害ヲ被ラセシ事ヲ記ルス告示モ亦アラサル可ラス

告訴人ヲ傷害シ惱シ又ハ苦シムル意ヲ以テ毒等ヲ施シタル事等ニ對スル第二十四條ニ依レル告訴狀ハ意ノ告白ヲ變換シテ前文謀殺スル意ヲ以テ毒ヲ施シタル告訴狀ノ例ニ依テ製セラル、トヲ得或ハ被告人ハ若シ告訴人カ重罪ヲ証明スルコトヲ錯ラハ第二十三條ニ依レル告訴狀ヲ以テ第二十四條ニ記載サレタル輕罪ニ付テ決罪セラル、トヲ得而テ裁判ヲ受ルコトヲ得(第二十五條)被告人カ婦女ニ班猫ヲ施シタリシ而テ陪審官ハ該被告人カ該婦ヲ姦淫スルコトヲ得ノカ爲ニ其春情ヲ挑發シ淫慾ヲ熾ナラシムル意ヲ以テ之ヲ施シタリシ事ヲ發見セシ場

合ニ於テ是ハ該婦ヲ傷害シ惱シ及苦シムル意ヲ以テ施シタル事ト認ラレタリキ

重罪、十年ヨリ多ラス三年ヨリ少ラサル懲役或ハ苦役アル又ハナキ二年ニ超過セサル禁獄、ゾ井トトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第二十三條、若シ被告人カ只輕罪ノミニ付テ決罪サレタレハ刑罰ハ三年ノ懲役或ハ苦役アル又ハナキ二年ニ超過セサル禁獄ナリ、同章第二十四條

證據

毒等ノ施ス事等ヲ前文謀殺スル意ヲ以テ毒ヲ施シタル告訴狀ノ部ノ證據中ニ指令サレタル如クニ證明スヘシ又此手術ニ依テ告訴人ノ生命カ危クサレシ又ハ重キ身体上ノ傷害カ之ニ加ヘラレシ事ヲ證明スヘシ(前文不具ニスル等ノ意ヲ以テ創傷シタル告訴狀ノ部ノ證據ヲ見

ルヘシ)第二十四條ニ記載サレタル輕罪ニ付テ決罪スル爲ニハ被告人
カ告訴人ヲ傷害シ惱シ又ハ苦シムル爲ニ毒等ヲ施スヲ企シ事カ証
明サレサル可ラズ

爆發物又ハ腐蝕物等ニ依テ人ヲ傷害シ又ハ傷害セント企ル事
條例法

ヅ井クトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第二
十八條——何人ト雖モ不正ニ及害心ヲ以テ火藥又ハ他ノ爆發物ノ爆
發ニ依テ何レノ人ヲ火傷シ不具ニシ癱疾ニシ無能ニシ又ハ之ニ何レ
ノ重キ身体上ノ傷害ヲ加フル者ハ重罪ノ罪アル者タルヘシ而テ之ニ
付テ決罪サルレハ裁判所ノ裁量ヲ以テ終身又ハ三年ヨリ少ラサル何
レノ期限ノ懲役或ハ苦役アル又ハナキ及獨囚アル又ハナキ及若シ年
齡十六歳以下ノ男子ナレハ答刑アル又ハナキ二年ニ超過セサル何レ

ノ期限ノ禁獄ニ處セラレヘキ責アル者タルヘシ
第二十九條——何人ト雖モ不正ニ及害心ヲ以テ何レノ火藥又ハ他ノ
爆發物ヲ爆發セシメ或ハ何レノ人ニ何レノ爆發物又ハ他ノ危険ナル
又ハ有害ノ物件ヲ送り又ハ交付シ又ハ取ラシメ又ハ受取ラシメ或ハ
何レノ腐蝕流動物又ハ何レノ危害物又ハ爆發物ヲ何レノ場所ニ置キ
又ハ何レノ人ニ對シテ投ケ又ハ擲キ又ハ否ラスシテ之ニ使用シ此等
ノ場合ノ何レニ於テ何レノ人ヲ火傷シ不具ニシ癱疾ニシ又ハ無能ニ
スル或ハ何レノ人ニ重キ身体上ノ傷害ヲ加フル意ヲ以テスル者ハ何
レノ身体上ノ傷害カ爲サレタルト爲サレサルトニ拘ハラズ重罪ノ罪
アル者タルヘシ而テ之ニ付テ決罪サルレハ裁判所ノ裁量ヲ以テ終身
又ハ三年ヨリ少ラサル何レノ期限ノ懲役或ハ苦役アル又ハナキ及獨
囚アル又ハナキ及若シ年齢十六歳以下ノ男子ナレハ答刑アル又ハナ

キ二年ニ超過セサル何レノ期限ノ禁獄ニ處セラレヘキ責アル者タルヘシ

第三十條——何人ト雖モ不正ニ及害心ヲ以テ何レノ人ニ何レノ身体上ノ傷害ヲ加フル意ヲ以テ何レノ火藥又ハ他ノ爆發物ヲ何レノ建家又ハ船舶ノ内ニ上ニ近クニ又ハ之ニ對シテ置キ又ハ投入ル、者ハ何レノ爆發カ生スルト生セサルトニ拘ハラヌ且何レノ身体上ノ傷害カ爲サレタルト爲サレサルトニ拘ハラヌ重罪ノ罪アル者タルヘシ而テ之ニ付テ決罪サレレハ裁判所ノ裁量ヲ以テ十四年ニ超過セス三年ヨリ少ラサル何レノ期限ノ懲役或ハ苦役アル又ハナキ及獨囚アル又ハナキ及若シ年齢十六歳以下ノ男子ナレハ答刑アル又ハナキ二年ニ超過セサル何レノ期限ノ禁獄ニ處セラレヘキ責アル者タルヘシ
火藥ヲ以テ火傷シタル告訴狀

起文ハ前文謀殺スル陰謀ノ部ノ告訴狀ノ如シ——或ル爆發物詳言スレハ火藥ノ爆發ニ依テ乙某ナル者ヲ斯ノ如キ場合ニ於テ爲サレ及設ラレタル條例法ノ制定ニ反シ及我女帝陛下ノ治安帝權及威權ニ反シテ惡意ヲ以テ不正ニ及害心ヲ以テ火場シタリシ云々 意ヲ狀況ニ隨テ「不具ニスル」爲「廢疾ニスル」爲「無能ニスル」爲及「重キ身体上ノ傷害」ヲ爲ス「爲ト告訴スル」告示ヲ附加スヘシ

重罪、終身又ハ三年ヨリ少ラサル懲役或ハ苦役アル又ハナキ及獨囚(獨囚ハ何レノ一回一曆月ニ超過セス又何レノ一年間三曆月ニ超過セス、ガ井トトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第七十條アル又ハナキ及若シ年齢十六歳以下ノ男子ナレハ答刑アル又ハナキ二年ニ超過セサル禁獄、ガ井トトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第二十八條害心ヲ以テ何レノ人ニ身体上ノ

四七四

傷害ヲ爲ス意ヲ以テ何レノ家屋等ニ火藥ヲ置キ又ハ投入レル等ニ對スル第三十條ニ依レル告訴狀ハ第二編第一部第一章第六節中ノ云々ノ意ヲ以テ家屋ニ火藥ヲ投入レタル告訴狀ニ據テ容易ニ調製セラレハ、イテ得

此罪ハ何レノ四季裁判期ニ於テ訊問サレヘキモノニアラス、ヅ井クトリヤ女帝即位第五年及第六年ノ條例法第三十八章第一條

證據

被告人ハ火藥ノ爆發ノ手術ニ依テ乙某ノ身体ヲ火傷セシ事又ハ之ヲ不具ニシ廢疾ニシ又ハ無能ニセシ事又ハ之ニ重キ身体上ノ傷害ヲ加ヘシ事ヲ證明スヘシ(前文不具ニスル等ノ意ヲ以テ創傷シタル告訴狀ノ部ノ證據ヲ見ルヘシ)所爲ハ害心ヲ以テ爲サレシ事ヲ證明スヘシ(第一編第二部第一章ヲ見ルヘシ)

云々ノ意ヲ以テ爆發物ヲ送リタル告訴狀

起文ハ前文謀殺スル陰謀ノ部ノ告訴狀ノ如シ——乙某ナル者ニ或ル爆發物及危險ナル及有害ノ物詳言スレハ爆發銀二匁及火藥二磅ヲ當時之ニ依テ斯クナシテ該乙某ヲ火傷スル(火傷スル、不具ニスル、廢疾ニスル又ハ無能ニスル又ハ重キ身体上ノ傷害ヲ爲ス)意ヲ以テ斯ノ如キ場合ニ於テ爲サレ及設ラレタル條例法ノ制定ニ反シ及我女帝陛下ノ治安帝權及威權ニ反シテ惡意ヲ以テ不正ニ及害心ヲ以テ送リ(何レノ人ニ送リ又ハ交付シ又ハ取ラシメ)又ハ受取ラシメ)タリ云々、

傷害及意ヲ異ニスル告示ヲ附加スヘシ
重罪、ヅ井クトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第二十九條前項ノ例ヲ見ルヘシ

五七四

此罪ハ何レノ四季裁判期ニ於テ訊問サレヘキモノニアラス、ヅ井クト

リヤ女帝即位第五年及第六年ノ條例法第三十八章第一條
證據

爆發物ノ送致ヲ證明シ且意ヲ第一編第二部第一章中ニ指令サレタル
如クニ證明スヘシ從前ノ第四世ウヰリヤム帝即位第七年及ヰヰト
リヤ女帝即位第一年ノ條例法第八十五章第五條ニ依レハ告訴人ハ實
ニ火傷等ヲ爲サレシ事ヲ證明スル事カ緊要ナリキ然レモ現今ノ條例
法ニ依レハ犯罪ハ何レノ人ヲ火傷スル等ノ意ヲ以テノ害心アル送致
等ニ依テ何レノ身体上ノ傷害カ爲サレタルト否ラサルトニ拘ハラズ
完全ナリ

云々ノ意ヲ以テ腐蝕流動物ヲ投ヌル告訴狀
起文ハ前文謀殺スル陰謀ノ部ノ告訴狀ノ如シ——乙某ナル者ニ對シ
テ或ル腐蝕流動物詳言ズレバ綠礬油何レノ腐蝕流動物又ハ他ノ危害

物又ハ爆發物一パイソト(量目)ヲ當時之ニ依テ斯ク爲シテ該乙某ヲ火
傷スル意ヲ以テ斯ノ如キ場合ニ於テ爲サレ及設ラレタル條例法ノ制
定ニ反シ及我女帝陛下ノ治安帝權及威權ニ反シテ惡意ヲ以テ不正ニ
及害心ヲ以テ擲タリシ云々、 傷害及意ヲ異ニスル告示ヲ附加ス
ヘシ

重罪、ヰヰトトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百
章第二十九條前々項ノ例ヲ見ルヘシ

此罪ハ何レノ四季裁判期ニ於テ訊問サレヘキモノニアラス、ヰヰト
リヤ女帝即位第五年及第六年ノ條例法第三十八章第一條

證據

被告人ハ故意ヲ以テ告訴人ノ邊ニ(又ハ告訴人ニ)綠礬ヲ投セシ事ヲ証
明スヘシ而テ意ヲ第一編第二部第一章中ニ指令サレタル如クニ證明

スヘシ第一世ジョーシ帝即位第六年ノ廢止サレタル條例法第二章第十一條ハ何レノ人ヲ切ル等ノ意ヲ以テ公ノ街道等ニ於テ攻撃シ而テ斯ノ如キ人ノ衣服ヲ切ル事ヲ重罪ト爲シタリキ之ニ依テ被告人カ告訴人ノ身体ヲ切ルヲ企テ利器ヲ以テ之ヲ撃テ而テ斯ク爲シテ其衣服ヲ切リシ場合ニ於テ最初ノ意ハ衣服ヲ切ル爲ニアラサル可ラス而ルニ此場合ニ於テハ最初ノ意ハ身体ノ創傷ナリシカ故ニ條例法ハ之ニ適用セスト認ラレタリキ又此場合ニ於テ意ハ只衣服ヲ燒ク爲ノミナリシ事カ明白ニ示サレタリセハ是ハ條例法内ノモノダラサルヘキカ如シ然レモ反對カ證明サル、ニアラサレハ意ハ所爲ニ依テ證明セラルヘシ

沸騰水ハ第四世ウヰリヤム帝即位第七年及ヴヰクトリヤ女帝即位第一年ノ廢止サレタル條例法第八章第五條内ノ危害物ト認ラレタ

リキ

云々ノ意ヲ以テ彈機銃等ヲ裝置スル事

條例法

ヴヰクトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第三十一條——何人ト雖モ人命ヲ害シ又ハ重キ身体上ノ傷害ヲ被ラスト思量サレタル何レノ彈機銃、係蹄又ハ他ノ器械ヲ裝置シ又ハ裝置セシメ之ニ觸ル、損害者又ハ他ノ人ヲ殺害シ又ハ之ニ重キ身体上ノ傷害ヲ被ラスルヲ得ル意ヲ以テスル者ハ輕罪ノ罪アル者タルヘシ而テ之ニ付テ決罪サルレハ裁判所ノ裁量ヲ以テ三年ノ期限ノ懲役或ハ苦役アル又ハナキ二年ニ超過セサル何レノ期限ノ禁獄ニ處セラレヘキ責アル者タルヘシ而テ何人ト雖モ當時其所有又ハ領有内ニアル又ハ後ニ至テ其所有又ハ領有トナル何レノ場所ニ於テ他人ノ裝置シタル

へキ何レノ斯ノ如キ彈機銃係蹄又ハ他ノ器械ヲ知リツ、故意ヲ以テ尙繼續シテ斯ク裝置ノ儘存スル者ハ斯ノ如キ銃係蹄又ハ器械ヲ上文所陳ノ如キ意ヲ以テ裝置シタルト思量セラルヘシ然レモ本條中ニ包含サレタル如何ノ事ト雖モ惡蟲（殺小動物等ヲ總稱スル）ヲ殺害スル意ヲ以テ通常裝置サレタルヘキ又ハ裝置サル、コトヲ得ル如キ何レノ銃又ハ係蹄ヲ裝置スルヲ不正ト爲サ、ルヘシ又本條中ニ包含サレタル如何ノ事ト雖モ住居家屋ノ保護ノ爲ニ住居家屋内ニ裝置サレヘキ又ハ裝置セシメラレヘキ又ハ繼續シテ裝置サレヘキ何レノ彈機銃係蹄又ハ他ノ器械ヲ日没ヨリ日出マテ裝置シ又ハ裝置セシメ又ハ繼續シテ裝置スルヲ不正ト爲スト思量サレサルヘシ

告訴狀

起文ハ前文謀殺スル陰謀ノ部ノ告訴狀ノ如シ——當時火藥及數多ノ

鉛散彈ヲ填メラレタル或ル彈機銃(生命ヲ害シ又ハ重キ身体上ノ傷害ヲ被ラスト思量サレタル彈機銃係蹄又ハ他ノ器械)ヲ斯ク裝藥サレタル該彈機銃カ之ニ觸ル、ヘキ何レノ損害者(何レノ損害者又ハ他ノ人ニ重キ身体上ノ傷害ヲ被ラス)殺害シ又ハ重キ身体上ノ傷害ヲ被ラスヘキ意ヲ以テ斯ノ如キ場合ニ於テ爲サレ及設ラレタル條例法ノ制定ニ反シ及我女帝陛下ノ治安帝權及威權ニ反シテ不正ニエムノ郡内ビ一ノ寺院區ニ在ル或ル園中ニ裝置シ及裝置セシメタリシ云々
輕罪、三年ノ懲役或ハ苦役アル又ハナキ二年ニ超過セサル禁獄、ゾ井クトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第三十一條

証據

被告人ハ裝藥セル彈機銃ヲ人カ之ニ觸ル、ヘキ場所ニ置シ又ハ繼續

シテ置シ事(ウヰクトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法
第百章第三十一條ヲ看ルヘシ)ヲ証明スヘシ而テ若シ何レノ傷害カ實
ニ爲サレタリセハ告訴狀ニ之ヲ記シ而テ記サレタル如ク之ヲ証明ス
ヘシ

意ハ只銃ノ位地、被告人ノ告知等ノ如キ狀況ヨリ推定セラレ能フノミ
(第一編第二部第一章ヲ見ルヘシ)實ニ爲サレタル何レノ傷害ハ固ヨリ
意ノ證據タルヘシ

此條例法ハ只人類ニ重キ身体上ノ傷害ヲ爲ス意又ハ重キ身体上ノ傷
害カ人類ニ爲サル、意ヲ以テ裝置サレタル器械ニノミ適用ス是故ニ
人ノ其自己ノ地内ニ裝置セルトクセル火鎗ニハ適用セサルナリ

鉄道旅人ノ安寧ヲ妨害セントスル試計

條例法

ウヰクトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第三
十二條 何人ト雖モ不正ニ及害心ヲ以テ何レノ鉄道ノ上ニ又ハ之
ヲ横斷シテ何レノ木、石又ハ他ノ物件ヲ置キ又ハ投シ或ハ不正ニ及害
心ヲ以テ何レノ鉄道ニ屬スル何レノ鉄線、脚石木又ハ他ノ物件ヲ起シ、
除去シ又ハ轉置シ或ハ不正ニ及害心ヲ以テ何レノ鉄道ニ屬スル何レ
ノ轉轍器又ハ他ノ器械ヲ旋轉シ、動シ又ハ轉向シ或ハ不正ニ及害心ヲ
以テ何レノ鉄道ノ又ハ之ニ近キ何レノ信號又ハ燈光ヲ爲シ又ハ示シ
又ハ隠シ又ハ除去シ或ハ不正ニ及害心ヲ以テ何レノ他ノ事ヲ爲シ又
ハ爲サシメ上文所陳ノ場合ノ何レニ於テ斯ノ如キ鉄道上ニ旅行シ又
ハ在ル何レノ人ノ安寧ヲ妨害スル意ヲ以テスル者ハ重罪ノ罪アル者
タルヘシ而テ之ニ付テ決罪サレハ裁判所ノ裁量ヲ以テ終身又ハ三
年ヨリ少ラサル何レノ期限ノ懲役或ハ苦役アル又ハナキ及若シ年齢

十六歳以下ノ男子ナレハ管刑アル又ハナキ二年ニ超過セサル何レノ期限ノ禁獄ニ處セラレヘキ責アル者タルヘシ

第三十三條——何人ト雖モ不正ニ及害心ヲ以テ何レノ鉄道上ニ用井ラレタル何レノ機關炭車乗車又ハ貨車ニ又ハ對シテ又ハ内ニ又ハ上ニ何レノ木石又ハ他ノ物件ヲ投ケ又ハ落サシメ又ハ衝突セシメ斯ノ如キ機關炭車乗車又ハ貨車ノ内ニ又ハ上ニ或ハ斯ノ如キ機關炭車乗車又ハ貨車カ一部分ヲ爲ス何レノ一聯車ノ何レノ他ノ機關炭車乗車又ハ貨車ノ内ニ又ハ上ニ在ル何レノ人ヲ傷害シ又ハ其安寧ヲ妨害スル意ヲ以テスル者ハ重罪ノ罪アル者タルヘシ而テ之ニ付テ決罪サルレハ裁判所ノ裁量ヲ以テ終身又ハ三年ヨリ少ラサル何レノ期限ノ懲役或ハ苦役アル又ハナキ二年ニ超過セサル何レノ期限ノ禁獄ニ處セラレヘキ責アル者タルヘシ

第三十四條——何人ト雖モ何レノ不正ノ所爲ニ依テ又ハ何レノ故意ノ懈怠又ハ怠慢ニ依テ鉄道ニ於テ又ハ其上ニ運送サレタル又ハ在ル何レノ人ノ安寧ヲ妨害シ又ハ妨害セシメ又ハ之ニ加功又ハ幫助スル者ハ輕罪ノ罪アル者タルヘシ而テ之ニ付テ決罪サルレハ裁判所ノ裁量ヲ以テ苦役アル又ハナキ二年ニ超過セサル何レノ期限ノ禁獄ニ處セラヘキ責アル者タルヘシ

故意ノ懈怠ニ依テ鉄道旅人ノ安寧ヲ妨害シタル告訴狀

即チ中央刑事裁判所——我女帝陛下ノ爲ノ陪審員ハ某甲カ紀元千八百六十二年何月何日ニ於テ該某甲某ノ或ル故意ノ懈怠及怠慢ニ依テ之ヲ詳言スレハ當時旋轉スルハ該某甲某ノ義務タリシエムノ郡内ビーノ寺院區中ノ何々鉄道ト稱スル或ル鉄道ニ於ル及上ノ或ル轉轍器ヲ當時旋轉スルヲ故意ヲ以テ怠ルヨニ依テ當時該鉄道ニ於テ及上ニ運送

サレタル及在ル或ル人ノ安寧ヲ斯ノ如キ場合ニ於テ爲サレ及設ラレタル條例法ノ制定ニ反シ及我女帝陛下ノ治安帝權及威權ニ反シテ不正ニ妨害シタリシ事ヲ其宣誓ノ上訴フ

第三十二條及第三十三條ニ依レル告訴狀ハ意ノ記載ヲ異ニシテ第二編第一部第一章第六節中ノ云々ノ意ヲ以テ鉄線上ニ木ヲ置タル告訴狀ニ據テ製セラレ、コヲ得

輕罪、苦役アル又ハナキ二年ニ超過セサル禁獄、グヰクトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第三十四條

證據

轉轍器ヲ旋轉スルハ被告人ノ義務ナリシ事被告人ハ故意ヲ以テ斯ク爲スヲ怠リシ事及斯ノ如キ懈怠及怠慢ノ理由ニ依テ鉄道ノ上ニ運送サレタル又ハアル旅人又ハ他ノ人(此言語ハ旅人ノミナラス鉄道會社

ノ職員及雇人ヲモ亦含有スヘシ)ノ安寧カ妨害サレシ事ヲ證明スヘシ

馬車ノ疾驅ヨリ生スル傷害

條例法

グヰクトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第三十五條——何人ト雖モ何レノ馬車又ハ車ヲ保管スル者ニシテ濫リニ疾驅シ又ハ競走スルコニ依テ又ハ他ノ故意ノ不正ナル行爲ニ依テ故意ノ懈怠ニ依テ如何ノ人ニ何レノ身体上ノ傷害ヲ爲シ又ハ爲サシムル者ハ輕罪ノ罪アル者タルヘシ而テ之ニ付テ決罪サルレハ裁判所ノ裁量ヲ以テ苦役アル又ハナキ二年ニ超過セサル何レノ期限ノ禁獄ニ處セラレヘキ責アル者タルヘシ

告訴狀

起文ハ前文謀殺スル陰謀ノ部ノ告訴狀ノ如シ——當時馭者ニシテ客

車ト稱スル或ル馬車及車ヲ保管シテ該甲某ニ於テ該馬車及車ヲ濫リニ疾驅スルコトニ依テ斯ノ如キ場合ニ於テ爲サレ及設テレタル條例法ノ制定ニ反シ及我女帝陛下ノ治安帝權及威權ニ反シテ不正ニ或ル身体上ノ傷害ヲ乙某ナル者ニ爲サレシメタリシ云々

輕罪、苦役アル又ハナキ二年ニ超過セサル禁獄、ゾ井クトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第三十五條

証據

被告人ハ告訴狀ニ記サレタル如ク馬車ノ馭者タリシ事ヲ證明スヘシ疾驅及其爲ニ身体上ノ傷害カ乙某ニ爲サレシ事ヲ證明スヘシ

此主意ニ涉ル從前ノ條例法第四世ジョーシ帝即位第一年ノ第四章ハ只乗合馬車即チ公ノ馬車ノ疾驅ニノミ適用シ而テ只二頭ノ馬ニ依テ牽カレ而テ乗合馬車ノ如ク賃金ノ爲ニ往復セサル傭馬車ニ及ホサ、

リキ然レモ現今ノ條例法ハ總テ公私各種ノ馬車及車ヲ含有ス

僧徒等ノ職務ヲ行フテ妨礙スル事等

條例法

ゾ井クトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第三十六條——何人ト雖モ威嚇又ハ腕力ニ依テ何レノ僧徒又ハ他ノ法教師ノ何レノ寺院禮拜堂教會堂又ハ他ノ神拜ノ場所ニ於テ神拜ヲ舉行シ又ハ否ラスシテ職務ヲ行フテ妨礙シ又ハ故障シ又ハ妨礙シ又ハ故障セント計リ或ハ何レノ墓地又ハ他ノ埋葬地ニ於テ死者ノ正當ノ埋葬ニ於テ職務ヲ行フテ妨礙シ又ハ故障シ又ハ妨礙シ又ハ故障セント計リ或ハ本條中ニ前ニ記サレタル儀式又ハ職務ノ何レニ從事シタル又ハ犯罪人ノ知ル所ニシテ將ニ從事セントスル或ハ犯罪人ノ知ル所ニシテ該儀式又ハ職務ヲ行フ爲ニ往ントスル又ハ是等ヲ行フテ歸ラ

○九四

ントスル何レノ僧徒又ハ他ノ法教師ヲ打チ又ハ之ニ何レノ暴行ヲ加ヘ又ハ何レノ民事上ノ令狀ニ依テ又ハ民事上ノ令狀ヲ執行スルニ虛託シテ之ヲ逮捕スル者ハ輕罪ノ罪アル者タルヘシ而テ之ニ付テ決罪サルレハ裁判所ノ裁量ヲ以テ苦役アル又ハナキ二年ニ超過セサル何レノ期限ノ禁獄ニ處セラレヘキ責アル者タルヘシ

僧徒ノ職務ヲ行フヲ妨礙シタル告訴狀

起文ハ前文謀殺スル陰謀ノ部ノ告訴狀ノ如シ——當時エムノ郡内ビ一ノ寺院區ノ副法教師タル僧ナル乙某ナル者ノ該寺院區ノ寺院區寺院ニ於テ神拜ヲ舉行スル(又ハ該寺院區ノ寺院區寺院ノ墓地ニ於テ死者ノ正當ノ埋葬ニ於テ其職務ヲ行フ)ヲ斯ノ如キ場合ニ於テ爲サレ及設ラレタル條例法ノ制定ニ反シ及我女帝陛下ノ治安帝權及威權ニ反シテ不正ニ腕力(威嚇又ハ腕力)ニ依テ妨礙シ及故障シタリシ云々

輕罪、苦役アル又ハナキ二年ニ超過セサル禁獄、ツギトリア女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第三十六條

証據

乙某ハ告訴狀ニ記サレタル如ク僧ニシテビ一ノ寺院區ノ副法教師タル事被告人ハ該乙某ノ云々ノ寺院區ニ於テ神拜ヲ舉行スルヲ腕力ニ依テ妨礙シ及故障セシ又ハ斯ク爲スニ加功セシ事ヲ證明ス、シ第四世シヨ一シ帝即位第九年ノ廢止サレタル條例法第三十一章第二十三條ハ只國教寺院ノ僧徒ニノニ適用シタリキ然レモ現今ノ條例法ハ他ノ法教師及何レノ禮拜堂教會堂又ハ他ノ神拜ノ場所ニモ亦及ホスナリ

神拜等ノ舉行ニ從事シタル僧徒ヲ逮捕シタル告訴狀

一九四

起文ハ前文謀殺スル陰謀ノ部ノ告訴狀ノ如シ——僧ナル乙某ナル者

チ該乙某カ上文所陳ノ如キ僧トシテ神拜ヲ行フ爲ニ往ントスル間ニ當時該甲某ハ該乙某カ僧ニシテ上文所陳ノ如ク神拜ヲ行フ爲ニ往ントスルコトヲ好ク知リテ或ル民事上ノ令狀ニ依テ斯ノ如キ場合ニ於テ爲サレ及設ラレタル條例法ノ制定ニ反シ及我女帝陛下ノ治安帝權及威權ニ反シテ不正ニ逮捕シタリシ云々

輕罪、前項ノ例ヲ見ルヘシ、ヅ井クトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第三十六條

證據

乙某ハ僧タル事及告訴狀ニ記サレタル如ク被告人ニ依テ民事上ノ令狀ヲ以テ逮捕サレシ事ヲ證明スヘシ若シ告訴ハ乙某ノ神拜ヲ行フ爲ニ往ントスル又ハ神拜ノ舉行ヨリ歸ラントスル間ニ之ヲ逮捕シタルコトニ對スルモノナレハ被告人ハ乙某カ斯ク往ントスル又ハ歸ラント

ナルヲ知リシ事ヲ證明スヘシ

難破船ヲ救助スル官吏等ニ對スル攻撃

條例法

ヅ井クトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第三十七條——何人ト雖モ厄難ニ罹ル船又ハ難破シタル、打上ラレタル又ハ海岸ニ打上ラレタル又ハ水中ニ在ル何レノ船、物品又ハ貨物ノ救護ニ關シテ職務ヲ行フ權ヲ正當ニ附與サレタル何レノ治安官吏、官吏又ハ他ノ如何ノ人ヲ攻撃シ而テ打チ又ハ傷クル者ハ輕罪ノ罪アル者タルヘシ而テ之ニ付テ決罪サルレハ裁判所ノ裁量ヲ以テ七年ニ超過セズ三年ヨリ少テサル何レノ期限ノ懲役或ハ苦役アル又ハナキ二年ニ超過セサル何レノ期限ノ禁獄ニ處セラレヘキ責アル者タルヘシ

難破船ヲ救護スルノ職務ヲ行フ官吏等ヲ攻撃シタル告訴狀

即チサテセシス郡——我女帝陛下ノ爲シ陪審員ハ本狀中後ニ記載サレタル罪ノ犯行ノ時ノ前及時ニ於テ即チ我教主紀元何年六月一日ニ於テ乙某ナル者ハ當時治安官吏(正當ニ權ヲ附與サレタル治安官吏、官吏又ハ他ノ如何シ人)ニシテ當時難破シタル、打上ラレタル及海岸ニ打上ラレタル或ル船ノ(厄難ニ罹ル何レノ船又ハ難破シタル、打上ラレタル又ハ海岸ニ打上ラレタル又ハ水中ニアル何レノ船、物品又ハ貨物ノ)救護ニ關シテ斯ノ如キ官吏トシテ其職務ヲ行フニ從事シタリ該乙某ハ當時之ヲ行フ權ヲ正當ニ附與サレタリシ事及甲某カ好シ前文ノ事ヲ知リテ上文所陳ノ年及日ニ於テ該乙某ニ對シテ斯ノ如キ場合ニ於テ爲サレ及設ラレタル條例法ノ制定ニ反シ及我女帝陛下ノ治安、帝權及威權ニ反シテ不正ニ攻撃ヲ爲シ而テ上文所陳ノ如ク難破シタル、打上ラレタル及海岸ニ打上ラレタル該船ノ救護ニ關シテ該乙某ノ該職

務ヲ行フ際該乙某ヲ當時不正ニ打チ而テ傷ケ(打チ又ハ傷ケ)タリシ事ハ其宣誓ノ上訴フ
 輕罪、七年ヨリ多ラス三年ヨリ少ラサル懲役或ハ苦役アル又ハナキ二年ニ超過セサル禁獄、ゴボリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第三十七條
 證據
 乙某ハ告訴狀ニ記サレタル如ク官吏タリシ事(第一編第二章第二節ヲ見ルヘシ)船ハ難破等シタリシ事乙某ハ船ヲ救護セントスルコトニ從事セシ事甲某ハ記サレタル如ク乙某ヲ打シ及傷シ事及甲某ハ乙某ノ船ノ救護ニ於テ其職務ヲ行フ所以ヲ以テ斯ク打チシ事ヲ証明スヘシ是ハ被告人ノ告知又ハ所爲ニ依テ又ハ被告人ノ思念カ推定セラレ、コトヲ得ル狀況ニ依テ證明セラル、コトヲ得

難破船ヨリ逃避セントスル人ヲ妨礙スル事
條例法

グキントリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第十
七條——何人ト雖モ不正ニ及害心ヲ以テ厄難ニ罹レル又ハ難破シタ
ル、打上ラレタル又ハ海岸ニ打上ラレタル何レノ船舶内ニ在ル又ハ之
ヲ去リタル何レノ人ノ其生命ヲ救護セントスルヲ故障シ又ハ妨礙シ
或ハ不正ニ及害心ヲ以テ何レノ人ノ本條中最初ニ記サレタル如キ何
レノ人ノ生命ヲ救助セントスルヲ故障シ又ハ妨礙スル者ハ重罪ノ罪
アル者タルヘシ而テ之ニ付テ決罪サルレハ裁判所ノ裁量ヲ以テ終身
又ハ三年ヨリ少ラサル何レノ期限ノ懲役或ハ苦役アル又ハナキ及獨
囚アル又ハナキ二年ニ超過セサル何レノ期限ノ禁獄ニ處セラレヘキ
責アル者タルヘシ

告訴狀

即チサスセクス郡——我女帝陛下ノ爲ノ陪審員ハ本狀中後ニ記載サ
レタル重罪ノ犯行ノ時ノ前及時ニ於テ即チ我教主紀元何年六月一日
ニ於テ或ル船(船舶)カ打上ラレ及海岸ニ打上ラレ(厄難ニ罹リ又ハ難破
シ、打上ラレ又ハ海岸ニ打上ラレ)タリシ事及某甲ハ上文所陳ノ年及日
ニ於テ當時上文所陳ノ如ク打上ラレ及海岸ニ打上ラレタル該船ヨリ
其生命ヲ救助セントスル乙某ナル者ヲ斯ノ如キ場合ニ於テ爲サレ及
設ラレタル條例法ノ制定ニ反シ及我女帝陛下ノ治安、帝權及威權ニ反
シテ惡意ヲ以テ不正ニ及害心ヲ以テ故障シ及妨礙シタリシ事ヲ其宣
誓ノ上訴フ
重罪、終身又ハ三年ヨリ少ラサル懲役或ハ苦役アル又ハナキ及獨囚
(獨囚)何レノ一回一ヶ月ニ超過セス又何レノ一年間三ヶ月ニ超過セ

ス、ゾ、井、ク、トリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第七十條)アル又ハナキ二年ニ超過セサル禁獄、ゾ、井、ク、トリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第十七條

此罪ハ何レノ四季裁判期ニ於テ訊問サレヘキモノニアラス、ゾ、井、ク、トリヤ女帝即位第五年及第六年ノ條例法第三十八章第一條

証據

船ハ告訴狀ニ記サレタル如ク打上ラレ及海岸ニ打上ラレシ事ヲ證明スヘシ乙某ハ船カ打上ラレシ後其生命ヲ救助セントセシヲ證明スヘシ乙某ハ船内ニアリシ乎又ハ船ヲ去リシ乎ハ不緊切ナリ、第四世ウ井リヤム帝即位第七年及ゾ、井、ク、トリヤ女帝即位第一年ノ條例法第十九章第七條、被告人ハ乙某ノ生命ヲ救助セントスルヲ妨礙シ又ハ故障セシ事ヲ證明スヘシ而テ所爲ハ害心ヲ以テ爲サレシ詳言スレハ故

意ヲ以テ爲サレシ事ヲ證明スヘシ(第二編第一部第一章第五節中ノ云々ノ意ヲ以テ家屋ニ火ヲ放タル告訴狀ノ部ノ証據ヲ見ルヘシ)

水夫ヲ強テ上陸セシムル事

條例法

ゾ、井、ク、トリヤ女帝即位第十七年及第十八年ノ條例法第百四章第二百六條——若シ何レノ英船ニ屬スル船長又ハ何レノ他ノ人カ斯ノ如キ船ニ屬スル何レノ水夫又ハ修業人ナリ此等ノ者カ爲ニ備ハレシ航海ヲ終ル前又ハ船ノ合衆帝國ニ歸着前ニ女帝陛下ノ領地ノ内又ハ外ノ海岸ニ於ル又ハ海上ニ於ル何レノ場所ニ不正ニ強テ上陸セシメ而テ置テ去リ或ハ否ラスシテ故意ヲ以テ不正ニ置テ去ラハ該船長又ハ他人ハ各ノ斯ノ如キ罪ノ爲ニ輕罪ノ罪アル者ト思量セラルヘシ

第二百七條——若シ何レノ英船ノ船長カ左ノ事項ノ何レヲ爲サハ(詳

言スレハ第一、何レノ水夫又ハ修業人ヲ海外ノ何レノ英領水夫又ハ修業人カ乗組タリシ領地ヲ除キ内ニ在ル何レノ場所ニ於テ解傭スルニ前以テ契約書ニ裏書サレタル認可ヲ爲スヘキヲ地方官廳ヨリ正當ニ委任サレタル公ノ船長又ハ他ノ官吏ノ或ハ何レノ斯ノ如キ職員アラスル場合ニ於テハ解傭ヲ爲ス場所ニ又ハ其近傍ニ住居スル税關長ノ認可書ヲ得ルコトナクシテ之ヲ解傭セハ第二、何レノ水夫又ハ修業人ヲ女帝陛下ノ領地外ノ何レノ場所ニ於テ解傭スルニ前以テ上文所陳ノ如ク裏書サレタル該場所ノ英領事ノ又ハ領事セラサル場合ニ於テハ該場所ニ住居スル尊敬スヘキ商人二名ノ認可書ヲ得ルコトナクシテ之ヲ解傭セハ第三、何レノ水夫又ハ修業人ヲ海外ノ何レノ英領内ニ在ル何レノ場所ニ如何ノ理由ヲ以テ置テ去ルニ前以テ其事實及理由ヲ斯ノ如キ理由ハ航海ニ從事スルノ不適當又ハ無能或ハ逃亡又ハ隱遁又

ルニ拘ハラヌ記ルセル上文所陳ノ如ク裏書サレタル証書ヲ上文所陳ノ如キ官吏又ハ人ヨリ得ルコトナクシテ之ヲ置テ去ラハ第四、何レノ水夫又ハ修業人ヲ女帝陛下ノ領地外ノ何レノ場所ニ於ル海岸又ハ海上ニ如何ノ理由ヲ以テ置テ去ルニ前以テ上文所陳ノ方法及事實ヲ以テ裏書サレタル該場所ノ英領事ノ又ハ領事セラサル場合ニ於テハ若シ當時船ノ在ル場所ニ又ハ其近傍ニ何レノ尊敬スヘキ商人アラハ其二名ノ証書ヲ得ルコトナクシテ之ヲ置テ去ラハ該船長ハ各ノ斯ノ如キ過失ノ爲ニ輕罪ノ罪アル者ト思量セラルヘシ而テ該職員ハ斯ノ如ク申立ラレタル解傭ノ理由及上文所陳ノ如キ不適當無能逃亡又ハ隱遁ノ告白ヲ零式方法ヲ以テ吟味スヘシ而テ該商人ハ之ヲ吟味スルコトヲ得而テ該職員及商人ハ此目的ノ爲ニ若シ至當ト思考セハ宣誓ヲ施行スルコトヲ得而テ斯ノ如キ認可又ハ保証ヲ正當ト見ユルニ隨テ與ヘ又ハ

拒ムコトヲ得

第二百八條——証書ノ證明ハ被告人ニ存スル事——此條例法ノ正條ニ反シテ何レノ水夫又ハ修業人ヲ解備シ又ハ置テ去リタルコトニ對シテ何レノ人ニ對スル何レノ告發告訴ノ訊問又ハ他ノ手續ニ於テ此條例法ニ依テ要セラレタル認可書又ハ證書ヲ提出シ又ハ斯ノ如キ人カ斯ノ如キ水夫又ハ修業人ヲ解備シ又ハ置テ去リタル以前ニ認可又ハ保證ヲ得タリシコトヲ證明シ又ハ斯ノ如キ認可又ハ保證ヲ得ルハ斯ノ如キ人ノ爲ニ能ス可ラサル事ナリシコトヲ證明スルハ斯ノ如キ人ニ存スヘシ

第五百十八條——苦役——費用——蘇格蘭國ヲ除クノ外總テ女帝陛下ノ領地内ノ場所ニ於テハ本條中後ニ記載サレタル罪ハ左ノ方法ヲ以テ罰セラレ而テ費用カ回復セラレヘシ(詳言スレハ)第一、本條例法ニ

依テ輕罪ト布告サレタル各罪ハ罰金或ハ苦役アル又ハナキ禁獄ヲ以テ罰セラレヘキモノタルヘシ而テ斯ノ如キ罪ヲ訊問スル裁判所ハ英國ニ在テハ斯ノ如キ輕罪カ第四世ジョージ帝即位第七年ニ頒布サレタル條例法第六十四章又ハ同一ノ目的ヲ以テ頒布サレヘキ何レノ他ノ條例法中ニ枚擧サレタリシト同一ノ許容(費用)ヲ爲シ而テ同一ノ費用及雜費ノ拂渡ヲ命令スルコトヲ得而テ女帝陛下ノ領地ノ何レノ他ノ部分ニ在テハ何レノ現行ノ條例法又ハ法令ニ依テ何レノ輕罪ノ訊問上許容サレ又ハ拂渡サレヘキモノタルカ如キ或ハ當時實施ノ何レノ條例法又ハ法律ニ依テ許容サレ又ハ拂渡サレヘキモノタルコトヲ得ルカ如キ許容ヲ爲シ而テ斯ノ如キ費用及雜費(若シアラハ)ノ拂渡ヲ命令スルコトヲ得第二、本條例法ニ依テ輕罪ト布告サレタル各罪ハ亦本條例法ニ依テ苦役アル又ハナキ六ヶ月ニ超過セサル何レノ期限ノ禁獄ヲ

四〇五

以テ又ハ百磅ニ超過セサル罰金ヲ以テ罰セラレヘキモノト爲サレタル罪ト思量セラレヘシ而テ是故ニ輕罪トシテ告訴サル、代リニ略式方法ヲ以テ告訴セラレ、コヲ得第三、本條例法ニ依テ苦役アル又ハナキ六ヶ月ニ超過セサル何レノ期限ノ禁獄ヲ以テ又ハ百磅ニ超過セサル罰金ヲ以テ罰セラレヘキ者ト爲サレタル各罪ハ英國及愛國ニ於テ何レノ二名又ハ以上ノ治安判事ノ前ニ略式方法ヲ以テ英國ニ付テハ女帝ゾ非クトリヤ陛下即位第十一年及第十二年ノ條例法第四十三章ニ依テ指令サレタル方法ヲ以テ而テ愛國ニ付テハ女帝ゾ非クトリヤ陛下即位第十四年及第十五年ノ條例法第九十三章ニ依テ指令サレタル方法ヲ以テ又ハ同一ノ目的ヲ以テ頒布サレヘキ何レノ條例法ニ依テ指令サレヘキカ如キ他ノ方法ヲ以テ告訴セラレヘシ而テ該條例法中ニ包含サレタル總テノ正條ハ告訴ノ爲サレタル罪カ該條例法ニ依

五〇五

テ二名又ハ以上ノ治安判事カ略式方法ヲ以テ決罪シ又ハ略式ノ命令ヲ爲ス權ヲ有スル罪ト記載サレシト同一ノ方法ヲ以テ斯ノ如キ告訴ニ適用スヘキモノタルヘシ第四、英國ニ於テ略式決罪ノ總テノ場合ニ於テ拂ハルヘシ裁判サレタル金額カ五磅ニ超過シ又ハ裁判サレタル禁獄ノ期限カ一ヶ月ニ超過スル場合ニ於テ斯ノ如キ決罪ニ依テ害セラレタリト自ラ思考スル何レノ人ハ斯ノ如キ決罪ノ日ノ十二日ヨリ少ラサル後ニ該事件ノ訊問サレタリシ郡府市區、リベルテ、ライジング、ジグ、非シユン又ハ場所ノ爲ニ開カル、次回ノ一般又ハ四季裁判期裁判所ニ上訴スルコヲ得然レモ斯ノ如キ人ハ斯ノ如キ決罪ノ後三日内及斯ノ如キ裁判期ノ少クモ全七日前ニ斯ノ如キ上訴及其理由及事情ノ通知書ヲ原告訴人ニ送ルヘシ而テ亦裁判期マテ拘留内ニ在ルヘシ又ハ該裁判期ニ自身出廷シ而テ斯ノ如キ上訴ヲ爲シ而テ之ニ依テ裁判

所ノ裁判ヲ待チ而テ裁判所ヨリ斷定サレヘキカ如キ費用ヲ拂フヘキ
 條件アル承諾ヲ二名ノ充分ナル保證人ヲ以テ治安判事ノ前ニ記入ス
 ヘシ而テ斯ノ如キ通知カ爲サレ及斯ノ如キ承諾カ記入サル、上ハ之
 カ其前ニ記入サレヘキ治安判事ハ斯ノ如キ人ヲ若シ拘留内ニアラハ
 放釋スヘシ而テ該裁判期ニ於ル裁判所ハ上訴ノ事件ヲ審問斷定スヘ
 シ而テ之ニ付テ裁判所ニ至當ト見ユルカ如キ命令ヲ何レノ關係人ニ
 費用ヲ以テ又ハナシニ爲スヘシ而テ上訴ノ棄却即チ決罪確定ノ場合
 ニ於テハ犯罪人ヲ決罪ニ從テ罰セラレヘク且裁定サレヘキカ如キ費
 用ヲ拂フヘク命令シ及裁判スヘシ而テ若シ必要ナレハ斯ノ如キ裁判
 ヲ執行スル爲ノ令狀ヲ發スヘシ第五此條例法内ノ總テノ罪ハ何レノ
 英領ニ於テハ同性質ノ罪カ通例罰セラレヘキ裁判所ニ於テ又ハ何レ
 ノ治安判事又ハ官吏ニ依テ罰セラレヘキモノタルヘシ或ハ斯ノ如キ

領地ニ於ル條例法及法令カ法律ノ効力ヲ有スル爲ニ制定サレヘク要
 セラレタル如キ方法ヲ以テ斯ノ如キ領地ニ於テ正當ニ制定サレタル
 何レノ條例法又ハ法令ニ依テ時々決定サレヘキカ如キ他ノ方法ヲ以
 テ又ハ他ノ裁判所治安判事又ハ官吏ニ依テ罰セラレヘキモノタルヘ
 シ

第五百二十條 犯罪地——本條例法ニ依テ管轄權ヲ附與スルノ目
 的ヲ以テ各罪ハ之カ實ニ犯サレシ又ハ出來セシ場所ニ於テ或ハ犯罪
 人即チ被告人ノ在ルヘキ何レノ場所ニ於テ犯サレタリト思量セラル
 ヘシ而テ告訴ノ各原因カ生ジタリト思量セラルヘシ

水夫ヲ強テ上陸セシメ而テ置テ去リタル告訴狀

即チミッドルセクス郡——我女帝陛下ノ爲ノ陪審員ハ甲某カ我教主紀
 元何年六月一日ニ於テ當時ラットラルト稱スル或ル英船ノ船長ニシテ

當時該船ニ屬スル水夫タル乙某ナル者ヲ該乙某カ爲ニ傭ハレタリシ
 該船ノ航海ハ當時終ラサルニ斯ノ如キ場合ニ於テ爲サレ及設ラレタ
 ル條例法ノ制定ニ反シ及我女帝陛下ノ治安帝權及威權ニ反シテ不正ニ
 故意ヲ以テ及惡意ヲ以テ女帝陛下ノ領地外ノ或ル場所詳言スレハ米
 合衆國內ノ新約克府ニ於テ強テ上陸セシメ而テ置テ去リタリシ事ヲ
 其宣誓ノ上訴ヲ而テ上文所陳ノ陪審員ハ該甲某カ現今ミッドルセル
 ス郡内ウエストミンストル府内ノ何々ノ寺院區ニ在ル事ヲ其上文所
 陳ノ宣誓ノ上尙訴フ、英船タルノ告白ハ緊切ナル告白ニシテ
 記サレタル如ク証明サレサル可ラス
 輕罪、罰金或ハ苦役アル又ハナキ禁獄或ハ兩ツ、少井クトリヤ女帝即
 位第十七年及第十八年ノ條例法第四百章第二百六條第五百十八條海
 外ニ在ル證人ノ吟味ニ付テハ同條例法同章第二百七十條ヲ見ルヘシ

證據

被告人ハ船ノ船長タリシ又ハ船長トシテ從事セシ事及船ハ犯罪ノ當
 時英船ナリシ事ヲ證明スヘシ乙某ハ當時水夫ノ一人ナリシ事(乙某ハ
 船ノ原來ノ水夫ノ一人タリシヤ又ハ否ラサリシヤハ不緊切ナリ)乙某
 カ爲ニ傭ハレシ航海ハ當時終ラサリシ事及被告人ハ乙某ヲ強テ上陸
 セシメ而テ告訴狀ニ記載サレタル場所ニ置テ去リシ事ヲ證明スヘシ
 若シ被告人カ故意ヲ以テ告訴人ヲ置テ去リタリト証明サレタレハ被
 告人カ爲シ能ク辨護ハ只第二百八條ニ依テ得ラレタル證書ノ提出又
 ハ該條中ニ記載サレタル狀況ニ依テ斯ノ如キ證書ヲ得ル能ハサリシ
 事タルノミ

條例法

重罪ヲ犯ス爲ニ治安官吏等ニ對スル攻撃

グ非クトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第三十八條——何人ト雖モ重罪ヲ犯ス意ヲ以テ何レノ人ヲ攻撃シ又ハ何レノ治安官吏ノ職務ヲ行フ際該官吏又ハ該官吏ノ補助ニ從事スル何レノ人ヲ攻撃シ又ハ之ニ抵抗シ又ハ故意ヲ以テ妨礙シ又ハ何レノ犯罪ノ爲ニ自身又ハ何レノ他ノ人ノ正當ナル逮捕又ハ拘留ニ抵抗シ又ハ之ヲ妨礙スル意ヲ以テ何レノ人ヲ攻撃スル者ハ輕罪ノ罪アル者タルヘシ而テ之ニ付テ決罪サルレハ裁判所ノ裁量ヲ以テ苦役アル又ハナキ二年ニ超過セサル何レノ期限ノ禁獄ニ處セラレヘキ責アル者タルヘシ

告訴狀

起文ハ前文實ニ身体上ノ傷害ヲ致ス攻撃ノ告訴狀ノ如シ——上帝及當時ノ我女帝陛下ノ治安中乙某ナル者ニ對シテ斯ノ如キ場合ニ於テ

爲サレ及設ラレタル條例法ノ制定ニ反シ及我女帝陛下ノ治安帝權及威權ニ反シテ不正ニ攻撃ヲ爲シ而テ該乙某ヲ云々ノ(此處ニ企ラレタル重罪ヲ左ノ如ク記スヘシ)即チ該乙某ヲ惡意ヲ以テ故意ヲ以テ及豫謀ノ害心ヨリ殺害シ及謀殺スル意ヲ以テ打チ傷ケ及惡待シ而テ當時該乙某ニ其大ナル損害ニマテ他ノ惡事ヲ爲シタリシ云々
 普通ノ攻撃ニ對スル告示ヲ附加スヘシ前文實ニ身体上ノ傷害ヲ致ス攻撃ノ告訴狀ノ部ヲ見ルヘシ
 輕罪、苦役アル又ハナキ二年ニ超過セサル禁獄、グ非クトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第三十八條

證據

一個ノ人ニ對シテ其承諾ナシニ重罪ヲ犯サントスル各試計ハ攻撃ヲ含有ス、試計ヲ斯ノ如キ重罪ヲ犯サントスルモノト証明スヘシ而テ之

ヲ試計カ遂ラレタリセハ被告ハ重罪ニ付テ決罪サレタルヘキカ如キ狀況ヲ以テ爲サレタリト証明スヘシ若シ意ヲ証明スルチ錯ルト雖モ攻撃ヲ証明セハ被告人ハ普通ノ攻撃ニ付テ決罪セラル、トテ得治安官吏ヲ其職務ヲ行フ際攻撃シタル告訴狀

起文ハ前文實ニ身体上ノ傷害ヲ致ス攻撃ノ告訴狀ノ如シ——當時治安官吏即チ警察官其職務ノ執行ニ於ル何レノ治安官吏又ハ該官吏ノ補助ニ從事スル何レノ人タル而テ當時斯ノ如キ警察官トシテ其職務ノ正當ノ執行ニ於ル乙某ナル者ニ對シテ斯ノ如キ場合ニ於テ爲サレ及設ラレタル條例法ノ制定ニ反シ及我女帝陛下ノ治安帝權及威權ニ反シテ攻撃ヲ爲シ而テ上文所陳ノ如ク其職務ノ執行ニ於ル該乙某ヲ當時打チ傷ケ及惡待シ而テ該乙某ニ當時其大ナル損害ニマテ他ノ惡事ヲ爲シタリシ云々、普通ノ攻撃ニ對スル告示ヲ附加スヘシ、

前文實ニ身体上ノ傷害ヲ致ス攻撃ノ告訴狀ノ部ヲ見ルヘシ輕罪、少井ノトリヤ女帝即位第二十四及第二十五年ノ條例法第百章第三十八條、前項ノ例ヲ見ルヘシ、特別警察官ヲ攻撃スル事ニ付テハ第四世ウヰリヤム帝即位第一年及第二年ノ條例法第四十一章第十一條ヲ見ルヘシ

證據

乙某ハ告訴狀ニ記サレタル如ク治安官吏タリシ事ヲ該乙某カスノ如キ者トシテ從事シタリシ事ヲ示シテ證明スヘシ(第一編第二章第二節ノ末段ヲ見ルヘシ)或ハ若シ告訴狀カ官吏ノ補助ニ從事スル乙某ヲ攻撃シタルトニ對スル者ナレハ官吏ハ斯ノ如キモノトシテ從事セシ事及乙某ハ其補助ニ從事シタリシ事ヲ證明スヘシ乙某ハ其職務ノ正當ノ執行ニアリシ事ヲ證明スヘシ(第二編第一部第二章第一節謀

四一五

殺ノ部ノ證據ノ部ヲ見ルヘシ而テ攻撃ヲ前文實ニ身体上ノ傷害ヲ致ス攻撃ノ告訴狀ノ部ノ證據中ニ指令サレタル如クニ証明スヘシ
 寺院區警察官ノ補任及職務ニ付テハ現今ハヅ井クトリヤ女帝即位第五年及第六年ノ條例法第百九章ヲ見ルヘシ亦首府警察官ニ付テハ第四世ヨヨシ帝即位第十年ノ條例法第四十四章ヲ井クトリヤ女帝即位第二年及第三年ノ條例法第四十七章第七十一章ヲ見ルヘシ一般ニ郡及市區ノ警察官ニ付テハヅ井クトリヤ女帝即位第二年及第三年ノ條例法第九十三章同女帝即位第三年及第四年ノ條例法第八十八章同女帝即位第十九年及第二十年ノ條例法第六十九章ヲ見ルヘシ
 治安ヲ保持スル爲ニ其職務ノ執行ニ於ル警察官ヲ補助スルヲ拒ムハ習慣法ニ於ル告訴スヘキ輕罪ナリ斯ノ如キ告訴狀ヲ維持スル爲ニハ警察官カ治安ノ紊亂サレタルヲ見シ事被告人ニ該官ノ補助ヲ求ム

ル爲ノ正當ナル必要アリシ事及被告人ハ斯ク爲スヘク正當ニ求メラレタル時何レノ身体上ノ無能又ハ正當ノ辨解ナクシテ斯ク爲スヲ拒シ事カ証明サレサル可ラス而テ被告人ノ單一ナル補助ハ利益ノモノタル能ハサリシ事ハ辨護タラサルナリ

逮捕ヲ妨クル爲ノ攻撃ノ告訴狀

起文ハ等二編第一部第一章第一節竊盜ノ部ノ告訴狀ノ如シ——上帝及當時ノ我女帝陛下ノ治安中乙某ナル者ニ對シテ斯ノ如キ場合ニ於テ爲サレ及設ラレタル條例法ノ制定ニ反シ及我女帝陛下ノ治安帝權及威權ニ反シテ攻撃ヲ爲シ而テ斯ク爲シテ或ル罪詳言スレハ何々(一般ニ罪ヲ記スヘシ)爲ニ該某甲某ノ正當ナル逮捕逮捕又ハ拘留ニ抵抗シ及之ヲ妨クル(抵抗シ又ハ妨クル)意ヲ以テ該乙某ヲ當時打テ傷ケ及惡待シタリシ云々
 前文實ニ身体上ノ傷害ヲ致ス攻撃ノ告訴

五一五

狀ノ如ク普通ノ攻撃ニ對スル告示ヲ附加スヘシ
輕罪、少井クトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百
章第三十八條前々項ノ例ヲ見ルヘシ

證據

攻撃ヲ前文實ニ身体上ノ傷害ヲ致ス攻撃ノ告訴狀ノ部ノ證據中ニ指
令サレタル如クニ証明スヘシ而テ意ヲ第一編第二部第一章中ニ指令
サレタル如クニ証明スヘシ逮捕ハ正當ナリシ事カ記サレ及証明サレ
サル可ラス(第二編第一部第二章第一節謀殺ノ部ノ證據ヲ見ルヘシ)若
シ意ヲ証明スルコトヲ錯ラハ被告人ハ普通ノ攻撃ニ付テ決罪セラル、
コトヲ得

不正ノ會合ヨリ起ル攻撃

條例法

ヅキクトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第四
十一條——何人ト雖モ賃金ノ度ヲ上ル爲ノ何レノ不正ノ會合又ハ陰
謀或ハ何レノ商業、職業又ハ製造ニ付テ又ハ之ニ關係セル又ハ傭使サ
レタル何レノ人ニ付テ何レノ不正ノ會合又ハ陰謀ニ依テ不正ニ何レ
ノ人ヲ攻撃スル者ハ輕罪ノ罪アル者タルヘシ而テ之ニ付テ決罪サル
レハ裁判所ノ裁量ヲ以テ苦役アル又ハナキ二年ニ超過セサル何レノ
期限ノ禁獄ニ處セラレヘキ責アル者タルヘシ

賃金ヲ上ル陰謀ニ依テノ攻撃ノ告訴狀

即チラソカジョヤ郡——我女帝陛下ノ爲ノ陪審員ハ甲某丙某及丁某
カ我教主紀元何年八月一日ニ於テ當時木綿紡績ノ藝術、職業及事業ノ
職工及傭役人ニ通常拂ハレタル賃金ノ割ヲ上ンカ爲ニ相共ニ陰謀シ
會合シ同盟シ及一致シタリシ事及該甲某丙某及丁某カ上文所陳ノ年

及日ニ於テ該陰謀ニ依テ上帝及當時我女帝陛下ノ治安中乙某ナル者ニ對シテ斯ノ如キ場合ニ於テ爲サレ及設ラレタル條例法ノ制定ニ反シ及我女帝陛下ノ治安帝權及威權ニ反シテ攻撃ヲ爲シ而テ該乙某ヲ打テ傷ケ及惡待シ而テ該乙某ノ大損害ニマテ他ノ惡事ヲ之ニ爲シタリシ事ヲ其宣誓ノ上訴フ、被告人ハ木綿紡績ノ藝術職業及事業ノ職工及傭役人ノ賃金ノ割ヲ上ノカ爲ニ最前甲某丙某及丁某ノ契約セル或ル陰謀ニ依テ乙某ヲ攻撃セシ事ヲ記ス告示ヲ附加スヘシ前文實ニ身体上ノ傷害ヲ致ス攻撃ノ告訴狀ニ於ルカ如ク普通ノ攻撃ノ告示ヲ附加スヘシ

輕罪、苦役アル又ハナキ三年ニ超過セサル禁獄、ゴシトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第四十一條

證據

陰謀ヲ告訴狀ニ記サレタル如クニ証明スヘシ第二編第三部ヲ見ル、シ而テ攻撃ヲ前文實ニ身体上ノ傷害ヲ致ス攻撃ノ告訴狀ノ部ノ證據等ノ中ニ指令サレタル如クニ証明スヘシ攻撃ハ此陰謀ニ從テ爲サレシ事モ亦証明スヘシ若シ此証明ヲ錯ラハ被告人ハ普通ノ攻撃ニ付テ決罪セラレ、コヲ得

獵鳥獸看守人ヲ攻撃スル事

條例法

第四世シヨ一ツ帝即位第九年ノ條例法第六十九章第二條——何レノ人カ何レノ地ニ於テ本條例法中前ニ記載サレタル(第一條、載セテ本編第二部第五章第五節ニアリ)如キ何レノ罪ヲ犯シテ發見サル、場合ニ於テハ斯ノ如キ地ノ所有者又ハ領有者ニ於テ或ハ其地内ニ自由ノ蓄場(鳥獸)又ハ自由ノ獵場ノ權利又ハ認定サレタル權利ヲ有スル何レノ

人ニ於テ或ハ斯ノ如キ地ノ其中ニ在ル貴族領又ハ認定サレタル貴族領ノ領主ニ於テ並又何レノ獵鳥獸看守人又ハ本條中ニ記載サレタル人ノ何レノ雇人又ハ斯ノ如キ看守人又ハ雇人ヲ補助スル何レノ人ニ於テ斯ノ如キ犯罪人ヲ斯ノ如キ地ニ於テ捕ヘ及逮捕シ或ハ追捕ヲ爲ス場合ニ於テハ犯罪人カ逃走シタルヘキ何レノ他ノ地ニ於テ捕ヘ及逮捕シ而テ之ヲ二名ノ治安判事ノ前ニ引致サレンカ爲コ成ルヘク速ニ治安官吏ニ引渡スハ正當ナルヘシ而テ斯ノ如キ犯罪人カ本條例法ニ依テ之ヲ捕ヘ及逮捕スル權ヲ附與サレタル何レノ人ニ對シテ何レノ小銃弩銃器大頭棒杖又ハ何レノ他ノ兇器ヲ以テ攻撃ヲ爲シ又ハ何レノ暴行ヲ爲ス場合ニ於テハ該犯罪人ハ是カ其初犯再犯又ハ何レノ他ノ犯罪タルニ拘ハラズ輕罪ノ罪アル者タルヘシ而テ之ニ付テ決罪サルレハ裁判所ノ裁量ヲ以テ七年間海外ノ徒刑ニ處セラレ又ハ二年

ニ超過セサル何レノ期限間普通監獄又ハ矯正院ニ於テ禁獄ニ處セラレ而テ苦役ニ服セシメラレヘキ責アル者タルヘシ而テ蘇格蘭ニ於テ何レノ人カ斯ノ罪ヲ犯ス時ハ每ニ其人ハ同様ニ罰セラレヘキ責アル者タルヘシ

ヴヰクトリア女帝即位第七年及第八年ノ條例法第二十九章第一條——本編第二部第五章第六節ヲ見ルヘシ
 ヴヰクトリア女帝即位第二十年及第二十二年ノ條例法第三章——第二編第一部第一章第一節ヲ見ルヘシ

告訴狀

即チエスセクス郡——我女帝陛下ノ爲ノ陪審員ハ本狀中後ニ記載サレタル攻撃ノ犯行ノ時即チ我教主紀元何年十一月一日ニ於テ夜間即チ同日ノ夜中第十時頃某甲ハ不正ニ當時及上文所陳ノ如ク夜中不正

ニ獵鳥獸ヲ取リ及殺ス目的ヲ以テ小銃ヲ携帯シテエスセクス郡内何々ノ寺院區ニ在ル丙某ナル者ノ(領有ノ)或ル地(何レノ地)内ニ在リシ事及該甲某ハ當時上文所陳ノ如ク夜中該地内ニ在リテ上文所陳ノ目的ヲ以テ該小銃ヲ携帯シテ該丙某ノ雇人ニシテ當時該甲某ヲ捕ヘ及逮捕スル正當ノ權ヲ有スル乙某ナル者(斯ノ如キ地ノ所有者又ハ領有者或ハ其地上ニ自由ノ蓄場又ハ自由ノ獵場ノ權利又ハ認定サレタル權利ヲ有スル何レノ人或ハ斯ノ如キ地ノ其中ニ在ル貴族領又ハ認定サレタル貴族領ノ領主或ハ何レノ獵鳥獸看守人又ハ本條中ニ記載サレタル人ノ雇人或ハ斯ノ如キ看守人又ハ雇人ヲ補助スル何レノ人)ニ發見サレタリシ事及該乙某ハ當時該甲某ヲ捕ヘ及逮捕スル權ヲ有スルヲ以テ上文所陳ノ犯罪ヲ爲シ該甲某ヲ將ニ捕ヘ及逮捕セントセシニ該甲某ハ當時其兩手ニテ持チシ上文所陳ノ小銃(何レノ小銃、弩銃器、大

頭棒、杖、棒又ハ他ノ兇器)ヲ以テ當時斯ノ如キ場合ニ於テ爲サレ及設テレタル條例法ノ制定ニ反シ及我女帝陛下ノ治安、帝權及威權ニ反シテ不正ニ該乙某ヲ攻撃シ及打テ(攻撃シ又ハ對シテ暴行ヲ爲シ)タリシ事ヲ其宣誓ノ上訴フ

若シ被告人カ地内ヨリ逃走シ而テ追從サレタリセハ告訴狀ノ未毀ニ該甲某ハ當時該地ヨリ同所ニ在ル他ノ圍地内ニ逃入リタリ而テ之ニ依テ該乙某ハ上文所陳ノ如ク該甲某ヲ捕ヘ及逮捕スル目的ヲ以テ該最後ニ記載サレタル圍地内ニ該甲某ヲ追入リシ事及該乙某ハ云々上文所陳ノ犯罪ヲ爲シ該甲某ヲ將ニ捕ヘ及逮捕セントセシニ云々(テ附加スヘシ)此告示ハ第九條ニ依レル告示ト聯結セラル、コトヲ得只被告

人カ(當時上文所陳ノ如ク夜中云々該地内ニ發見サレシ)事ノミヲ記セシ告訴狀ハ被告人カ告訴狀ノ前部ニ告訴サレタル罪ヲ犯シテ發見サ

レシ事ヲ充分ニ示サストシテ不正ト認ラレタリキ
 輕罪、七年ヨリ多ラス三年ヨリ少ラサル懲役或ハ二年ヨリ多ラサル
 禁獄及苦役、第四世ジョーシ帝即位第九年ノ條例法第六十九章第二條、
 少キクトリヤ女帝即位第二十年及第二十一年ノ條例法第三章(第二編
 第一部第一章第一節ヲ見ルヘシ)

證據

被告人ハ記サレタル寺院區内ニ於ル丙某ニ屬スル又ハ其領有ノ或ル
 地ニ入りシ事ヲ證明スヘシ圍地ノ名ヲ記スハ緊要ニアラスト雖モ若
 シ記サレタレハ是ハ證明サレサル可ラス又寺院區又ハ土地ノ記載ノ
 相違ハ有害タルヘシ被告人ハ夜間詳言スレハ日没ノ後第一ノ一時ノ
 終リト日出前ノ最後ノ一時ノ始メトノ間ノ時ニ地ニ入りシ事ヲ證明
 スヘシ第四世ジョーシ帝即位第九年ノ條例法第六十九章第十二條時

ヲ記スハ緊要ニアラスト又若シ記サレタリト雖モ若シ證明サレタル時
 カ上文ニ記載サレタル時限内ニアラハ證明サル、ヲ要セス被告人ハ
 小銃等ヲ携帯シタリシ事及鳥獸ヲ殺ス目的ヲ以テ地上ニ在リシ事ヲ
 證明スヘシ亦被告人ハ地ニ於テ罪ヲ犯シテ發見サレシ事モ證明スヘ
 シ條例法ノ言語ハ何レノ地ニ於テ發見サレタルナリ其言語ハ何レノ
 森林ニ入り又ハ森林ニ於テ發見サレ云々タリシ第三世ジョーシ帝即
 位第五十七年ノ廢止サレタル條例法第九十章第三條ニ依テ被告人カ
 圍地内ニ發見サレサリシト雖モ近隣ノ圍地内ニ見ヘタリ而テ其見ヘ
 シ暫テク前ニ發銃ノ響カ圍地内ニ聞ヘクリ而テ陪審官ハ被告人カ圍
 地内ニ於テ發銃シタリシ事ヲ見出セシ場合ニ於テ被告人ハ告訴狀カ
 發見サレタリト之ヲ記セシ圍地内ニ見ヘシ事ヲ證明スルハ緊要ナリ
 シ乎否ノ問題カ數判事ニ於テ斷決ノ爲メ留置サレシニ該判事ハ被告

人カ銃器ヲ携帯シテ園地内ニ入りシ事ヲ陪審官カ満足シタリシカ故
 ニ之ヲ充分ト認タリキ(第二部第五章第五節ヲ看ルヘシ)乙某ハ地ノ所
 有者又ハ領有者(或ハ若シ罪カ何レノ公道街道又ハ小路又ハ此等ノ側
 道ニ於テ或ハ何レノ地ヨリ斯ノ如キ道路ニ開ク門又ハ入口ニ於テ犯
 サレタリセハ犯罪人ノ居リシ道路等ノ部分ノ何レノ側道ニ接近スル
 地ノ所有者又ハ領有者)ヲ非クトリヤ女帝即位第七年及第八年ノ條例
 法第二十九章第一條)ナル丙某ノ雇人ナリシ事ヲ証明スヘシ而テ攻撃
 テ前文實ニ身体上ノ傷害ヲ致ス攻撃ノ告訴狀ノ部ノ證據等ノ中ニ指
 令サレタル如クニ証明スヘシ若シ甲某カ逃走シ而テ追ハレタリセハ
 之カ記サレサル可ラス而テ若シ記サレタレハ証明サレサル可ラス最
 終ニ罪ハ告訴ノ直ニ前十二ヶ月内ニ犯サレシ事カ証明サレサル可ラ
 ス(第四世シヨ一シ帝即位第九年ノ條例法第六十九章第四條)

獵鳥獸看守人其他正當ニ權ヲ附與サレタル人ハ若シ其雇主ノ地又ハ
 貴族領其他ゾ非クトリヤ女帝即位第七年及第八年ノ條例法第二十九
 章中ニ記載サレタル場所ニアラハ其目的ヲ通知ヲ爲スヲナク且逮捕
 スヘキ權ヲ附與スル書面ナクシテ鳥獸竊取人ヲ逮捕スルヲ得然レ
 モ他人ノ地ニ於テハ之ナシニハ之ヲ逮捕スルヲ得サルナリ只他人
 ノ地ニ於テ獵ヲ爲スノ權利ノミチ有スル人ハ鳥獸ヲ追フテ斯ノ如キ
 地ニ闖入スル人ヲ逮捕スル權ヲ其看守人ニ附與スル權ヲ有セヌ是故
 ニ斯ノ如キ逮捕ノ抗拒ハ若シ過度ナラサレハ正當ナリ假令ヘ第二條
 ハ第一條ニ記載サレタル罪ニ限ラレタリト雖モ猶第九條内ノ犯罪人
 ハ逮捕セラル、コヲ得如何トナレハ假令ヘ數人カ共ニ銃器ヲ携帯シ
 テ家外ニアル場合ニ於テハ一層重キ罪カ科セラル、ト雖モ猶第一條
 内ノ犯罪ダレハナリ現今ハゾ非クトリヤ女帝即位第十四年及第十五

年ノ條例法第十九章第十一條ノ權ニ依テ何レノ人カ夜中本條例法ノ

第一條又ハ第九條ニ對スル罪ヲ犯ス者ヲ逮捕スルコトヲ得
稅關ノ官吏ニ對シテ發射スル事

條例法

ヅ井クトリヤ女帝即位第十六年及第十七年ノ條例法第一百七章第二百
四十九條——若シ何レノ人カ女帝陛下ノ海軍ニ屬スル又ハ租稅ニ從
事スル何レノ船舶ニ對シテ合衆帝國ノ海岸ノ何レノ部分ヨリ一百リ
一（里數ノ名ニ當ル）内ニ於テ害心ヲ以テ發射シ又ハ正當ニ密輸出入ノ
防禦ニ從事シ而テ全給ヲ得ル何レノ陸軍海軍ノ士官又ハ水夫或ハ正
當ニ密輸出入ノ防禦ニ從事スル何レノ關稅又ハ國產稅官吏又ハ其輔
助ニ從事スル何レノ人ニ對シテ其職務又ハ義務ヲ正當ニ執行スル際
害心ヲ以テ發射シ又ハ之ヲ不具ニシ又ハ之ヲ危ク創傷セハ斯ノ如ク

罪ヲ犯ス各人及之ヲ加功幫助又ハ贊助スル各人ハ決罪ノ上ハ重罪ノ
罪アル者ト裁判セラルヘシ而テ其決罪サル、裁判所ノ裁量ヲ以テ終
身又ハ十五年ヨリ少ラサル何レノ期限ノ海外ノ徒刑又ハ三年ニ超過
セサル何レノ期限ノ禁獄ニ處セラレヘキ責アル者タルヘキ事ヲ制定ス
—
ヅ井クトリヤ女帝即位第九年及第十年ノ條例法第二十四章第一條—
第二編第一章第一節中ノ條例法ニ依レル海賊ノ部ヲ見ルヘ
シ

シ
ヅ井クトリヤ女帝即位第二十年及第二十年ノ條例法第三章——第
二編第一章第一節中竊盜ノ部ノ條例法部ヲ見ルヘシ
ヅ井クトリヤ女帝即位第十六年及第十七年ノ條例法第一百七章第三百
三條——手續ノ制限——關稅ニ關スル此條例法又ハ他ノ條例法ニ對
スル何レノ罪ニ對シテ何レノ裁判所ニ又ハ何レノ治安判事又ハ數判

事ノ前ニ提出サレ又ハ表示サレタル訴訟告訴又ハ告發ハ總テ罪ノ犯サレタル日ノ直チニ後三ケ年内ニ提出又ハ表示セラレヘシ

第三百四條——犯罪地——關稅ニ關シテ關稅委員ノ指揮ニ依テ起サレ又ハ提出セラレ、コトヲ得ル何レノ告訴又ハ告發ハ罪カ英國ニ於テ犯サレタル時ハ英國ノ何レノ郡ニ於テ犯サレタル時ハ蘇國ニ於テ犯サレタル時ハ蘇國ノ何レノ郡ニ於テ犯サレタル時ハ愛國ノ何レノ郡ニ於テ犯サレタル時ハ愛國ノ何レノ郡ニ於テ罪カ該告訴又ハ告發ノ訊問サレヘキ該郡ニ於テ犯サレタリシガ如キ方法及躰式ヲ以テ審問吟味訊問及斷定セラレヘシ及セラレ、コトヲ得

第三百六條——從事ノ證明——何レノ人ハ關稅又ハ國產稅ノ官吏タル事又ハ何レノ人ハ密輸出入ノ防禦ニ從事シタリシ事ノ証言ハ被告人カ何レノ斯ノ如キ場合ニ於テ反對ニ證明スルニアラサレハ斯ノ如キ事實ノ證明ナクシテ充分ト思量セラレヘキ事ヲ制定ス

第三百七條——委任ノ證明及証人ノ適當——若シ何レノ人ハ密輸出入ノ防禦ニ正當ニ從事スル而テ全給ヲ得ル陸軍海軍ノ士官又ハ水夫或ハ關稅又ハ國產稅ノ官吏タルヤ否ノ問題カ何レノ訊問上起ル可ケレハ該士官等ノ自身ノ證據又ハ其斯ノ如キモノトシテ從事シタルノ他ノ證據ハ充分ト思量セラレヘシ而テ斯ノ如キ人ハ充分ナル證明カ反對ニ付テ爲サルヘキニアラサレハ其委任書又ハ命令書ヲ提出スルヲ要セラレサルヘシ而テ斯ノ如キ官吏及其補助ニ從事スル何レノ人ハ何レノ訴訟又ハ告發ノ訊問上上文所陳ノ如キ何レノ差押又ハ罰金ノ爲ニ該官吏又ハ他ノ人カ斯ノ如キ差押又ハ罰金ノ全部又ハ何レノ部分ヲ得ル又ハ斯ノ如キ訴訟又ハ告發ニ於テ告訴サレタル關係人ノ決罪ノ上ハ何レノ賞與ヲ得ル權利アル者タルコトヲ得ルニ拘ハラズ適當ナ

ル証人ト思量セラルヘキ事ヲ制定ス
告訴狀

起文ハ前文第一節中ノ謀殺スル陰謀ノ部ノ告訴狀ノ如シ——當時關
稅ノ官吏(密輸出入ノ防禦ノ爲メ正當ニ從事シ及全給ヲ得ル陸軍海軍
士官又ハ水夫或ハ關稅又ハ國產稅ノ官吏又ハ其補助ニ從事シ又ハ密
輸出入ノ防禦ノ爲メ正當ニ從事スル何レノ人)タル而テ當時斯ノ如キ
官吏トシテ其職務及義務ヲ正當ニ執行スル乙某ナル者ニ對シテ火藥
及一個ノ鉛彈ヲ填メラレタル或ル拳銃ヲ以テ斯ノ如キ場合ニ於テ爲
サレ及設ラレタル條例法ヲ制定ニ反シ及我女帝陛下ノ治安帝權及威
權ニ反シテ惡意ヲ以テ及害心ヲ以テ發射シタリシ云々 犯罪地
ニ付テハ第一編第一章第三節第二項及前文ノ條例法部ヲ見ル
ヘシ

重罪 終身又ハ三年ヨリ少ヲサル懲役或ハ三年ニ超過セサル禁獄少
キトトリヤ女帝即位第十六年及第十七年ノ條例法第一百七章第三百四十
九條同女帝即位第九年及第十年ノ條例法第二十四章第一條(第二編第
一部第一章第一節中ノ條例法ニ依レル海賊ノ部)同女帝即位二十年
及第二十二年ノ條例法第三章(第二編第一部第一章第一節竊盜ノ部)
條例法部苦役アル又ハナキ及獨囚アル又ハナキ禁獄獨囚ハ何レノ一
回一ヶ月ニ超過セス又何レノ一年間三ヶ月ニ超過セス、第四世ウヰリ
ヤム帝即位第七年及ヰヰトトリヤ女帝即位第一年ノ條例法第九十一
章第二條
此罪ハ何レノ四季裁判期ニ於テ訊問サレヘキモノニアラス、ヰヰト
トリヤ女帝即位第五年及第六年ノ條例法第三十八章第一條
證據

乙某ハ其職務ヲ正當ニ執行スル關稅等ノ官吏タリシ事ヲ證明スヘシ
 乙某ノ自身ノ證據又ハ其斯ノ如キモノトシテ從事シタルノ他ノ證據
 ハ其委任書又ハ補任書ヲ提出スルコトナクシテ充分タルヘシ、
 少井ト
 リヤ女帝即位第十六年及第十七年ノ條例法第百七章第三百六條第三
 百七條、條例法ハ只全給ヲ得ル及密輸出入ノ防禦ニ從事シタル如キ陸
 軍、海軍ノ士官又ハ水夫ニ適用スルノニ被告ハ故意ヲ以テ乙某ニ對
 シテ發射セシ事ヲ證明スヘシ若シ被告ハ故意ヲ以テ發射シタレハ
 是ハ害心ヲ以テ其斯ク爲シタルコトノ充分ナル證據タルヘシ
 稅關ノ官吏ヲ不具ニシ又ハ創傷シタル告訴狀
 起文ハ前文第一節中ノ謀殺スル陰謀ノ部ノ告訴狀ノ如シ——當時關
 稅ノ官吏タル(前項ノ例ヲ見ルヘシ)及當時斯ノ如キ官吏トシテ其職務
 及義務ヲ正當ニ執行スル乙某ナル者ヲ斯ノ如キ場合ニ於テ爲サレ及

設ラレタル條例法ノ制定ニ反シ及我女帝陛下ノ治安、帝權及威權ニ反
 シテ惡意ヲ以テ害心ヲ以テ危ク創傷シ(不具ニシ又ハ危ク創傷シ)タリ
 シ云々、
 犯罪地ニ付テハ第一編第一章第三節第二項及前
 文ノ條例法部ヲ見ルヘシ
 重罪、前項ノ例ヲ見ルヘシ
 證據
 是ハ發射ヲ證明スル代リニ被告人ハ乙某ヲ危ク創傷セシ(又ハ不具ニ
 セシ)事ヲ證明サレサル可カラサル事ノ外ハ前項ノ事件ト同一ノ方法
 ナリテ證明サル、モノナリ
 稅關ノ官吏ヲ攻撃シ及妨礙スル事
 條例法

少井ト
 リヤ女帝即位第十六年及第十七年ノ條例法第百七章第二百

五十一條——若シ何レノ人カ密輸出入ノ防禦ニ正當ニ從事シ而テ全給ヲ得ル陸軍海軍ノ士官又ハ水夫或ハ密輸出入ノ防禦ニ正當ニ從事スル何レノ關稅又ハ國產稅ノ官吏又ハ其補助ニ從事スル他ノ人ヲ其職務又ハ義務ノ正當ナル執行ノ際腕力又ハ暴行ヲ以テ攻撃シ抵抗シ敵對シ困苦セシメ故障シ又ハ妨礙セハ斯ノ如キ人ハ之ニ付テ決罪サレレバ七年間ノ徒刑ニ處セラレ又ハ犯罪人カ訊問サレ及上文所陳ノ如ク決罪サレヘキ裁判所ノ裁量ヲ以テ三年ニ超過セサル何レノ期限間何レノ矯正院又ハ普通監獄ニ禁獄サレ而テ苦役ニ服セシメラルヘキ事ヲ制定ス

——第二編第一部第一章第一節竊盜ノ部ノ條例法部ヲ見ルヘシ

告訴狀

起文ハ前文謀殺スル陰謀ノ部ノ告訴狀ノ如シ——當時關稅ノ官吏タル(前々項ノ例ヲ見ルヘシ)而テ當時斯ノ如キ官吏トシテ其職務及義務ノ正當ノ執行ニ於ル乙某ナル者ヲ斯ノ如キ場合ニ於テ爲サレ及設ラレタル條例法ノ制定ニ反シ及我女帝陛下ノ治安帝權及威權ニ反シテ不正ニ腕力及暴行ヲ以テ攻撃シ及抵抗シ(攻撃シ抵抗シ敵對シ困苦セシメ故障シ妨礙シ)タリシ云々

犯罪地ニ付テハ第一編第一部第一章第三節第二項及前文稅關ノ官吏ニ對シテ發射スル事ノ部ノ條例法部ヲ見ルヘシ

輕罪、七年ヨリ多ラス三年ヨリ少ラサル懲役或ハ三年ニ超過セサル苦役アル禁獄

證據

被告人ハ腕力及暴行ヲ以テ乙某ヲ攻撃シ及抵抗セシ事ヲ證明スヘシ

而テ告訴狀中ノ他ノ告白ヲ前ニ項ノ場合ニ於ルト同様ニ証明スヘシ

修業人又ハ雇人ヲ攻撃スル事等

條例法

ザ井クトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第二十六條——何人ト雖モ雇主又ハ女雇主トシテ法律上何レノ修業人又ハ雇人ニ必要ノ食物衣服又ハ住居ヲ供給スル責アル者ニシテ何レノ斯ノ如キ修業人又ハ雇人ノ生命カ危クサレ又ハ斯ノ如キ修業人又ハ雇人ノ健康カ永遠害セラレタルヘク又ハ恐ラクハ永遠害セラレヘキカ如クニ故意ヲ以テ及正當ノ辨解ナクシテ之ヲ供給スルヲ拒ミ又ハ怠リ或ハ不正ニ及害心ヲ以テ斯ノ如キ修業人又ハ雇人ニ何レノ身体上ノ傷害ヲ爲シ又ハ爲サシムル者ハ輕罪ノ罪アル者タルヘシ而テ之ニ付テ決罪サルレハ裁判所ノ裁量ヲ以テ三年ノ期限ノ懲役或ハ苦役

アル又ハナキ二年ニ超過セサル何レノ期限ノ禁獄ニ處セラレヘキ責アル者タルヘシ

修業人ニ必要ノ食物ヲ供給セサル告訴狀

即チサーレト郡——我女帝陛下ノ爲ノ陪審員ハ甲某カ我教主紀元何年六月一日ニ於テ當時其修業人修業人又ハ雇人ナル乙某ナル者ノ雇主ニシテ而テ當時法律上上文所陳ノ如ク其修業人トシテ該乙某ニ必要ノ食物(必要ノ食物衣服又ハ住居)ヲ供給スル責アル者ニシテ斯ノ如キ場合ニ於テ爲サレ及設ラレタル條例法ノ制定ニ反シ及我女帝陛下ノ治安帝權及威權ニ反シテ不正ニ故意ヲ以テ及正當ノ辨解ナクシテ之ヲ供給スルヲ拒ミ及怠リタリシ該乙某ノ生命カ之ニ依テ危クサレタリシガ如クニ(斯ノ如キ修業人又ハ雇人ノ生命カ危クサレ又ハ斯ノ如キ修業人又ハ雇人ノ健康カ永遠害セラレタルヘク又ハ恐ラクハ永

遠害セラルヘキカ如ク云々、被リタル傷害ノ記載チ異ニスル告示ヲ附加スヘシ、輕罪、三年ノ懲役或ハ苦役アル又ハナキ二年ニ超過セサル禁獄、少シトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第二十六條

証據

修業人タル事ヲ證明スヘシ若シ是カ券狀ヲ以テ契約サレタリセハ其券狀ノ提出及其執行ノ證明ニ依テ證明スヘシ或ハ是カ被告人ノ所有内ニアリテ且其副本アラサル場合ニ於テハ被告人ニ之ヲ提出スヘキ正當ノ通知ヲ爲シタル後其文意ノ第二ノ証據ヲ以テ證明スヘシ(第一編第二部第二章ヲ見ルヘシ)被告人ノ告訴人ニ必要ナル食物、衣服又ハ住居ヲ供給スヘキ法律上ノ責ハ若シ是カ明白ニ條約サレサル時ト雖

モ修業人タル事ヨリ推定セラルヘシ必要ナル食物等ヲ告訴人ニ供給スルノ被告人ノ故意ヲ拒ミ又ハ怠リテ告訴狀ニ記サレタル如クニ証明スヘシ斯ノ如キ拒ミ又ハ怠リニ依テ告訴人ノ生命カ危クサレシ事又ハ其健康カ永遠害セラレシ又ハ恐ラクハ永遠害セラレヘカリシ事ヲ證明スルハ緊要ナルヤ否ハ條例法ニ付テ爲サレヘキ解釋ニ依ルモノナリ若シ斯ノ如キ人ノ生命カ危クサレ云々ノ如クニナル言語ハ總テノ事項ニ適用スルモノナレハ斯ノ如キ證明ハ緊要タルヘシ若シ只修業人又ハ雇人ニ實ニ身体上ノ傷害ヲ爲ス事ニ涉ル部分ニノニ適用スルモノナレハ斯ノ如キ證明ハ不緊要タルヘシ此主意ニ涉ル判決アリシニ至ルマテハ(記號間ノ言語ヲ加ヘ而テ之ヲ維持スル証據ヲ準備スルハ一層安全ナルヘシ不正ニ及害心ヲ以テ修業人又ハ雇人ヲ攻撃シタル告訴狀ニ付テハ斯ノ如キ告白及証明ノ緊要タルハ明瞭ナリ

小兒ヲ暴露シ之ニ依テ其生命ヲ危クスル事

條例法

ヅキクドリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第二十七條——何人ト雖モ不正ニ年齡二歳以下ノ何レノ小兒ヲ遺棄シ又ハ暴露シ之ニ依テ斯ノ如キ小兒ノ生命ヲ危クシ又ハ斯ノ如キ小兒ノ健康ヲ永遠害シタル又ハ恐クハ永遠害スル者ハ輕罪ノ罪アル者タルヘシ而テ之ニ付テ決罪サルレハ裁判所ノ裁量ヲ以テ三年ノ期限ノ懲役或ハ苦役アル又ハナキ二年ニ超過セサル何レノ期限ノ禁獄ニ處セラレヘキ責アル者タルヘシ

告訴狀

起文ハ前文謀殺スル陰謀ノ部ノ告訴狀ノ如シ——當時年齡二歳以下ノ乙某ト稱スル或ル小兒ヲ斯ノ如キ場合ニ於テ爲サレ及設ラレタル

條例法ノ制定ニ反シ及我女帝陛下ノ治安、帝權及威權ニ反シテ不正ニ及故意ヲ以テ遺棄シ及暴露シ(遺棄シ又ハ暴露シ)之ニ依テ該小兒ノ生命ヲ危クシ(又ハ之ニ依テ斯ノ如キ小兒ノ健康ヲ恐ラクハ永遠害シ)タリシ云々

輕罪、三年ノ懲役或ハ苦役アル又ハナキ二年ニ超過サセル禁獄ウヅキトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第二十七條

證據

本條ハ新條ナリ之ニ依レル告訴狀ヲ維持スル爲ニハ被告人ハ告訴狀ニ記サレタル小兒ヲ故意ヲ以テ遺棄シ又ハ暴露セシ事、小兒ハ當時年齡二歳以下ナリシ事及其生命カ當時危クサレシ事或ハ其健康カ永遠害サレタリシ又ハ當時恐クハ永遠害セラレヘカリシ事ヲ只証明スルハ緊要タルコト

四四五

遺棄又ハ暴露ヨリ死亡ノ起リシ場合ニ於テ謀殺又ハ故殺ニ對スル告訴アルヘキ場合ニ付テハ第二章第一節謀殺ノ部ノ證據ヲ見ルヘシ又此性質ノ輕罪ニ對シ習慣法上告訴アルヘキ場合ニ付テハ第一編第一節第一章第一節ヲ見ルヘシ

第四節 詐偽ノ監禁

攻撃及詐偽ノ監禁ニ對スル告訴狀

即チ中央刑事裁判所——我女帝陛下ノ爲ノ陪審員ハ甲某カ我教主紀元何年六月一日ニ於テ上帝及當時ノ我女帝陛下ノ治安中乙某ナル者ニ對シテ攻撃ヲ爲シ而テ當時該乙某ヲ打テ傷ケ及惡待シ而テ當時該乙某ヲ不正ニ及不法ニ及該乙某ノ意ニ反シテ且又此帝國ノ法律ニ反シテ及何レノ正當ノ令狀ガク權ナク又ハ如何ノ正當ナル又ハ是認スヘキ理由ナクシテ監禁シ而テ長キ時間即チ當時直チニ續ク十時間斯

五四五

ク監禁シテ拘置シ而テ該乙某ニ其大ナル損害ニマテ及我女帝陛下ノ治安帝權及威權ニ反シテ他ノ惡事ヲ爲シタリシ事ヲ其宣誓ノ上訴フ若シ何レノ金員カ告訴人ヲ釋放スル爲ニ之ヨリ虐取サレタリセハ其事ノ証言ヲ該告訴狀中ノ十時間ノ次ニ左ノ如ク附加スヘシ「十時間而シテ該乙某カ其放免ノ爲ニ其金員ノ五磅及五シルリングノ額ヲ該甲某ニ拂タリシマテ斯ク監禁シテ拘置シ而テ該乙某ニ云々該狀ニ記セルカ如シ普通ノ攻撃ニ對スル告示ヲ附加スヘシ前節中ノ實ニ身体上ノ傷害ヲ致ス攻撃ノ告訴狀ノ部ヲ見ルヘシ詐欺ノ監禁ハ罰金又ハ禁獄又ハ兩ツヲ以テ罰セラレヘキ習慣法ニ於ル輕罪ナリ

告訴ノ爲ノ證據

總テ告訴人ノ證明セサル可ラサル事ハ監禁ナリ被告人ハ其爲セシ所

六四五

爲ニ於テ是認サレシ事及監禁ハ正當ナリシ事ヲ示スハ被告人ニアルナリ

人ノ各ノ閉鎖ハ普通ノ監獄内又ハ私ノ家屋内ナルニ拘ハラヌ又ハ足^{スト}械内ニ入ルハニ拘ハラヌ監禁ナリ人ヲ公ノ街路ニ於テ強テ拘置スルモ亦監禁ナリ然レモ只人ノ特別ノ路ヲ沿フテ進行スルヲ妨止スルノミハ其人カ之ヲ沿フテ行クコトナシニ其欲スル所ニ行クコトヲ得ル時ハ監禁ニアラサルナリ官吏ノ令狀カ人ニ示サレ其人ハ尙他ノ強迫ナシニ警察官ノ望ニ應シテ官吏ノ前ニ出ル場合ニ於テ是ハ充分ナル監禁ナルカ如シ然レモ令狀ハ只召喚狀トシテノミ用井ラレ而テ人ハ隨意ニ官吏ノ前ニ出ル場合ニ於テハ是ハ監禁ニアラサルカ如シ家屋内ニ在テ病ニ臥セル白癡ノ弟ヲ有セシ人カ之ヲ充分ノ温氣又ハ衣服ナシニ暗室内ニ置シ場合ニ於テ是ハ監禁ニアラスト認ラレタリキ

若シ告訴人ハ監禁ヲ證明スルヲ誤ラハ進ンテ攻撃及毆打ニ對スル第一ノ告示ヲ前節中ノ實ニ身体上ノ創傷ヲ致ス攻撃ノ告訴狀ノ部ノ證據等ノ中ニ指令サレタル如クニ證明スルコトヲ得

被告人ノ爲ノ證據

被告人ハ乙某ヲ全ク監禁セザリシ事ヲ證明セサル可ラス或ハ監禁ヲ辨解セサル可ラス監禁カ辨解サレ能フ理由ハ左ノ事項ニ依テ觀察セラレ、コトヲ得

七四五

民事上ノ令狀ニ依レル逮捕——上等裁判所ヨリ發シタルカピアス、ア、サチスフアシエノダム令狀者ニ滿行ノ爲メ取押ヘ置キ直ニ依レテ逮捕ハ若シ該狀カ正シキモノニシテ規則ノ如ク執行サレタレハ之ヲ保證スヘキ裁判アリシト否ラザルトニ拘ハラヌ之ヲ執行セシ官吏ニ依テ辨解セラル、コトヲ得然レモ若シ原告人又ハ其代理人カ之

ニ依テ辨解セントセハ原告人等ハ之ヲ保証スヘキカ如キ裁判ヲ示サ
 サル可ラヌ而テ是故ニ遺產管理人ニ對スル裁判上テダアヌダヴヰット
 (死者ノ財産ノ處分不都合又ハ不正ニシ)ヲ告知スルコトナクシテ該令狀
 テ死者ノ爲ニ損害ヲ生セシ事ヲ云フ)カ請求ノ上得ラレシ場合ニ於テハ訴僞ノ監禁ノ罪カ原告人及其代官
 人ニ對シテ存スヘシト認ラレタリキ然レモ該令狀ニ依テ辨解スル爲
 ニ之カ返還サレサル可ラサル事ハ緊要ニアラサルナリ
 下等裁判所ヨリ發シタル令狀ニ付テハ官吏又ハ關係人ヲ是認スル(捕
 ルシク)爲ニハ裁判所ハ訴訟ヲ管轄スル權ヲ有セシ事及令狀ハ管轄内ニ
 執行サレシ事カ顯著ナラサル可カラヌ(第二章第一節謀殺ノ部ノ証據
 ナ見ルヘシ)

然レモ若シ令狀又ハ逮捕狀カ其書面上無効ノモノナレハ即チ若シ逮
 捕狀ニ官吏ノ名カ之カ捺印サレシ後ニ挿入サレタレハ或ハ若シ令狀

カ其期ノ終ル日ノ後ニ執行サレ又ハ日曜日ニ執行サレタレハ(第二世
 チヤールス帝即位第二十九年ノ條例法第七章第六條)之ハ之ニ依テ逮
 捕スル人ノ爲ニ辨解タラサルヘシ然レモ官吏モ亦訴訟關係人モ逮捕
 ナ免ル、特權アル人ヲ逮捕シタルカ爲ニ特權ハ永遠ノモノ又ハ臨時
 ノモノタルニ拘ハラヌ詐僞ノ監禁ノ告訴ニ服從セサルナリ
 逮捕狀ニ依レル逮捕——逮捕ノ事件ノ一般ノ裁判權ヲ有スル治安官
 吏ヨリ附與セル逮捕狀ハ實ニ之ヲ附與スル理由アルトアラサルトニ
 拘ハラヌ之ヲ執行スルニ官吏ヲ是認スヘシ然レモ之ニ反シテ若シ治
 安官吏カ逮捕ノ事件ノ裁判權ヲ有セサレハ例ヘハ若シ該官吏カ負債
 ノ答辨ニ於テ答辨スル爲メ何某ヲ引致スル爲ニ逮捕狀ヲ附與セタレ
 ハ警察官ハ該何某ヲ逮捕シテ是認サレサルヘシ逮捕狀ハ適當ナル管
 轄内ニ執行サレサル可ラヌ從前ハ若シ逮捕狀カ一般ニ附與サレタリ

セハ該狀ハ只警察官ノ任セラレシ地方内ニ執行サレ能ヒシノミ尤モ
 是カ指名セル警察官ニ附與サレタリセハ此限ニアラサリキ然レモ現
 今ハ(少)井クトリヤ女帝即位第十一年及第十二年ノ條例法第四十二章
 第十條警察官ハ其管轄區外ニシテ逮捕狀ヲ附與シ又ハ之ニ裏書スル
 治安判事ノ管轄内ニ令狀ヲ執行スルコトヲ得又決罪ノ事件之ニ付テ關
 係人ハ逮捕サレタリニ付テ適當ノ管轄權ヲ有スル治安官吏ノ決罪ハ
 拒否サレ又ハ棄却サル、ニ至ルマテハ詐偽ノ監禁ノ爲ニ治安官吏ニ
 對スル告訴ニ於テ該官吏ノ利益トナル確定ノ證據ナリ(少)井クトリヤ
 女帝即位第十一年及第十二年ノ條例法第四十二章第四十三章第四十
 四章ヲ見ルヘシ)

逮捕狀ナシノ逮捕——治安判事ハ其目前ニ於テ重罪ヲ犯シ又ハ治安
 ヲ紊亂スル何レノ人ヲ逮捕スルコトヲ得又ハ只口演ノ命令ノミニ依テ

逮捕セシムルコトヲ得
 郡長又ハ檢屍官モ亦逮捕狀ナシテ郡内ノ何レノ重罪犯人ヲ逮捕ス
 ルコトヲ得

警察官ハ其目前ニ於テ治安ノ紊亂ノ爲ニ何レノ人ヲ逮捕スルコトヲ得
 而テ之ヲ治安官吏ノ前ニ引致シ能フマテ其家屋内ニ拘置シ又ハ足械
 ノ内ニ入レ置クコトヲ得又ハ警察官ハ其警察区内ニ於テ重罪ノ正當ナ
 ル告知ニ依テ人ヲ逮捕スルコトヲ假令ヘ此人ハ無罪ナル事又ハ實ニ重
 罪ハ犯サレサリシ事カ其後顯著ナリト雖モ辨解スルコトヲ得又重罪カ
 實ニ犯サレタル場合ニ於テ警察官ハ人ヲ其之ヲ犯シタルノ正當ナル
 嫌疑ニ依テ逮捕スルコトヲ得正當ナル嫌疑ノ問題ハ法律ノ事項ニシテ
 陪審官ニ委任ス可ラスト認ラレタリ
 警察官看守人又ハ(少)井クトリヤ(寺)院(區)輔(小)吏(ニ)シテ(警)ハ夜間街道ニ於テ

發見シ而テ假令ハ實ニ犯サレタル重罪ノ証據ナシト雖モ重罪ニ付テ疑フヘキ正當ノ理由アル者ヲ吟味ノ爲メ逮捕シ及拘留スルコトヲ得私人ハ况ンヤ治安官吏ハ若シ其目前ニ於テ重罪カ犯サレ又ハ危險ナル創傷カ爲サレタレハ犯人ヲ逮捕スルヲ是認セラル、ノミナラス法律上之ヲ逮捕スヘキ義務アルナリ又爭鬪ヲ爲ス人ヲ制止スルヲ是認セラル、ナリ然レモ爭鬪ニ關セシ何レノ人ヲ其終リタル後逮捕スルコトヲ得ス如何トナレハ此場合ニ於テハ逮捕狀カ必要ナレハナリ又將ニ重罪又ハ反逆罪ヲ犯サントスル又ハ他人ノ生命ヲ必ラス危クスヘキ所爲ヲ爲サントスル何レノ人ヲ逮捕シ而テ意カ斷絶シタリト認定サル、マテ之ヲ拘留スルコトヲ得又正當ノ嫌疑ニ依テ他人ヲ重罪ノ爲ニ逮捕スルコトヲ得然レモ自己ノ危險ヲ冒シテ之ヲ爲スナリ如何トナレハ若シ逮捕サレタル者カ無罪ナルモノナレハ逮捕シタル人ハ詐偽

ノ監禁ノ罪アル者ナレハナリ、
 少シトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第九十七章ナル惡意ノ傷害條例ニ對スル何レノ罪ヲ犯シテ發見サレタル人ハ何レノ治安官吏又ハ財産ノ所有者其雇人又ハ所有者ヨリ權ヲ附與サレタル人ニ逮捕狀ナシニ逮捕セラレハコトヲ得(同章第六十一條)竊盜等ノ條例(少シトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第九十年及第二十五年ノ條例法第九十九章第三十一條)獵鳥獸條例(第四世ヨージ帝即位第九年ノ條例法第六十九章第二條)ニ對スル犯罪ニ付テモ亦同シ而テ密輸出入ヲ爲ス船ニ信號ヲ表示スル人ハ少シトリヤ女帝即位第十六年及第十七年ノ條例法第一百七章第二百四十四條ニ依テ何レノ人ニ逮捕セラレ、コトヲ得、流浪人條例ナル第四世ヨージ帝即

四五五

位第五年ノ條例法第八十三章第六條ニ依テ此條例法ニ對スル罪ヲ犯ス人ハ逮捕セラル、コヲ得、ツヰクトリヤ女帝即位第十四年及第十五
年ノ條例法第十九章第十一條ニ依テ何人ト雖モ夜間(詳言スレハ午後
第九時ト午前第六時ノ間)何レノ告訴スヘキ罪ヲ犯シテ發見サレタル
何レノ人ヲ逮捕シ而テ治安官吏ニ之ヲ引致シ又ハ交付スルコトヲ得、再
ヒ上文ニ記載サレタル數條例法即チツヰクトリヤ女帝即位第二十四
年及第二十五年ノ條例法第九十六章第四百九十七條第五十七條
第百章第五十六條ニ依テ何レノ警察官又ハ治安官吏ハ夜間何レノ街
道庭場又ハ他ノ場所ニ彷徨スル又ハ在ルヲ發見スル又ハ此等ノ條例
法ノ何レニ對スル何レノ重罪ヲ犯シタル又ハ將ニ犯サントスル事ニ
付テ疑フヘキ正當ノ理由アル何レノ人ヲ令狀ナクシテ拘引スルコトヲ
得而テ之ヲ法律ニ從テ處分サル、爲ニ成ルヘク速ニ治安判事ノ前ニ

五五五

引致スヘシ同一ノ正條ガ特別ノ主意ニ關シテ多ノ他ノ一般ノ及地方
ノ條例法中ニ含有セル、ナリ
侮辱罪ノ爲ノ逮捕——若シ侮辱罪ガ裁判所ノ面前ニ於テ犯サレタレ
ハ(即チ粗暴ナル且侮辱スル舉動ニ依テ頑固執拗言扱ニ依テ又ハ何レ
ノ正當ノ問ニ答フルヲ拒ムコトニ依テ治安ノ紊亂又ハ如何ノ故意ノ喧
鬧ニ依テ)判事ハ其裁量ヲ以テ何レノ尙他ノ証明又ハ吟味ナシニ直チ
ニ犯罪人ヲ逮捕シ禁獄スヘキヲ命令スルコトヲ得
逃走後ノ逮捕——民事ニ於テハ裁判執行ノ爲ニ拘留サレタル人カ逃
走スル場合ニ於テ若シ之カ怠慢ノ逃走テケイシメント、エスケイフ依テ逃走ハ看守人ノ怠慢ニ
ハ獄吏又ハ官吏ハ之ヲ再ヒ捕フルコトヲ得若シ隨意ノ逃走ソチランダリ、エスケイフ看守人ノ
明白ナル承諾ヲ得テタラハ再ヒ之ヲ捕フルコトハ詐欺ノ監禁タルヘシ
逃走ヲ爲スヲ云フ
中間令狀ミイシ、シロセスニ發スル總テノ令狀ヲ云フニ依テ拘留ノ人カ逃走スル場

合ニ於テハ若シ是カ怠慢タレハ獄吏又ハ官吏ハ之ヲ再ヒ捕フルコトヲ得若シ隨意タラハ得サルナリ

刑事ニ於テハ囚人カ逃走スル場合ニ於テ若シ是カ只怠慢ノ逃走ノミナレハ獄吏又ハ官吏ハ令狀ナクシテ何時ニテモ再ヒ之ヲ捕フルコトヲ得若シ隨意ノモノタラハ其囚人ハ其後其最初逮捕サレシ同一ノ令狀ノ權ニ依テ再ヒ捕ヘラレ能ハサルナリ然レモ其囚人ハ更ニ令狀ヲ以テ再ヒ捕ヘラル、コトヲ得或ハ原來令狀ナクシニ逮捕セララル、コトヲ得テ再ヒ捕ヘラル、コトヲ得

他ノ權ニ依レル逮捕——結婚セル婦女カ重罪ノ事件ニ於テ緊切ナル證人トシテ治安判事ノ前ニ出テシ場合ニ於テ該判事ハ該婦カ證據ヲ呈スル爲ニ裁判期ニ出廷スルヲ拒ミ又ハ其出廷ノ爲ニ保證人ヲ立ルヲ拒マハ裁判期マテ之ヲ収監シテ是認セララル、ト認ラレタリキ又治

安官吏ハ再吟味ヲ爲ニ収監スルコトヲ得ルト雖モ若シ収監カ不相當ノ時間タラハ収監令ハ無効ニシテ収監ハ詐僞ノ監禁ナリ

分散裁判所判事ハ或ル場合ニ於テハ収監スル權ヲ有ス(第四世ウヰリヤム帝即位第一年及第二年ノ條例法第五十六章第七條)若シ該判事カ其權限外ニ事ヲ爲サハ収監ハ詐僞ノ監禁ト成ルナリ然レモ若シ其權限内ニ事ヲ爲サハ假令ヘ錯誤ノ又ハ誤解ノ裁判ヨリ爲シタリト雖モ前文ノ限ニ在ラス該判事ハ少シトリヤ女帝即位第五年及第六年ノ條例法第二百二十二章第六十六條カ總テ之ニ記録裁判所ノ權及特權ヲ附與セシマテハ侮辱罪ニ對シテ収監スル能ハサリキ

陸軍及海軍ノ士官ハ數多ノ場合ニ於テ其配下ノ兵卒及水夫ヲ収監スル權ヲ有ス然レモ収監ハ最初正當ナリシト雖モ其後殘忍ノ數多ノ狀況アリテ總テ必要ナル期限外ニ繼續サレシ場合ニ於テハ詐僞ノ監禁

ノ罪ハ上士官ニ對シテ存スヘシ又水夫カ想像ノ職務ノ背犯ノ爲ニ海軍裁判所ニ送致セラル、コナシニ艦長ヨリ三日間禁錮サレ而テ后放釋サレシ場合ニ於テ詐僞ノ監禁ノ罪ハ艦長ニ在ルヘシト認ラレタリ

海兵強募令狀ニ依テ逮捕及拘留ヲ爲スハ正當タルコトヲ得ルト雖モ之ヲ執行スル者ハ自己ノ危險ヲ冒シテ之ヲ爲スナリ如何トナレハ若シ之ヲ執行スル者カ強テ募ラレヘキ責ナキ人即チ例ヘハ嘗テ海上ニ奉職セサリシ人ヲ捕フレハ詐僞ノ監禁ノ罪アル者ナリ英商船ノ船長カ智利國(南米)政府ノ英國ニ追放ヲ命令シタリシ或ル人ヲソルバレグ(智利國)ヨリ英國ニ運送スルヲ該國政府ト契約セシ場合ニ於テ是ハ船カ智利領ヲ離ル、ヤ否詐僞ノ監禁ト認ラレタリキ

第五節 零取

其財産ノ爲ニ婦女ノ略取

條例法

グヰクトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第五十三條 何レノ年齢ノ何レノ婦女カ何レノ不動産又ハ動産ノ何レノ利益ヲ法律上ノ又ハ公平法上ノ現在ノ又ハ未來ノ完全ノ條件附ノ又ハ偶生ノモノタルニ拘ハラス有スル或ハ斯ノ如キ利益ヲ有スル何レノ人ノ認定上ノ相續人(現狀ニ依レハ相續ノ權アル者ナレハ偶々最近ノ相續人出產スレバ其權利ヲ失ハル者)又ハ同相續人(相續ノ權ヲ分有タル又ハ認定上ノ最近ノ親族タル又ハ認定上ノ最近ノ親族ノ一人タル場合ニ於テ何人ト雖モ利慾ノ點ヨリ斯ノ如キ婦女ト婚姻シ又ハ之ヲ姦淫スル意ヲ以テ或ハ之ヲ何レノ他人ニ結婚セシメ又ハ姦淫セシムル意ヲ以テ之ヲ其意ニ反シテ略取シ又ハ拘留スル者及何人ト雖モ年齢二十一歳以下ノ斯ノ如キ婦女ト婚

姻シ又ハ之ヲ姦淫スル意ヲ以テ或ハ之ヲ何レノ他人ニ結婚セシメ又ハ姦淫セシムル意ヲ以テ之ヲ其父又ハ母ノ所有内ヨリ及此等ノ者ノ意ニ反シテ又ハ斯ノ如キ婦女ノ正當ノ監督又ハ保守ヲ爲ス何レノ他ノ人ノ所有内ヨリ及此人ノ意ニ反シテ欺騙ヲ以テ誘拐シ又ハ略取シ又ハ拘留スル者ハ重罪ノ罪アル者タルヘシ而テ之ニ付テ決罪サルレハ裁判所ノ裁量ヲ以テ十四年ニ超過セズ三年ヨリ少テサル何レノ期限ノ懲役或ハ苦役アル又ハナキ二年ニ超過セサル何レノ期限ノ禁獄ニ處セラレヘキ責アル者タルヘシ而テ何人ト雖モ本條ニ對スル何レノ罪ニ付テ決罪セラルハ者ハ斯ノ如キ婦女ノ何レノ不動産又ハ動産ノ又ハ該婦女カ斯ノ如キ利益ヲ有スル又ハ上文所陳ノ如キ相續人、同相續人又ハ最近ノ親族トシテ該婦女ノ得ヘキ何レノ不動産又ハ動産ノ法律上ノ又ハ公平法上ノ何レノ利益ヲ取ルヲ得サルヘシ而テ

若シ上文所陳ノ如キ何レノ婚姻カ爲サレタレハ斯ノ如キ財産ハ斯ノ如キ決罪アル以上ハ英國又ハ愛國ノチヤンセリ一裁判所カ檢事長ノ訴訟ニ於ル何レノ告發ノ上命令スルカ如キ方法ヲ以テ決定セラルヘシ

第五十四條——婚姻スル等ノ意ヲ以テ強テ略取スル事——何人ト雖モ何レノ年齢ノ何レノ婦女ヲ之ト婚姻シ又ハ姦淫スル意ヲ以テ又ハ之ヲ何レノ他人ニ結婚セシメ又ハ姦淫セシムル意ヲ以テ其意ニ反シテ強テ略取シ又ハ拘留スル者ハ重罪ノ罪アル者タルヘシ而テ之ニ付テ決罪サルレハ裁判所ノ裁量ヲ以テ十四年ニ超過セズ三年ヨリ少テサル何レノ期限ノ懲役或ハ苦役アル又ハナキ二年ニ超過セサル禁獄ニ處セラレヘキ責アル者タルヘシ

即チ中央刑事裁判所——我女帝陛下ノ爲ノ陪審員ハ甲某カ我教主紀元何年六月一日ニ於テ當時或ル不動産(不動産又ハ動産)ノ或ル現在ノ及完全ナル利益(何レノ利益)法律上ノ又ハ公平法上ノ現在ノ又ハ未來ノ完全ナル又ハ條件附ノ又ハ偶生ノモノタルニ拘ハラス)ヲ有スル乙某ナル婦女ヲ之ト婚姻スル(婚姻シ又ハ汚ス或ハ何レノ他人ニ結婚セシメ又ハ汚サシムル)意ヲ以テ斯ノ如キ場合ニ於テ爲サレ及設ラレタル條例法ノ制定ニ反シ及我女帝陛下ノ治安帝權及威權ニ反シテ惡意ヲ以テ及利慾ノ點ヨリ該乙某ノ意ニ反シテ略取シ及拘留シ(略取シ又ハ拘留シ)タリシ事ヲ其宣誓ノ上訴ス、
 財產ノ部分ノ性質ヲ一般ニ記セル告示ヲ附加スヘシ而テ若シ意カ疑シケレハ之ヲ異ニスル告示ヲ附加スヘシ從前ハ若シ一婦女カ一郡ニ於テ強テ略取サレ而テ他ノ郡ニ於テ繼續ノ強迫ナシニ該婦ノ承諾ヲ以テ結婚サレ又ハ汚サレ

タレハ犯罪ハ何レノ郡ニ於ルモ遂ケラレタルモノニアラサリキ而テ犯罪人ハ告訴サレ能ハサリキ然レモ現今ハ實地ノ婚姻又ハ汚辱カ緊要ニアラサルカ故ニ此難事ハ起リ能ハサルナリ
 重罪、終身又ハ三年ヨリ少ラサル懲役(譯者按スルニ條例法ノ部ニハ十四年ニ超過セス三年ヨリ少テラサレ期限ノ懲役トアリ此處ニハ終身又ハ云々トアリ)或ハ苦役アル又ハナキ二年ニ超過セサル禁獄、
 又ハナキ二年ニ超過セサル禁獄、
 第二十五年ノ條例法第百章第五十三條
 此罪ハ何レノ四委裁判期ニ於テ訊問サレヘキモノニアラス、
 ヲ井クトリヤ女帝即位第二十四年及
 第二十五年ノ條例法第三十八章第一條

証據

被告人ハ乙某ヲ其意ニ反シテ略取シ及拘留セシ事ヲ証明スヘシ若シ乙某カ最初其承諾ヲ以テ略取サレタリト雖モ其後續テ犯罪人ト共ニ

四六五

在ルヲ拒ミ而テ強テ被告人ニ拘留サレタルハ犯罪ハ條例法内ニアル
ナリ又若シ乙某カ強テ略取サレタルニ其後其承諾ヲ以テ婚姻サレ又
ハ汚サレタルハ是ハ條例法内ニアルヘシ如何トナレハ犯罪人ハ原來
斯ノ如キ卑劣ナル手段ニ依テ自己ノ權内ニ得タル婦女ノ軟弱ニ乘シ
テ之ヲ壓制シタルヲ以テ條例法ノ正條ノ範圍ヲ脱スヘカラサレハナ
リ假令ヘ乙某カ其承諾ヲ以テ略取サレ而テ結婚サル、ト雖モ然レモ
若シ是カ欺騙ノ手術ニ依テ爲サレタルハ是ハ條例法内ノ一事件タル
カ如シ如何トナレハ該婦ハ欺騙ノ感得中ニ在ル間ハ自主自由ノ人ト
考量サレ能ハサレハナリ乙某ハ告訴狀ニ記サレタル而テ利慾ノ點カ
認定セラル、トテ得ル利益ヲ有セシ事ヲ亦證明スヘシ告訴狀ニ記サ
レタル意ヲ被告人ノ告知又ハ所爲ニ依テ又ハ意カ推定セラル、トテ
得ル狀況ニ依テ證明スヘシ舊法ニ依レハ婦女ハ婚姻サレ又ハ汚サレ

五六五

サル可テサリキ然レモ是ハ婚姻シ又ハ汚ス意カ充分ナルヲ以テ今ハ
既ニ不要トナレリ婦女ハ假令ヘ婚姻シタリト雖モ犯罪人ニ對スル証
ハタルヲ得如何トナレハ假令ヘ該婦女ハ實際其妻タリト雖モ正當
ニ其妻タラサレハナリ同一ノ理由ニ依リ婦女ハ假令ヘ婚姻ノ日ヨリ
被告人ト同居シタリト雖モ此罪ニ對スル告訴上被告人ノ爲ノ適當ナ
ル証人ナリ
犯罪人ハ婦女ノ不動産ノ法律上又ハ公平法上ノ何レノ利益又ハ該婦
女ハ何レノ斯ノ如キ利益ヲ有スル又ハ何レノ相續人等トシテ其得ヘ
キ不動産ノ法律上ノ又ハ公平法上ノ利益ヲ取ルヲ得サルナリ而
テ若シ婚姻カ爲サレタルハ財産ハ犯罪人ノ決罪ノ上ハチヤンセリ
一裁判所カ檢事長ノ訴訟ニ於ル告發ニ付テ命令スルカ如キヲ方法
ヲ以テ決定セラルヘシ(ヴヰクトリヤ女帝即位第二十四年及第二十

六六五

五年ノ條例法第百章第五十三條(年齢二十一歳以下ノ婦女ヲ欺騙ヲ以テ略取スルコト)ニ對スル第五十三條中ノ款條并又婚姻スル等ノ意ヲ以テ強テ婦女ヲ略取スルコトニ對スル第五十四條ノ款條ハ新シキモノナリ

年齡十六歳以下ノ少女ノ略取

條例法

グヰクトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第五十五條——何人ト雖モ不正ニ年齡十六歳以下ノ何レノ未婚ノ少女ヲ其父又ハ母ノ所有内ヨリ及此等ノ者ノ意ニ反シテ又ハ該少女ノ正當ノ監督又ハ保守ヲ爲ス何レノ他ノ人ノ所有内ヨリ及此人ノ意ニ反シテ取り又ハ取ラシムル者ハ輕罪ノ罪アル者タルヘシ而テ之ニ付テ決罪サルレハ裁判所ノ裁量ヲ以テ苦役アル又ハナキ二年ニ超過セサル

何レノ期限ノ禁獄ニ處セラレヘキ責アル者タルヘシ

告訴狀

起文ハ前項ノ例ノ如シ——當時年齡十六歳以下ノ即チ十五歳ノ未婚ノ少女タル乙某ナル者ヲ其父ナル丙某ノ所有内ヨリ及其意ニ反シテ(其父又ハ母ノ所有内ヨリ及其等ノ者ノ意ニ反シテ又ハ少女ノ正當ノ監督又ハ保守ヲ爲ス何レノ他ノ人ノ所有内ヨリ及其人ノ意ニ反シテ)斯ノ如キ場合ニ於テ爲サレ及設ラレタル條例法ノ制定ニ反シ及我女帝陛下ノ治安帝權及威權ニ反シテ不正ニ取り及取ラシメタリシ云々」
「未婚ノ少女タル」ノ告白ハ充分ナルモノナリ

輕罪、苦役アル又ハナキ二年ニ過超セサル禁獄、グヰクトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第五十五條

七六五

此罪ハ何レノ四季裁判期ニ於テ訊問サレヘキモノニアラス、グヰクト

リヤ女帝即位第五年及第六年ノ條例法第三十八章第一條
証據

被告人ハ乙某ヲ其父ノ保守内ヨリ又ハ其正當ノ監督又ハ保守ヲ爲ス
人ヨリ取りシ事ヲ証明スヘシ十六歳以下ノ庶出ノ娘ヲ其假定ノ父ノ
管守内ヨリ取り去ルハ此條例法中ノ犯罪ナリ父ノ死亡ノ上ハ母ハ假
令再嫁スルト雖モ父カ其子ノ管守ヲ他人ニ委托シタリシニアラサレ
ハ母ノ權ヲ保有ス第二ノ夫ノ承諾ハ緊切ニアラサルナリ乙某ハ其監
督又ハ保守ヲ爲セシ人ノ意ニ反シテ取去ラレシ事モ亦証明スヘシ若
シ被告人カ詐欺及欺騙ノ陳述ニ依テ兩親ヲシテ其子ヲ取去ルヲ被告
人ニ許ルサジメタレハ是ハ條例法内ノ略取ナリ若シ親カ一回承諾ス
ルト雖モ其後拒マハ其後ニ取去ルハ親ノ意ニ反シテト云ハレ能フ
乎否ハ疑ハシキカ如シ且親ノ承諾ニ反シテト雖モ一時保守ヲ爲ス者

ノ承諾ニ依テ少女ヲ取去ルハ犯罪タルヘキ乎否ハ條例法ニ依テ明白
ニアラサルナリ少女ノ母カ夜中獨リ家外ニ出テ而テ酒店ニ於テ踏舞
ヲ爲スヲ之ニ許シテ放縱ナル行狀ヲ獎勵シタリシニ該少女ハ一酒店
ヨリ被告人ト共ニ脱走セシ場合ニ於テ判事長コツクボルンハ該少女
ハ條例法ノ意味内ノ母ノ意ニ反シテ取去ラレタルト云ハレ能ハスト
命令シタリキ乙某ハ年齢十六歳以下ニシテ未婚ナリシ事ヲ証明スヘ
シ被告人ハ乙某ヲ十六歳以下ト知ラサリシ又ハ其容貌ヨリ該女ハ尙
年長ナリト想像スルヲ得シトノ事ハ辨護ヲラサルナリ若シ乙某カ
十歳以下ノモノニシテ腕力又ハ欺騙ニ依テ取去ラレタリセハ被告人
ハ次項ノ例ニ於ルカ如ク告訴サレサル可ラス
所爲取去ル所ハ確實ニ禁止サレタリ而テ是故ニ惡意ノ無キ事ハ告訴
ニ對スル答辨ヲラサルナリ故ニ被告人ハ少女ヲ誘引シテ自己ト共ニ

脱走シ而テ自己ト婚姻セシメシカ爲ニ愛戀者ノ普通ノ諂媚ヨリ以外
 ノ手段ヲ用サリシ事ハ正當ノ辨解ト認ラレサリキ、取ル事ハ實ノ又
 ハ解釋上ノ腕力ニ依テニアルヲ要セス且少女カ承諾スルトセサルト
 ハ不緊切ナリ被告入カ夜中少女ノ父ノ家ニ至リ而テ少女ノ室ノ窓ニ
 階梯ヲ立掛ケ而テ少女ノ降下スル爲ニ之ヲ保持シ少女ハ降下シ而テ
 被告人ト共ニ脱走セシ場合ニ於テ是ハ假令ヘ少女カ自ラ此方略ヲ被
 告人ニ授ケシト雖モ條例法内之少女ヲ其父ノ所有内ヨリ取ル事ト認
 ラレタリキ又少女カ父ノ承諾ナシニ其父ノ家ヲ去リ而テ共ニ脱走ス
 ヘク被告人ニ説諭サレ而テ是故ニ該少女ハ豫テ被告人ト議定セル手
 續ニ依テ只獨リ其家ヲ去リ而テ豫テ期セシ場所ニ行キ被告人ニ出會
 シ而テ后再ヒ歸ルノ思念ナシニ共ニ脱走セシ場合ニ於テ是ハ條例法
 内ノ少女ヲ父ノ所有内ヨリ取ル事ト認ラレタリキ如何トナレハ該少

女ハ其被告人ト出會ノ時マテハ全ク其父ノ保護ヲ棄却セサリシカ故
 ナリ又被告人カ少女ト同意シテ之ニ出會シ而テ之ト同寢シテ數夜間
 其父ノ家ニアラサル所ニ共ニ宿泊セリ而テ陪審官ハ父カ承諾セサリ
 シ事、被告人ハ父カ承諾セサルヲ知リシ事及被告人ハ其情慾ヲ遂ケ而
 ル后少女ヲ家ニ歸ラシムル爲ニ之ヲ取去リ永遠之ヲ其家ニ歸ラサラ
 シムルノ意ヲ以テ取去ラサリシ事ヲ發見セシ場合ニ於テ決罪ハ正當
 ト認ラレタリキ然レモ若キ婦女カ十六歳以下ノ少女ニ其(被告人ノ)母
 カ雇人ニ少女ヲ要セシ事及五磅ノ給金ヲ附與スヘキ事ヲ告ケテ該少
 女ノ父ノ家ヲ去リ該婦ト共ニ倫敦府ニ行クヘク説キ勸メ而テ該少女
 カ此目的ヲ以テ隨意ニ其父ノ家ヲ去リシ場合ニ於テ是ハ條例法内ノ
 取ル事ニアラサト認ラレタリキ

年齢十歳以下ノ兒童ヲ竊取スル事

條例法

サキトリア女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第五十
 六條——何人ト雖モ不正ニ腕力又ハ欺騙ニ依テ年齡十歲以下ノ何レ
 ノ兒童ヲ何レノ親後見人又ハ斯ノ如キ兒童ノ正當ノ監督又ハ保守ヲ
 爲ス何レノ他ノ人ヨリ斯ノ如キ兒童ノ所有ヲ奪フ意ヲ以テ或ハ斯ノ
 如キ兒童ノ身邊ノ何レノ物品ヲ何人ニ斯ノ如キ物品カ屬スルトモ竊
 取スル意ヲ以テ誘拐シ又ハ取去リ又ハ誑惑シ又ハ誘引シ又ハ拘留ス
 ル者及何人ト雖モ何レノ斯ノ如キ意ヲ以テ何レノ斯ノ如キ兒童ヲ本
 條中前ニ記載サレタル如ク腕力又ハ欺騙ニ依テ誘拐サレ取去ラレ誑
 惑サレ誘引サレ又ハ拘留サレタリト知リツ、之ヲ接待シ又ハ藏匿ス
 ル者ハ重罪ノ罪アル者タルヘシ而テ之ニ付テ決罪サレハ裁判所ノ
 裁量ヲ以テ七年ニ超過セス三年ヨリ少ラサル何レノ期限ノ懲役或ハ

苦役アル又ハナキ及獨囚アル又ハナキ及若シ年齡十六歲以下ノ男子
 ナレハ答刑アル又ハナキ二年ニ超過セサル何レノ期限ノ禁獄ニ處セ
 ラレヘキ責アル者タルヘシ然レモ斯ノ如キ兒童ノ所有ノ何レノ權利
 ナ請求シタルヘキ人ハ斯ノ如キ兒童ノ所有ヲ得タル又ハ之ヲ其正當
 ノ保守ヲ爲ス何レノ人ノ所有内ヨリ取リタル爲ニ本條ノ權ニ依テ告
 訴サレヘキ責アル者タラサルヘシ

告訴狀

起文ハ前々項ノ例ノ如シ——當時年齡十歲以下即チ年齡七歲ノ兒童
 タル乙某ナル者ヲ當時之ニ依テ斯ノ如キ兒童ノ父親又ハ兩親又ハ斯
 ノ如キ兒童ノ正當ノ監督又ハ保守ヲ爲ス何レノ他ノ人ナル丙某ヨリ
 斯ノ如キ兒童ノ所有ヲ奪フ意ヲ以テ斯ノ如キ場合ニ於テ爲サレ及設
 ラレタル條例法ノ制定ニ反シ及我女帝陛下ノ治安帝權及威權ニ反シ

テ惡意ヲ以テ及不正ニ腕力腕力又ハ欺騙ニ依テ誘拐シ及取去リ(誘拐
 シ又ハ取去リ又ハ誑惑シ又ハ誘引シ又ハ拘留シ)タリシ云々(第二ノ告
 示)——而テ上文所陳ノ陪審員ハ該甲某カ其後即チ上文所陳ノ年及日
 ニ於テ當時年齡十歳以下即チ年齡七歳ノ兒童ナル該乙某チ當時之ニ
 依テ該兒童ノ身邊ニ在ル數種ノ物品(斯ノ如キ兒童ノ身邊ノ物品何人
 ニ斯ノ如キ物品カ屬スルトモ)詳言スレハ一個ノ首飾等物品ヲ記スヘ
 シヲ惡意ヲ以テ竊取シ取リ及持去ル意ヲ以テ斯ノ如キ場合ニ於テ爲
 サレ及設ラレザル條例法ノ制定ニ反シ及我女帝陛下ノ治安帝權及威
 權ニ反シテ惡意ヲ以テ及害心ヲ以テ腕力ニ依テ誘拐シ及取去リタリ
 シ事ヲ其上文所陳ノ宣誓ノ上尙訴フ、若シ必要ナレハ被告人ハ
 [欺騙ニ依テ誘引シタリシ]又ハ[欺騙ニ依テ拘留シタリシ]又ハ[腕力ニ依
 テ拘留シタリシ]事等ヲ記セル告示ヲ附加スヘシ

重罪、七年ニ超過セズ三年ヨリ少ラサル懲役或ハ苦役アル又ハナキ
 及獨囚(獨囚ハ何レノ一回一ヶ月ニ超過セズ又一年間三ヶ月ニ超過セ
 ス)ザ井クトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第
 七十條アル又ハナキ及若シ年齡十六歳以下ノ男子ナレハ答刑アル又
 ハナキ三年ニ超過セサル禁獄(井クトリヤ女帝即位第二十四年及第
 二十五年ノ條例法第百章第五十六條

證據

被告人ハ兒童ヲ取去リ及誘引セシ事兒童ハ年齡十歳以下ナリシ事ヲ
 證明スヘシ而テ意ヲ陪審官カ之ヲ推定スルヲ得ル狀況ヨリ證明ス
 ヘシ丙某ハ兒童ノ父ナリシ事ノ證明ハ第一ノ告示ニ記サレタル意ヲ
 證明スヘシ如何トナレハ兒童ヲ取ルコトノ自然ノ效果ハ父ヨリ其所有
 ナ奪フニアラサルヘカラサレハナリ被告人ハ兒童ノ所有ニ權利ヲ有

スルヲ請求セシ事ヲ証明スルコトヲ得如何トナレハ斯ノ如キ人ハ特別ニ條例法ノ本條ノ功用ヲ免ルレハナリ、ウヰクトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第五十六條

第六節 強姦等

婦女ヲ強姦スル事

條例法

第一世エドワート帝即位第十三年ノ條例法第三十四章——若シ人カ結婚セル婦女處女又ハ他ノ婦女ヲ是カ前ニモ亦後ニモ承諾セサリシ場合ニ於テ強姦セハ此人ハ生命ノ及四肢ノ裁判ヲ有スヘシ若シ婦女カ後ニ承諾セシト雖モ然レモ國帝ハ訴訟ヲ有スヘシトノ事カ制定サレタリ
ウヰクトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第四

十八條——何人ト雖モ強姦ノ罪ニ付テ決罪サル、者ハ重罪ノ罪アル者タルヘシ而テ之ニ付テ決罪サルレハ裁判所ノ裁量ヲ以テ終身又ハ三年ヨリ少ラサル何レノ期限ノ懲役或ハ苦役アル又ハナキ二年ニ超過セサル何レノ期限ノ禁獄ニ處セラレヘキ責アル者タルヘシ

第六十三條——姦淫ノ解釋——此條例法ニ依テ罰スヘキ何レノ罪ノ訊問上姦淫ヲ証明スル事カ緊要タルコトヲ得ル時ハ毎ニ姦淫ヲ成ス爲コハ實ノ發精ヲ証明スルハ緊要ニアラサルヘシ然レモ姦淫ハ只没入ノ証明ノミニ依テ完全ト思量セララルヘシ

告訴狀

即チ中央刑事裁判所——我女帝陛下ノ爲ノ陪審員ハ甲某カ我教主紀元何年六月一日ニ於テ上帝及當時ノ我女帝陛下ノ治安中乙某ナル者ニ對シテ粗暴ニ及惡意ヲ以テ攻撃ヲ爲シ而テ當時該乙某ヲ粗暴ニ及

其意ニ反シテ惡意ヲ以テ斯ノ如キ場合ニ於テ爲サレ及設ラレタル條
 例法ノ制定ニ反シ及我女帝陛下ノ治安帝權及威權ニ反シテ強姦シ及
 姦淫シタリシ事ヲ其宣誓ノ上訴フ 甲カ強姦ヲ爲セシ事及丙カ
 其場ニ在リテ重罪ヲ犯スニ甲ヲ加功幫助シタリシ事ヲ告訴スル告訴
 狀ハ善良ナリ如何トナレハ加功幫助スル者ハ第一等正犯(如何トナレ
 ハ其者ハ法律ニ於テハ第一等正犯ナリシカ故ニ)トシテ又ハ第二等正
 犯(如何トナレハ其者ハ事實ニ於テハ第二等正犯ナリシカ故ニ)トシテ
 告訴セラル、トテ得レハナリ強姦ニ於テ第一等正犯並他人ノ加功者
 及幫助者トシテ告訴サレタル一被告人ノ決罪ハ之ヲ正犯トシテ告訴
 スル告示ヲ以テ効力アルモノナリ而テ斯ノ如キ告訴狀ニ付テ被告人
 及他人カ順次相互ニ幫助シテ同時ニ同シ婦女ニ對シテ數回ノ強姦ヲ
 爲シタル事ノ證據カ告訴人ヲシテ何レノ告示ニ付テ告訴ノ手續ヲ爲

スヘキ乎ヲ撰定セシムルトナシニ呈セラレ、トテ得
 被告人カ乙某ニ對シテ惡意ヲ以テ及粗暴ニ爲シ「攻撃」ナル言語ヲ遺服
 シテ而テ當時該乙某ヲ其意ニ反シテ粗暴ニ及惡意ヲ以テ云々強姦シ
 及姦淫シタリ「事ヲ告訴スル告訴狀ハ裁判停止ノ効アルモノト認ラレ
 タリキ」姦淫スル「ナル言語ノ遺漏ハ止訟答辨上告訴狀ヲ不正ノモノト
 ナスナリ然レモ斷定ノ後ニハ不正ノモノトナサ、ルカ如シ
 重罪、終身又ハ三年ヨリ少サラサル懲役或ハ苦役アル又ハナキ二年ニ
 超過セサル禁獄、ウ井クトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條
 例法第百章第四十八條、此罪ハ何レノ四季裁判期ニ於テ訊問サレヘキ
 モノニアラス亦ウ井クトリヤ女帝即位第五年及第六年ノ條例法第三
 十八章第一條ヲ見ルヘシ

證據

甲某——若シ被告人ハ年齢十四歳以下ノ者ナル事カ証明サレタレハ其被告人ハ之ニ對スル証據ノ性質如何ニ拘ハラヌ放免サレサル可ラヌ如何トナレハ年齢十四歳以下ノ少年ハ強姦ヲ犯シ能ハサル者ト法律上認定サレ而テ此認定ハ第四世ヨリシ帝即位第九年ノ條例法第三十一章第十八條ニ依テ動サレサレハナリ被告人ハ實ニ成年ノ完全ナル有様ニ達シ而テ該罪ヲ犯スコトヲ能スルモノナリシ事ヲ示ス之ニ對スル証據モ亦許容スヘキニアラス夫ハ其妻ニ對シテ強姦ノ罪アル者タルコトヲ得ス然レモ夫並年齢十四歳以下ノ童子ハ第二等正犯タルコトヲ得而テ現場ニ在テ加功幫助シタル爲ニ罰セラル、コトヲ得(第一編第一部第一章第二節ヲ見ルヘシ)

該乙某ヲ粗暴ニ及其意ニ反シテ——強姦ハ乙某ニ對シテ強テ及其承諾ナクシテ犯サレシ事カ證明サレサル可ラス但シ假令ヘ該女ハ死亡

又ハ脅迫ノ懼ヨリ服從セシト雖モ是ハ強姦ナリ若シ該女カ被告人ヨリ飲シメラレタル飲料ニ依テ知覺ナキ間ニ之ヲ姦淫セハ(假令ヘ飲料ハ只該女ヲ挑撥スルノミノ目的ヲ以テ附與サレタリト雖モ)是ハ強姦ナリ或ハ若シ是非ヲ辨別スル能ハサル蠢愚ノ婦女ヲ姦淫シ而テ陪審官ハ該女ハ承諾ヲ爲スコトヲ能セス又ハ姦事ニ付テ判斷力ヲ使用スルコトヲ能セサル者ナル事及(假令ヘ該女ハ敢テ抵抗ヲ爲サ、リシト雖モ)被告人ハ強テ及其承諾ナクシテ之ヲ姦淫セシ事ヲ發見シタレハ是ハ強姦ナリ若シ強姦罪カ後ニ強テ又ハ婦女ノ意ニ反シテ犯サレタレハ該女カ最初承諾セシ事ハ辨解タラヌ該女ハ姦淫ノ後ニ至テ承諾セシ事モ亦辨解タラサルナリ婦女ハ普通ノ娼妓ナリシ又ハ強姦者ノ妾ナリシ事ト雖モ辨解タラサルナリ尤モ斯ノ如キ狀況ハ姦淫カ婦女ノ承諾ニ反シテ爲サレシ事ノ事實ノ或ハ實ヲシキコトニ付テ必ラス大ニ陪

審官ノ思慮ヲ要セサル可ラス
 婦女ヲシテ自己ヲ其夫ト想像セシムル欺騙ニ由テ之ヲ姦淫スルハ強姦トナラサルナリ然レモ斯ノ如キ場合ニ於テハ姦淫者ハ攻撃ニ對シテ告訴サレヘキ責アル者ナルハ疑ヲ容ル、能ハサルナリ醫員カ年齢十四歳以下ノ少女ヲ其疾病ノ治療ニ虚託シテ之ヲ姦淫シ而テ少女ハ其斯ノ如キハ治療ナルヲ善意ヲ以テ信スルヨリ敢テ抵抗ヲ爲サ、リシ場合ニ於テ是ハ必然攻撃ト認ラレ且又或ハ強姦ト認ラレタリキ強姦サレタル婦女ハ強姦及事件ノ各ノ他ノ部分ヲ證明スヘキ適當ナル證人ナリ然レモ其婦女ノ證據ノ信スヘキ事及其婦女ハ其證據ノ符合スル事實ノ狀況上如何ノ度マテ信セラレヘキ乎ハ陪審官ニ委任サレサル可ラス例ヘハ若シ証人ハ善良ナル名望アルモノナレハ、若シ該證人ハ即時ニ犯罪ヲ發露シ而テ犯罪人ノ搜索ヲ爲シタレハ、若シ被告

人カ之カ爲ニ逃走シタレハ、是等及之ニ類スル事ハ其證人ノ證據ニ大ナル實ラシキ事ヲ附與スル符合ノ狀況ナリトス然レモ之ニ反シテ若シ該證人ハ醜名ヲ負フモノニシテ他人ノ證據ヲ以テ維持サレサレハ若シ其證人ハ告訴スヘキ機會ヲ得シ後久シク被害ヲ隱蔽シタレハ、若シ強姦カ犯サレタリト辨セラレシ場所ハ若シ其證人カ聲ヲ發シタレハ其聲ヲ他人ニ聞カル、コトヲ得シコトノ成ルヘキ所ナリシニ叫喚ヲ爲サ、レハ、是等ノ及之ニ類スル狀況ハ其證人ノ證據カ詐偽又ハ虚妄タルノ決定スヘキ認定ニアラスト雖モ確實ナル認定ヲ有ス、被告人ハ婦女ノ貞操又ハ節義ノ缺乏ノ爲ニ著シキ不良ノ性質ノ證據ヲ呈シ又ハ其婦女ハ豫テ被告人ト姦通シタリシ事ノ證據ヲ呈スルコトヲ得ルト雖モ其貞操ヲ非難スヘキ何レノ他ノ特別ノ事實ノ證據ヲ呈シ能ハサルナリ然レモ若シ對質上婦女カ被告人ヨリ他ノ人ト姦通ヲ爲シタルコト

ヲ拒否セハ是等ノ他人ハ該女ノ證據ヲ拒ム爲ニ召喚セラル、トテ得
 又婦女カ強姦サル、トノ成ルヘキトテ防クカ如キ程姦淫ノ後直チニ
 自ラ發言セシ事ハ所業ノ一部トシテ證據ノ爲メ許容スヘキモノト認
 テレタリキ然レモ其婦女ノ告訴ノ詳細ハ其陳述ノ正實ノ證據タラス
 且其審問ニ於テ問ハレ又ハ他ノ證據ニ依テ証明サレ能ハサルナリ而
 テ假令ハ婦女ハ強姦ノ罪ヲ犯シタリトシテ人ヲ指名スル乎否ヲ問ハ
 ル、トテ得ルト雖モ何人ノ姓名カ記サレシ乎ヲ問ハレ能ハサル事カ
 命令サレタリキ然レモ此命令ノ確實ナル乎否ハ疑ハレタリキ
 強姦シ及姦淫シヨリ——強姦ノ罪ヲ成スニハ必ラス没入ナカル可ラ
 ス尤モ甚タ僅々ノ没入タリトモ充分タルヘシ没入カ証明サレタリト
 雖モ處女膜ヲ破ルカ如キ深サニ至ラサル場合ニ於テモ猶是ハ強姦ノ
 罪ヲ成スニ充分ト認ラレタリキ然レモ近時ノ一事件ニ於テ處女膜カ

破ラレサリシ事カ顯著ナリシ場合ニ於テ判事ガル子「ハ没入カ此罪
 ナ成スニ充分トラスト命令シタリキ然レモ此事件ノ判決ハ其後明白
 ニ廢棄サレタリキ
 第四世シヨ「シ帝即位第九年ノ條例法第三十一章第十八條「ハ井クト
 リヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第百章第六十三條中
 ニ再制定サレタル頒布前ハ發精ヲ証明スル事モ亦緊要ナリキ發精ハ
 婦女カ之ヲ感覺セシトノ證據ヲ以テ的切ニ証明セラル、トテ得タリ
 キ或ハ是ハ狀況ヨリ例ハ被告カ告訴人ヲ姦シタル後故障ナリ隨
 意ニ起立シタリシ事ノ如キ狀況ヨリ認定セラル、トテ得タリキ該條
 例法カ姦淫ヲ爲スニハ眞ノ發精ヲ證明スルヲ不緊要ト爲シ而テ姦淫
 ハ只没入ノミノ証明ヲ以テ完全ナルモノト思量セラルヘシト豫定セ
 リ假令ハ陪審官カ發精ヲ拒否スル時或ハ狀況ハ決シテ發精アラヌ又